

平成21年度

公立大学法人 島根県立大学

# 地域連携活動 報告書

年報 第2号



地域と共に あなたのそばに…

はじめに

本「公立大学法人島根県立大学 地域連携活動報告書」の発行は、前年平成20年度版について2冊目の「第2号」となる。平成21年度の活動について報告・紹介している。

大学の地域連携・社会貢献活動というのは、本地域連携推進センターが直接関わる公開講座等の事項だけでなく、大学主催の公開講演会や、北東アジア地域研究センターの活動、学生の地域社会活動など多岐にわたっている。

本年の報告書では、それらをすべてカバーすることはしないが、できるかぎり後年に記録を残すべき事項で他のセンター活動報告書等でカバーされていないものについても拾うよう努めてみた。

過去一年の地域連携活動をふりかえると、本部では地域連携推進室が新設され、嘱託事務員が配置されるようになったこと、また三キャンパスの地域連携活動がより機構的に取り組まれるようになってきたこと（会議の開催、ホームページでの社会貢献活動の紹介等）がある。また大学と地域との連携協定については、浜田市、松江市に次いで出雲市との協定が締結された点がある。

また、本田雄一新学長のもとで、島根県立大学憲章が新たに制定された点が今後の大学としての地域連携推進活動にとって重要な点である。

この憲章では、前文において「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現していくことを目標として明示し、第三項には「地域の課題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を積極的に支援して、地域に貢献する」としている。地域連携推進活動は、「地域に開かれた大学」としての大切な役割のひとつ、本務のひとつとして位置づけられている。

これを道標として、これからの地域連携推進センターの活動を進めてゆきたいと思う。

2010年4月

島根県立大学地域連携推進センター長

井上 定彦

## 目 次

1. 地域連携推進センターの組織・運営・活動	
・ 地域連携推進センターの組織と運営	1
・ 地域連携推進センター運営規程	3
・ 本部会議名簿	4
・ 本部会議の開催状況	5
・ 公開講座の概要	7
・ その他活動の概要	12
・ 3キャンパスの個性を生かしつつ、協力体制を築く	21
2. 各キャンパスの活動記録	
・ 浜田キャンパス	23
・ 松江キャンパス	33
・ 出雲キャンパス	63
3. 参考	
・ 大学憲章	82
・ 地域連携に係る学長の考え ～第4回本部会議の学長挨拶より～	83
・ 「島根地域政策支援のための大学の役割と可能性に関する研究会」報告書	88
・ 自治体との協定書等	99
・ 地域連携推進センターのリーフレット	108

## 地域連携推進センターの組織と運営

公立大学法人島根県立大学・地域連携推進センターは、2007年4月、大学の法人化とともに設立された。法人化にあたっては、それぞれ設立の経緯と役割が異なる浜田キャンパス、松江キャンパス、出雲キャンパスという（いずれも島根県によって設立された）3つのキャンパスの統合も、同時に行われた。

このため、3つのキャンパス毎に地域連携推進センター運営会議を設ける（3人の副センター長が各キャンパスの運営会議を統括する）一方、3つのキャンパスを調整・統括する組織として、地域連携推進センター本部運営会議を設置している。

各キャンパスの運営会議は、副センター長ほか6～7名の委員と事務局職員により運営され、おおよそ月1回開催されている。

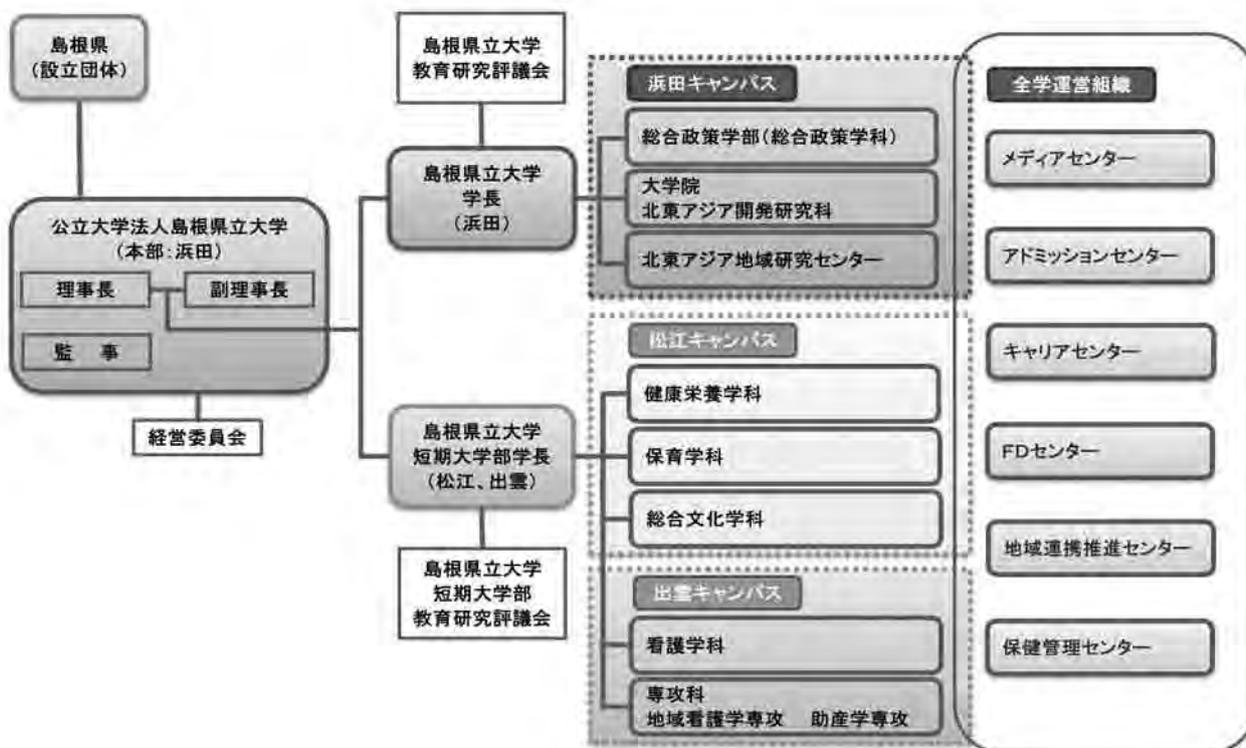
本部運営会議は、センター長、3名の副センター長、事務局研究企画課長（注：2010.4～交流研究課長）の計5人が委員で、これに各キャンパスの事務局職員が加わり、おおよそ2月に1回開催されている。

地域連携推進センターは、独自の事務局組織や専任職員を持っていない。松江・出雲キャンパスは管理課が、浜田キャンパスと本部は研究企画課（注：2010.4～交流研究課）が、それぞれ数ある業務の一つとして所掌している。2009年度に研究企画課に「地域連携推進室」が新設されたが、室員4名の内3名は他業務を兼ねており、補助業務を行う嘱託職員1名のみが専任である。

「地域連携推進室」では対外的な「総合窓口」としての役割、3キャンパス間の調整にあたっている。また、全学レベルでは理事長・センター長会議という全学調整を目的とした会議において連絡調整が図られている。

## 【島根県立大学の組織図】

H21.5.1 現在



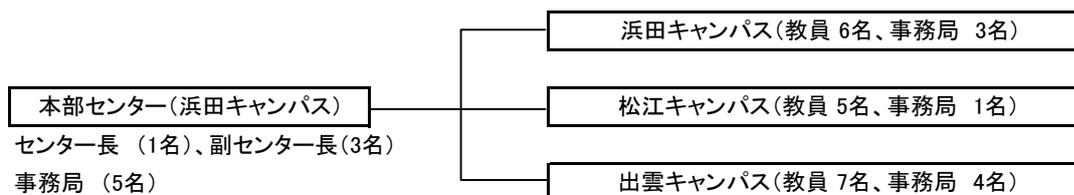
### ◆学生・教職員等の状況

H21.5.1 現在

	浜田キャンパス		松江キャンパス			出雲キャンパス	
	総合政策学部	大学院	健康栄養学科	保育学科	総合文化学科	看護学科	専攻科
学生数	1023名(男:596名、女:427名)		493名(男41名、女:452名)			301名(男:27名、女:274名)	
	984名	39名	82名	103名	308名	256名	45名
教員数	50名		34名			33名	
職員数	43名		15名			16名	

### ◆地域連携推進センターの組織

H21.5.1 現在



※本部センター及び各キャンパスの教職員はいずれも兼務

# 島根県立大学・島根県立大学短期大学部地域連携推進センター運営規程

平成19年4月1日

規程第8号

(目的)

**第1条** この規程は、公立大学法人島根県立大学組織規則（平成19年規則第2号。）第27条に規定する地域連携推進センター（以下「センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(業務)

**第2条** センターは、次の業務を行うものとする。

- (1) 地域からの要望・相談対応窓口に関すること。
- (2) センターの広報活動に関すること。
- (3) 公開講座等の生涯学習の実施に関すること。
- (4) 産公学連携に関すること。
- (5) その他地域との連携推進に関すること。

(センター長)

**第3条** 地域連携推進センター長（以下「センター長」という。）は、前条に規定する業務について、島根県立大学及び島根県立大学短期大学部の各キャンパス間の調整を図り、学長の指揮の下、各大学のセンター業務を統括する。

(副センター長)

**第4条** 地域連携推進センター副センター長（以下「副センター長」という。）は、担当するキャンパスにかかる第2条に規定する業務を掌理する。

(運営会議)

**第5条** センター長は、各キャンパス担当の副センター長及び第2項に規定するキャンパス運営会議の構成員の中からセンター長が指名する教職員をもって、センター運営会議を組織する。

- 2 副センター長は、キャンパス毎に学長が指名する教職員をもってキャンパス運営会議を組織し、センターの業務を行う。
- 3 センター長及び副センター長は、必要があると認めるときは、前二項の運営会議に構成員以外の者を出席させ、意見を述べさせることができる。

(補則)

**第6条** この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

平成21年度 公立大学法人島根県立大学  
地域連携推進センター本部運営会議 名簿

(任期:H21.4.1~H22.3.31)

キャンパス	職名	氏名	備考
本部	教授	井上 定彦	地域連携推進センター長
松江キャンパス	教授	山下 由紀恵	地域連携推進センター副センター長
	管理課長	塩毛 利生	
出雲キャンパス	教授	石橋 照子	地域連携推進センター副センター長
	管理課長	恩田 晴夫	
	主事	植田 晃次	
浜田キャンパス	教授	林 秀司	地域連携推進センター副センター長
	研究企画課長	島田 成毅	
	主任	藤原 秀樹	
	主事	上田 英和	
	嘱託	竹根 美雪	

# 地域連携推進センター本部運営会議の開催状況

## 第1回

○日時：平成21年6月19日（金）10:00～12:30

○場所：出雲キャンパス 大会議室

### 【報告】

平成20年度事業実績について

### 【議題】

- (1) 「平成20年度活動報告書」及び「あり方に関する報告書」について
- (2) 平成21年度事業計画、スケジュールについて
- (3) 教員リスト作成について
- (4) 各種講座のあり方について
- (5) ホームページについて

## 第2回

○日時：平成21年11月24日（火）15:00～17:00

○場所：各キャンパステレビ会議室

### 【議題】

- (1) 今後の公開講座について
- (2) パンフレットの作成について
- (3) 平成21年度計画進捗状況について
- (4) その他（規程の整備について）

### 【報告】

- (1) H22新規要求事業について
- (2) 「島根地域政策支援のための大学の役割と可能性に関する研究会」について
- (3) 「出前講座 in 奥出雲町」について
- (4) H20活動報告書について
- (5) ホームページについて

## 第3回

○日時：平成21年12月21日（月）15:00～17:00

○場所：各キャンパステレビ会議室

### 【議題】

- (1) 「H21計画業務実績原案」及び「H22計画原案」の作成について
- (2) 「H22予算要求案」について
- (3) 広報用リーフレットについて
- (4) H21活動報告書について
- (5) 今後の公開講座について
- (6) 委託・共同研究依頼への対応について

#### 第4回

○日時：平成22年1月28日（木）13:00～14:25

○場所：各キャンパステレビ会議室

##### 【学長挨拶】

大学憲章と地域連携推進センターの役割をはじめとして

##### 【議題】

- (1) 「H22計画原案」の作成について
- (2) 広報用リーフレットについて
- (3) その他（ホームページの改善点について）

##### 【報告】

広島県立大学三原地域連携推進センターのイベントについて

#### 第5回

○日時：平成22年2月22日（月）14:00～15:20

○場所：各キャンパステレビ会議室

##### 【議題】

- (1) 「H22計画原案」の確定について
- (2) H21活動報告書の内容について
- (3) その他（H22年度の本部会議について）

##### 【報告】

広報用リーフレットについて

## 公開講座の概要

公開講座は全学的な連絡調整・協力をはかりながらも、キャンパス毎に独自の組み立てを行い、系統的に開催している。受講者は、3キャンパス毎に職業による特性、年齢層、受講者数に大きな相違がある。

松江キャンパスは、「椿の道アカデミー」の豊富なメニューにもとづき、一般教養関連についても、職業人としての学び直しの意味をもつ講座についても共に非常に多数の参加を得てきた実績があり、定員制限をせざるをえないときもあるほどである。

出雲キャンパスは、今回の社会人学び直し事業に関わって健康支援を中心とした地域支援のための事務局をおき、いくつかの市で独自の公開講座を開催しており、さらに地域の健康づくり、ガン患者と家族の支援などの活動も行っている。

浜田キャンパスは、主として高度で専門的な分野のテーマについてシリーズ講座を開催したり、高校生を対象に高校が主催した出張講座や、自治体が主催した出張講座に講師派遣を行っている。

共通しているのは、主に本学の各キャンパスを会場として開かれる公開講座に加えて、自治体をはじめとする地域や市民団体・経済団体からの要請に基づいて行われる出張講座や出前講座に講師を派遣しているという点である。

また、3つのキャンパス間の講師の相互派遣も行っており、昨年秋には、3キャンパス合同の出張講座も開催されたところである。

開催日時			講座名	講師	開催場所	受講者数 (のべ人数)
＜地域文化とまちづくり＞						
5月27日	(水)	18:20～19:50	歴史的町並みの保全と活用	林 秀司	中講義室 5	25
5月30日	(土)	13:50～15:20	松江市の歴史的建造物の保存と活用によるまちづくり	藤居 由香 (松江キャンパス)	中講義室 5	15
6月10日	(水)	18:20～19:50	芸術文化とまちづくり	八田 典子	中講義室 5	23
6月17日	(水)	18:20～19:50	川がっつなげるまちづくり～高津川からの報告	吉田 篤志 (アンダンテ21)	中講義室 5	32
＜北東アジア地域における経済関係＞						
6月24日	(水)	18:20～19:50	世界金融危機・大不況下における北東アジア地域の金融・経済の現状と見通し	小林 博	中講義室 5	21
7月1日	(水)	18:20～19:50	世界経済危機とロシアの労働者	林 裕明	中講義室 5	15
7月8日	(水)	18:20～19:50	パリに続けて牡丹祭りはロシアで！	ワジム・シローコフ	中講義室 5	12
7月22日	(水)	18:20～19:50	中国边境の地域産業発展戦略－寧夏回族自治区を事例として	松永 桂子	中講義室 5	16
＜本のチカラ＞						
5月23日	(土)	13:50～15:20	今そこにある大学図書館－地域と大学図書館－	上野 友稔 (図書情報課 司書)	メディアセンター	33
6月6日	(土)	13:50～15:20	多読で誰でも英語が上達する	ケイン エレナ アン	メディアセンター	28
6月27日	(土)	13:50～15:20	マキアヴェリの意外な顔「君主論」から	村井 洋	メディアセンター	18
7月25日	(土)	13:50～15:20	お気に入りの本、紹介してみませんか	山田 昌史	メディアセンター	8
＜地域文化とまちづくり＞						
10月28日	(水)	18:20～19:50	地域文化とふるさと教育	神 英雄 (石正美術館主任学芸員)	中講義室 5	31
11月4日	(水)	18:20～19:50	地域を支える石見神楽	川中 淳子	中講義室 5	30
11月11日	(水)	18:20～19:50	文化財から見た各地域のすがた	大橋 敏博	中講義室 5	15
11月28日	(土)	13:50～15:20	食で地域を育む	奥野 元子	中講義室 5	9
＜北東アジア地域における経済関係＞						
11月25日	(水)	18:20～19:50	金融危機の中国経済への影響について	張 忠任	中講義室 5	18

開催日時			講座名	講師	開催場所	受講者数 (のべ人数)
12月2日	(水)	18:20～19:50	世界経済危機と中国企業	唐 燕霞	中講義室5	18
12月16日	(水)	18:20～19:50	世界経済危機と東アジアの未来～変容する世界の構図	井上 定彦	中講義室3	16
<早期発達支援ブラッシュアップ講座>						
10月17日	(土)	14:00～16:00	発達スクリーニングの話	山下 由紀恵	交流センター 研修室	22
11月14日	(土)	14:00～16:00	発達アセスメントの話	山下 由紀恵	交流センター 研修室	19
12月5日	(土)	14:00～16:00	親支援とカウンセリングマインド	山下由紀恵・川中淳子	交流センター 研修室	25
小 計						449 人

## &lt;出張講座&gt;

開催日時			講座名	講師	開催場所	受講者数 (のべ人数)
6月25日	(木)		韓国大衆文化の情熱と哀切 ー韓国のドラマ・映画・歌謡ー	魁生 由美子	桜江町谷住郷 生涯学習C	40
8月28日	(金)		韓国のTVドラマと映画作品に韓国社会と人々の変化を観る	瓜生 忠久	桜江町谷住郷 生涯学習C	53
9月17日	(木)		映像で地域の魅力を伝えるには	瓜生 忠久	出雲高校	40
9月28日	(月)		韓国文化についての理解	呉 大煥	松江商業高校	44
9月29日	(火)		地域「協働」による島根づくり	吉塚 徹	大社高校	15
10月17日	(土)		①中山間地域における地域振興・人材育成 ②世話をし、世話をされていることを意識して、家族の力を高めよう ③健康に生きるための食生活	①堀内 好浩 (浜田) ②梶谷みゆき (出雲) ③名和田清子 (松江)	奥出雲町	68
10月29日	(木)		小学校英語教育について	ショーン・ホワイト	横田高校	20
11月4日	(水)		現代ロシアの文化と若者	ワジム・シローコフ	三刀屋高校	35
小 計						315 人

合 計						764 人
-----	--	--	--	--	--	-------

開催日時			講座名	講師	会場	受講者数 (のべ人数)	
10月24日	(土)	1400-1600	01.食と文化 (全3回)	出雲の祭事と食文化	藤岡大拙	大講義室	98
11月7日	(土)	1400-1600		もてなしの心・今昔	中村喜代数	大講義室	96
11月14日	(土)	1400-1600		ふるさと食文化よもやま話ー島根・三重編	奥野元子	大講義室	69
7月4日	(土)	1400-1600	02.早期発達支援ブラッシュアップ講座 (全4回)	発達スクリーニングの話	山下由紀恵	体育館研修室	29
8月1日	(土)	1400-1600		発達アセスメントの話	山下由紀恵	体育館研修室	23
8月22日	(土)	1400-1600		子どもに合わせた支援法の話	山下由紀恵	体育館研修室	25
9月5日	(土)	1400-1600		音楽療法のお話	武田千代美	音楽室	26
5月30日	(土)	1330-1600	03.健康な家族のために (全5回)	妊婦の生理的・心理的な特徴、家族が妊婦に対して配慮することはなにか/胎児の発生とそれに関わる因子、妊娠中に気をつける事とは	三島みどり、籠橋有紀子	体育館研修室	18
6月6日	(土)	1330-1600		お年寄りの家族のために	福澤陽一郎、名和田清子	体育館研修室	24
6月20日	(土)	1330-1600		働き盛りの家族のために	山下一也、岸本強	体育館研修室	21
7月4日	(土)	1330-1600		育ち盛りの家族のために	高橋恵美子、福井一尊	臨床栄養実習室	14
7月11日	(土)	1330-1600		地元の食材を使った郷土料理とその応用	奥野元子、坂根千津恵	臨床栄養実習室	20
7月11日	(土)	1300-1500	04.七夕おはなし会 (全1回)	堀川照代	体育館研修室	26	
5月28日～11月12日	(木)	1040-1210	05.源氏物語入門 (全9回)	三保サト子	大講義室	1,027	
5月21日～1月21日	(木)	1320-1450	06.キャンパス図書館で読書会を (全6回)	河原修一、飯島久美子、北井由香、田中初美	図書館	80	
5月27日	(水)	1500-1630	07.総合文化講座～広がる文化、拡がる楽しみ～ (全10回)	ことばの世界旅行～文化を支える言語～	高橋純	体育館研修室	85
6月10日	(水)	1500-1630		日本語による心象の表現	河原修一	体育館研修室	81
6月24日	(水)	1500-1630		英語を学んで知る私たちの文化ーその1ー	伊藤善啓	体育館研修室	75
7月8日	(水)	1500-1630		英語を学んで知る私たちの文化ーその2ー	伊藤善啓	体育館研修室	71
7月22日	(水)	1500-1630		アフリカ学入門	鹿野一厚	体育館研修室	55
9月16日	(水)	1500-1630		21世紀以降の社会の動向を映画・映像作品から考える～アメリカ・中国・韓国の映画・テレビ番組～	瓜生忠久	体育館研修室	46
9月30日	(水)	1500-1630		何ができるかエコアクションー価値観を変えるー	磯部美津子	体育館研修室	39
10月14日	(水)	1500-1630		原作で楽しむ「クマのプーさん」	竹森徹士	大講義室	45
10月24日	(土)	1500-1630		アメリカのユーモア	小玉谷子	大講義室	38
11月11日	(水)	1500-1630		「ラフカディオ・ハーンとギリシャ」新考～最近の旅から～	小泉凡	大講義室	33

開催日時			講座名	講師	会場	受講者数 (のべ人数)	
5月26日～ 8月4日	(火)	1830-2000	08. ひかるの恋人たち～続・源氏物語の女性～ (全6回)	三保サト子	体育館研修室	214	
6月2日～ 11月10日	(6/2～ 11/10)	1830-2030	09. 宇治十帖の世界～ひかり隠れ給ひてのち～ (全8回)	三保サト子	視聴覚室	195	
5月26日	(火)	1900-2030	10. 健康と食の講座－アクティブ85 を目指して－講義編 (全7回)	食について	中塚敏之	臨床栄養実習室	25
6月23日	(火)	1900-2030		食べ物さんの行方	安藤彰朗	臨床栄養実習室	20
7月28日	(火)	1900-2030		骨と血管を丈夫にする食事	名和田清子	臨床栄養実習室	17
8月25日	(火)	1900-2030		果物を科学する	赤浦和之	臨床栄養実習室	13
9月29日	(火)	1900-2030		おいしく食べる身体のしくみ五官(感覚) の解剖生理学	直良博之	臨床栄養実習室	19
10月27日	(火)	1900-2030		母胎栄養についての最近の知見	籠橋有紀子	臨床栄養実習室	14
11月24日	(火)	1900-2030		島根の食材と健康	坂根千津恵	臨床栄養実習室	14
6月9日	(火)	1900-2030		10. 健康と食の講座－アクティブ85 を目指して－実践編 (全3回)	自分の食と健康について振り返ってみる	名和田清子、籠橋有紀子	臨床栄養実習室
7月7日	(火)	1900-2030	アクティブ85を目指すために		名和田清子、籠橋有紀子	臨床栄養実習室	7
12月1日	(火)	1900-2030	半年間の振り返り		名和田清子、籠橋有紀子	臨床栄養実習室	3
7月1日～ 3月10日	(水)	1900-2100	11. 栄養士のためのステップアップ講座 (全33回)	健康栄養学科教員ほか	臨床栄養実習室	213	
小 計						2925 人	

## 出張講座(高大連携)の状況

(大学への派遣依頼を受け、専門領域の講義を高校生向けに行った実績)

開催日時			講座名	講師	会場	受講者数 (のべ人数)
7月23日	(木)	13:30-14:20	食べ物と身体の間をみてみよう～エネルギー代謝を考える～	安藤彰朗(健康栄養学科教授)	島根県立松江 東高等学校	31
9月29日	(火)	13:00-15:30	おいしく食べる体のしくみ 五官(感覚)の解剖生理学	直良博之(健康栄養学科准教授)	島根県立大社 高等学校	27
10月20日	(水)	16:00-16:45	キャンパス見学会(松江C.)模擬授業「異文化を学ぶ」	塩谷もも(総合文化学科講師)	松江市立女子 高等学校	110
3月4日	(木)	9:00-10:00	開星高等学校総合学習(ドリカムプラン) 講義テーマ:妖怪学	小泉凡(総合文化学科教授)	開星高等学校	46
3月11日	(木)	9:00-12:50	国際観光文化科配当科目「郷土理解」校外実習 そば打ち体験(スティックビル)	中塚敏之(健康栄養学科教授)	松江市立女子 高等学校	30
小 計						244 人

合 計						3169 人
-----	--	--	--	--	--	--------

## その他の活動の概要

### 1. 地域社会・自治体から求められる諮問委員等の派遣

本学関連の教員を中心に、島根県をはじめとして公的な委員会活動やさまざまな市民社会活動について、委員への就任、報告者としての要請が多数ある。具体的には島根県、市町村、教育委員会等の公共団体からの諮問委員会・審議会的な委員就任についての要請、商工会議所、経営者団体、社会団体・市民団体からの専門委員についての要請・相談であり、大学事務局において紹介、あっせんも行っている。なお、就任状況については、島根県立大学のホームページの「教員一覧」で、各教員の「4. これまでの社会における主な活動・審議会委員等」の項に掲載している。

### 2. 地域に関する提言を含む卒業研究・研究論文の発表

やや個性的な本学と本学の学生・院生による地域連携活動として、研究成果の発表会がある。浜田キャンパスでは地域活性化等の政策提言を含む「卒業研究・論文の発表会」を卒業式前の時期に毎年開催している。また、大学院生の専門的な研究論文も同時に発表され、島根地域を中心に市民や行政の方々と意見交換をする機会を得ている。

松江キャンパス、出雲キャンパスにおいても、時期は違うが、学生達のグループ研究を含め、研究成果の公開発表会が開かれている。

### 3. 高校をはじめとする学校間の連携

本学では、島根県教育委員会と連携のあり方について協議を進める一方、各キャンパスそれぞれに、高校をはじめとする学校との連携を目指している。

浜田キャンパスでは、県立浜田高校、江津高校と連携・協力協定を結び、教員の派遣（キャリア形成、語学教育等）、大学の個別ゼミナール（総合演習等）への高校生の参加受入れを行ったり、中学校に本学学生を派遣して学習支援等の活動を行っている（これらについては、内容的には教務委員会・キャリアセンター等との連携で行われている活動である）。

松江キャンパスでは、近隣の松江商業高校、湖南中学、乃木小や幼稚園を含め、以前から学校間連携に取り組みを続けている実績がある。

出雲キャンパスも、大社高校、平田高校との協力を行っている。

### 4. 自治体との連携

3の学校間の連携も含め、それぞれのキャンパスでは、所在地である自治体との協力関係を強化しつつあり、大学法人として浜田市や松江市、出雲市との間で、教育・研究、地域活性化などに関する包括協力協定を締結している。

これらをふまえて、県・市などの公共団体、産業界、市民団体等との連携によるシンポジウムの開催や、本学教員・地域の専門家との共同による調査・地域政策研究も進められ、その成果の公表会が行なわれる際の支援活動を行うのも、地域連携センターの活動のひとつである。

平成21年度 地域連携（貢献）活動の取組状況 浜田キャンパス

1 講演会講師等

NO.	教員氏名	依頼者	内容（テーマ等）	日付
1	江口伸吾	NEARカレッジ	辺境と底辺から見る中国「現代中国における格差と農村」	7/14.15
2	飯田泰三	益田市観光協会	人麿in石見	9月27日
3	八田典子	島根県社会福祉協議会 (くにびき学園西部校)	芸術の魅力 一人とまちの「輝き」を増す芸術のカー	10月23日
4	ワジム・シローコフ	島根県立浜田高等学校	ロシアの若者と教育	10月28日
5	ワジム・シローコフ	吉備国際大学	若者に対するプーチン政権の対策	5月25日
6	ワジム・シローコフ	吉備国際大学 社会福祉学部	不況の中の福祉の面においてロシア政府の取り組み	7月6日
7	福原裕二	島根県日韓親善協会	「真の日韓交流」とは何か	7月14日
8	岩本浩史	島根県自治研修所	平成21年度市町村新規採用職員(行政職等)研修講師	4月10日
9	ケイン・エレナ	浜田市教育委員会	Implementing ER in junior high schools: How Second Language Acquisition theory supports Extensive Reading	10月9日
10	張忠任	京都大学	中国の西部大開発と環境保全の財政メカニズム	12月21日
11	張忠任	京都大学	転形問題解決へのアプローチ	3月2日
12	川中淳子	島根県看護協会	平成21年度島根県実習指導者養成講習会	8/24.25
13	川中淳子	島根県教育庁	平成21年度島根県放課後子どもプラン指導員・ボランティア研修会浜田ブロック講師	8/26.9/2.9/4
14	松永桂子	雲南市大東町山王寺集落	中山間地域の自立について	4月18日
15	松永桂子	島根県主催	しまねの中山間地域産業研究シンポジウム	4月23日
16	松永桂子	島根県主催	しまねの中山間地域産業研究シンポジウム	4月24日
17	松永桂子	大阪市立大学大学院創造都市研究科	中山間地域の自立と農商工連携	5月15日
18	松永桂子	市町村・県地域振興担当職員研修会	中山間地域の自立と農商工連携	5月28日
19	松永桂子	しまね立志塾 (産業支援人材育成研修会)	地域のSWOT分析	6月4日
20	松永桂子	邑南町雇用創造推進協議会	中山間地域の自立と農商工連携	7月10日
21	松永桂子	茨城県行方市商工会	地域産業の担い手育成と地域振興	7月23日
22	松永桂子	しまね立志塾	アイデアと行動力による産業振興	8月26日
23	松永桂子	西日本高速道路主催	山陰自動車道斐川―出雲間開通シンポジウム	9月6日
24	松永桂子	島根県中小企業団体中央会 農商工連携人材育成事業	島根県内の農商工連携の動き	10月11日
25	松永桂子	国土交通省国土計画局総合計画課	地域資源を活かした6次産業化や農商工連携	10月19日
26	松永桂子	しまね立志塾	最終発表会 司会コーディネーター	1月28日
27	松永桂子	JA全農島根県本部	島根県における農商工連携の可能性	3月11日
28	松永桂子	邑南町雇用創造推進協議会	「ネットビジネスで売れる商品開発と仕組みを語る」コーディネーター	3月14日

平成21年度 地域連携（貢献）活動の取組状況 浜田キャンパス

29	金野和弘	シニアネットはまだ	「シニアの皆さんにお勧めすインターネット活用術	5月30日
30	金野和弘	シニアネットはまだ	「無料ソフトで発表資料を作成してみましようー無料ソフト『OpenOffice Impress』の導入と使い方講座ー」	7月28日
31	金野和弘	シニアネットはまだ	「ICTを取り巻く環境の変化と新しい潮流」	11月19日
32	金野和弘	シニアネットはまだ	「IT業界に吹く新しい風 ～ツイッター, iGoogle, Microsoft Office 2010, エバーノート～」	3月23日
33	井上定彦	出雲市(大津コミュニティセンター)	まちづくりの考え方	6月6日
34	井上定彦	浜田商工会議所	世界経済危機と日本海の可能性を考える	7月27日
35	井上定彦	島根県立大学出雲キャンパス	島根県の健康な暮らしと地域づくりを考える(現代GP地域公开发表会)	10月27日
36	井上定彦	(社)教育文化協会	現代日本経済社会論	11月26日
37	井上定彦	島根県経営者協会	グローバル経済停滞?	1月8日
38	井上定彦	浜田地区更生保護三団体	変容する人間像と社会	1月29日
39	犬塚優司	浜田中国語友の会	中国語指導	毎週木曜日 (年間35回程度)
40	犬塚優司	広島大学文学部植田康成	日本語と中国語の形態論的対照研究	11/6,11/13

2 審議会委員等

NO.	教員氏名	依頼者	役職名	期間
1	今岡日出紀	中山間地域研究センター	運営協議会委員	2009～2010年度
2	今岡日出紀	中山間地域研究センター	地域研究科研究評価委員	2009～2010年度
3	今岡日出紀	ふれあい島根財団	経営委員会委員(委員長)	2009/4～2010/6
4	八田典子	国土交通省中国地方整備局	中国圏広域地方計画学識者会議委員	2006/12～2009/6
5	八田典子	島根県	しまね景観賞審査委員会委員	2008/7～2010/3
6	八田典子	浜田市	市の花、市の木、市の魚選定委員会委員長	2009/4～8
7	八田典子	浜田市	浜田市美術品等収集委員会委員	2008/4～2010/3
8	八田典子	江津市	赤瓦の映える景観まちづくり計画策定検討協議会委員	2009/12～2010/3
9	小林博	全国健康保険協会島根支部	全国健康保険協会島根支部評議会評議員(議長)	2008/11～2010/10
10	小林博	浜田市	浜田市指定管理者選定委員魁委員(会長)	2008/11～2010/11
11	小林博	浜田市	浜田市行財政改革推進委員会委員	2008/1～2010/1
12	福原裕二	島根県知事	島根県竹島問題研究会委員	2009/10～2011/9
13	松永桂子	島根県商工会	島根県商工会連合会人事管理委員会	2009年度
14	松永桂子	益田市	益田市産業振興ビジョン策定委員会委員長	2009年度
15	松永桂子	中国経済産業局	中山間地域産業の担い手創出のための方策調査委員会委員	2008～2009年度
16	松永桂子	江津工業高校	「目指せスペシャリスト」運営指導委員	2008～2009年度

平成21年度 地域連携（貢献）活動の取組状況 浜田キャンパス

17	松永桂子	島根県	島根県財政改革推進会議委員	2007～2010年度
18	松永桂子	島根県	しまね地域産業活性化協議会	2007～2009年度
19	松永桂子	島根県産業技術センター	島根県産業技術センター運営協議会委員	2006～2009年度
20	金野和弘	浜田市	浜田市産業振興戦略会議 委員	2009/7～
21	川中淳子	島根県立少年自然の家	少年自然の家運営委員会委員	2009～2011年度
22	川中淳子	江津警察署	ごうつ被害者支援委員	2009年度
23	川中淳子	浜田市	浜田市保健医療福祉協議会委員	2006/1～
24	犬塚優司	しまね国際センター	経営委員	2009年度
25	林 秀司	島根県教育委員会	石見銀山遺跡調査活用委員会委員	2008/1～
26	林 秀司	島根県	島根県景観審議会委員	2008/2～
27	林 秀司	島根県	島根県農地・水・環境保全向上対策検討委員会委員	2008/2～
28	林 秀司	島根県	島根県中山間地域等振興対策検討会委員	2008/5～
29	林 秀司	島根県	島根県屋外広告物審議会委員	2008/2～2010/1
30	林 秀司	大田市	石見銀山景観保全審議会委員	2009/10～
31	井上定彦	財務省	財務省独立行政法人評価委員会・臨時委員	2002年度～
32	井上定彦	しまね産業振興財団	しまね産業振興財団・経営委員会委員	2005/4～
33	井上定彦	ふるさと島根定住財団	ふるさと島根定住財団・理事	2006/6～
34	井上定彦	島根県環境生活部	島根県いきいき活動促進委員会・委員長	2005/5～
35	井上定彦	島根県環境生活部	しまね協働実践事業審査委員会・委員	2009年度～
36	井上定彦	鳥取県	鳥取・島根協働実践事業審査委員会・委員長	2009年度～
37	井上定彦	大田市	大田市教育委員会・外部評価委員	2009年度～
38	井上定彦	NPO活動推進自治体フォーラム 島根大会実行委員会	NPO活動推進自治体フォーラム島根大会実行委員(委員長)	2009/2～

平成21年度 地域連携（貢献）活動の取組状況 浜田キャンパス

3 その他の地域連携（貢献）活動

NO.	教員氏名	相手方	内容	日付（期間）
1	今岡日出紀	ポリテク・カレッジ島根(江津)	経済学の非常勤講師	2009/4～10月
2	福原裕二	島根県社会福祉協議会	シマネスクくびき学園講師「日朝交流史①、②」	2009/4～2010/3
3	張忠任	浜田医療センター附属看護学校	「情報科学」、「情報科学演習」の非常勤講師担当	春学期
4	松永桂子	浜田・益田・江津・邑南町	地域産業調査(ゼミ合宿)	2009年度
5	松永桂子	北海道江別市	地域産業調査(ゼミ有志)	2009年度
6	ワジム・シローコフ	島根県警	島根県警察の民間通訳人(ロシア語)委託	平成20～22年度
7	犬塚優司	島根県立大学留学生等を囲む会	副会長	2008/4～2010/3
8	ケイン・エレナ	NPOはるじおん	三階小学校での英語の読み聴かせを行う	毎週木曜日
9	田中恭子	益田市	石見空港活性化策調査(ゼミ活動)	2009年度
10	井上厚史	銀山街道沿いの自治体	銀山街道の調査研究(ゼミ活動)	2007年度～
11	林 秀司 ほか	島根県浜田県土整備事務所	中山間ふるさと水と土保全推進事業棚田ワークショップ	2009年度
12	井上 治 ほか	浜田市	北東アジアにおける浜田地域産品の消費動向に関する調査研究	2009年度
13	坂部晶子 ほか	浜田市	浜田市・市民・大学院修了生・研究センターの協働による北東アジアにおける食の安全に関する調査・研究	2009年度
14	村井 洋 ほか	津和野町	世代を超えて受け継ぐ西周の意義	2009年度
15	藤原真砂 ほか	弥栄町	「郷」モデルの普及を担う人材育成システムの提示(JST委託事業)	2008/10～
16	井上定彦 ほか	産学官の有志	島根地域政策支援のための大学の役割と可能性に関する研究	2009年度
17	井上定彦	石見ケーブルテレビジョン	石見ケーブルビジョン番組審議会(座長)	2009年～
18	井上定彦	財)連合総合生活開発研究所	理事(客員研究員)	現在

平成21年度 地域連携（貢献）活動の取組状況 松江キャンパス

1 講演会講師等

NO.	教員氏名	依頼者	内容（テーマ等）	日付
1	中塚敏之(健康栄養学科教授)	雲南市役所	中山間地域での産学官連携による健康サービス産業の創出 「出雲そばの特性と歴史」	平成22年11月26日
2	中塚敏之(健康栄養学科教授)	乃木地区社会福祉協議会	「食について パート2(食と運動)」 乃木公民館	平成22年2月18日
3	名和田清子(健康栄養学科教授)	松江市健康福祉部	平成21年度まつえ市民大学「知って納得！なるほど健康診断 表と自分のからだ」	平成21年5月26日 6月9日
4	名和田清子(健康栄養学科教授)	雲南市教育委員会	平成21年度雲南市民大学第3回講座「ライフステージを通じた 食育」	平成21年8月25日
5	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県教育庁	平成21年度栄養教諭経験11年目研修 専門研修	平成22年2月19日
6	名和田清子(健康栄養学科教授)	大東高等学校PTA	大東高等学校PTA研修会 「食育について」	平成21年11月1日
7	小山優子(保育学科講師)	邑智郡保育研究会主任会	「新保育所保育指針の改定と保育課程・指導計画」 邑智郡美郷町「開発センター」	平成21年8月4日
8	小山優子(保育学科講師)	出雲市幼稚園教育研究会	「幼稚園教育要領改訂の要点と保育のあり方」 パルメイト出雲(出雲市)	平成21年8月24日
9	小山優子(保育学科講師)	島根県健康福祉部	潜在保育士再就職支援研修会「新保育所保育指針など最新の 知識について」 いきいきプラザ島根(松江市)	平成22年1月31日
10	飯塚由美(保育学科准教授)	松江市子育て支援センター	子育て学習会「食育のはなしー人との関わりと「食の大切さー」 松江市保健福祉総合センター	平成21年6月30日
11	栗谷とし子(保育学科准教授)	JAいずも	JA高齢者福祉事業 訪問介護員養成研修会ホームヘルパー2級課 程 講義科目「在宅看護の基礎知識」	平成21年8月19日
12	高橋憲二(副学長・保育学科教授)	島根県健康福祉部	平成21年度島根県市町村職員等専門研修会(児童福祉司任 用資格認定講習会)「社会福祉概論」浜田・松江	平成21年8月20日 8月21日
13	高橋憲二(副学長・保育学科教授)	隠岐の島町社会福祉協議会	平成21年度隠岐の島町社会福祉協議会訪問介護員研修会 「福祉理念とケアサービスの意義」「ケアサービス提供の基本視 点」	平成21年8月31日
14	高橋憲二(副学長・保育学科教授)	倉敷市立短期大学	平成21年度FD研修会「短大運営と法人化」	平成21年9月9日
15	高橋憲二(副学長・保育学科教授)	鳥取県児童館連絡協議会	2009年度鳥取県児童館連絡協議会児童館職員研修会「児童 館の機能と運営」「社会福祉援助技術」	平成21年9月30日
16	森山秀俊(保育学科教授)	松江市子育て支援センター	「子どものうた」～親と子のつながりを求めて～ 松江市保健福祉総合センター	平成22年3月15日
17	岸本強(保育学科教授)	島根県幼稚園PTA連合会	総会講演「心も体も元気な子どもに育てよう」	平成21年5月22日
18	岸本強(保育学科教授)	松江市立生馬幼稚園PTA	研修会・親子遊び指導と講話	平成21年6月21日
19	岸本強(保育学科教授)	松江市立川津幼稚園	園内研究会・研究協議講師	平成21年10月16日
20	岸本強(保育学科教授)	松江市幼稚園教育研究会	実技指導と講話「しなやかな心と体の育成」	平成22年1月13日
21	岸本強(保育学科教授)	松江市立竹矢幼稚園PTA	研修会・親子遊び指導と講話	平成22年1月19日
22	岸本強(保育学科教授)	雲南市立吉田中学校PTA	研修会講演「運動・休養・栄養と生活リズム」	平成22年1月24日
23	白川浩(保育学科教授)	島根県合唱連盟	平成21年度島根県合唱連盟研修会 講演「音楽的な演奏へのプロセス」	平成21年4月18日
24	白川浩(保育学科教授)	松江市総合文化センター 松江プラバホール	パイプオルガン学園受講生オーディション審査	平成21年4月29日
25	白川浩(保育学科教授)	出雲北陵高等学校	第18回出雲北陵高等学校・音楽コース「教官演奏会」客演 歌劇「道化師よ」リプロダクション	平成21年7月17日
26	白川浩(保育学科教授)	斐川町教育研究会	「斐川町立小中学校第60回記念連合音楽会」客演 ピアノ連弾「威風堂々」他	平成21年9月16日
27	白川浩(保育学科教授)	大島屋楽器店	ヤマハヤングピアニストコンクール審査	平成21年12月5日
28	山下由紀恵(保育学科教授)	島根県教育センター	平成21年度幼小連携講座講義1「子どもの発達段階にあわせた 幼小連携のあり方」	平成21年8月10日
29	山下由紀恵(保育学科教授)	島根県健康福祉部	平成21年度島根県市町村職員等専門研修会(児童福祉司任 用資格認定講習会)「母子関係理論と発達心理学」浜田・松江	平成21年8月20日 8月21日

平成21年度 地域連携（貢献）活動の取組状況 松江キャンパス

30	山下由紀恵(保育学科教授)	出雲市保育協議会	保育士部会講演「保育士の新しい職能について」	平成21年8月25日
31	山下由紀恵(保育学科教授)	国立秩父学園(埼玉県)	平成21年度第1回発達障害関係職員研修会「発達障害の幼児期のアセスメントに基づいた支援」	平成21年10月1日
32	山下由紀恵(保育学科教授)	島根県出雲保健所	平成21年度乳幼児発達支援研修会講演「保育現場でできる支援について」	平成22年3月8日
33	岩田英作(総合文化学科准教授)	出雲市立遙基小学校PTA	研修会講演「読み聞かせの実践について」	平成21年7月31日
34	伊藤善啓(総合文化学科教授)	島根県立松江商業高等学校	面接指導講師	平成21年9月9日
35	堀川照代(総合文化学科教授)	三次市立君田中学校	校内研修会「図書館を活用した授業づくり」	平成21年5月15日
36	堀川照代(総合文化学科教授)	三次市立大草小学校	校内研修会「図書を活用した授業づくり」	平成21年6月5日
37	堀川照代(総合文化学科教授)	岡山県教育センター(岡山県)	新任司書教諭研修講座「これからの学校図書館と司書教諭の果たす役割」	平成21年6月22日
38	堀川照代(総合文化学科教授)	山口県教育センター(山口県)	学校図書館担当者研修講座「子どもと本をつなぐ読書指導のあり方」(やまぐち総合教育支援センター)	平成21年6月23日
39	堀川照代(総合文化学科教授)	鳥取県教育センター(鳥取県)	「中学校・高等学校 図書館教育荷おけるメディア活用能力の育成」	平成21年8月21日
40	堀川照代(総合文化学科教授)	三次市立君田中学校(広島県)	校内研修会「校内授業研究」	平成21年9月4日
41	堀川照代(総合文化学科教授)	三次市立君田中学校(広島県)	広島県三次市立君田中学校自主公開授業研修会記念講演「学校図書館の果たす役割」	平成21年10月16日
42	堀川照代(総合文化学科教授)	宮若市社会教育課(福岡県)	宮若市・子ども読書ボランティアリーダー育成事業講演会「学校図書館とボランティア」福岡県宮若市中央公民館	平成21年11月28日
43	堀川照代(総合文化学科教授)	久留米市立中央図書館(福岡県)	久留米・鳥栖・小郡・基山三市一町図書館協力協議会研修会「公共図書館と学校図書館の連携」久留米市立中央図書館	平成21年11月29日
44	堀川照代(総合文化学科教授)	江津市生涯学習課	松江大学:江津市公開講座「絵本の世界と読み聞かせ」江津市図書館松江分館	平成22年3月18日
45	小泉凡(総合文化学科教授)	島根大学	島根大学総合講座「島根学」ラフカディオ・ハーンのみた松江と日本」島根大学出雲キャンパス	平成21年4月23日
46	小泉凡(総合文化学科教授)	松江市立中央図書館	松江市立中央図書館定期講座「ラフカディオ・ハーンとギリシャ～最近の旅から～」松江市立中央図書館	平成21年5月23日
47	小泉凡(総合文化学科教授)	広島ロータリークラブ(広島県)	広島ロータリークラブ卓話「ラフカディオ・ハーンの現代へのメッセージ」リーガロイヤルホテル広島3F官島の間	平成21年6月9日
48	小泉凡(総合文化学科教授)	財団法人ホシザキグリーン財団	「ラフカディオ・ハーンと宍道湖～ハーンの愛した水のある風景～」ホシザキ野生生物研究所実習室(出雲市)	平成21年6月20日
49	小泉凡(総合文化学科教授)	財団法人北野教育振興会(東京都)	「小泉八雲」から21世紀を考える」同財団本部(東京都目黒区)	平成21年7月18日
50	小泉凡(総合文化学科教授)	大阪青山大学(大阪府)	大阪青山大学公開講座「小泉八雲のみた大阪」大阪青山大学(大阪府箕面市)	平成21年7月19日
51	小泉凡(総合文化学科教授)	島根県神話の国縁結び観光協会(東京都)	「異界への旅～小泉八雲と水木しげるの世界～」代々木ビジネスセンタープラザ館ホール2A(東京都渋谷区)	平成21年9月12日
52	小泉凡(総合文化学科教授)	工学院大学・朝日カレッジ(東京都)	工学院大学・朝日カレッジ新宿「新宿で生まれた『怪談』—晩年の小泉八雲の学究生活—」工学院大学新宿キャンパス	平成21年12月5日
53	小泉凡(総合文化学科教授)	島根大学ミュージアム	島根大学ミュージアム『文化資源』としての『小泉八雲』を考える」島根大学	平成21年12月11日

2 審議会委員等

NO.	教員氏名	委嘱(依頼)者	役職名	期間
1	奥野元子(健康栄養学科教授)	松江市	松江市総合計画検証委員会副会長 くらし部会長	平成20年8月～平成22年3月
2	奥野元子(健康栄養学科教授)	島根県	島根県調理師試験委員会委員	平成21年5月～平成21年10月
3	奥野元子(健康栄養学科教授)	財団法人島根県学校給食会	地場産物を活用した製品等開発事業 開発委員会委員	平成20年12月～平成22年2月
4	奥野元子(健康栄養学科教授)	島根県牛乳普及協会	牛乳・乳製品利用料理コンクール島根県大会審査委員長	平成21年7月～平成21年11月
5	名和田清子(健康栄養学科教授)	松江市	松江市乳幼児保育・教育サポート事業支援サポーター	平成21年6月～平成22年3月

平成21年度 地域連携（貢献）活動の取組状況 松江キャンパス

6	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県	健康長寿しまね推進会議 委員	平成21年4月～平成22年3月
7	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県松江圏域	松江圏域健康長寿しまね推進会議 委員	平成21年4月～平成22年3月
8	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県	島根県環境農業推進協議会 副委員長	平成21年4月～平成22年3月
9	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県	島根県食育・食の安全推進協議会 委員	平成21年4月～平成22年3月
10	名和田清子(健康栄養学科教授)	松江市	松江市民大学運営委員	平成21年4月～平成22年3月
11	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県	糖尿病予防委員会 委員	平成21年4月～平成22年3月
12	名和田清子(健康栄養学科教授)	雲南市教育委員会	雲南市学校給食外部委託検討委員会	平成21年3月～平成22年3月
13	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県教育庁	学校給食の文部科学大臣表彰の審査会	平成21年8月
14	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県	平成21年度保健活動企画研修事業 研修指導者	平成21年4月～平成22年3月
15	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県立 こころの医療センター	給食業務総合評価委員会 委員	平成21年9月～12月
16	名和田清子(健康栄養学科教授)	奥出雲町	奥出雲町食育推進計画策定委員会 委員長	平成21年9月～平成22年3月
17	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県栄養士会	生涯学習委員会 委員長	平成21年4月～平成22年3月
18	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県栄養士会	栄養ケアステーション委員会 委員	平成21年4月～平成22年3月
19	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県栄養士会	評議委員	平成21年4月～平成22年3月
20	坂根千津恵(健康栄養学科助手)	島根県栄養士会	HP運営委員会副委員長	平成18年7月～平成22年7月
21	小山優子(保育学科講師)	松江市	松江市乳幼児保育・教育サポート事業支援サポーター	平成18年6月～平成22年3月
22	栗谷とし子(保育学科准教授)	島根県	島根県介護保険審査会委員	平成16年4月～平成22年3月
23	高橋憲二(副学長・保育学科教授)	島根県	島根県人権施策推進協議会副委員長	平成21年10月～平成23年8月
24	高橋憲二(副学長・保育学科教授)	島根県	島根県少子化対策推進協議会委員長	平成20年1月～平成22年3月
25	高橋憲二(副学長・保育学科教授)	島根県社会福祉協議会	島根県社会福祉協議会理事	平成21年12月～平成22年5月
26	森山秀俊(保育学科教授)	島根県合唱連盟	島根県合唱連盟理事長	平成19年4月～平成22年3月
27	岸本強(保育学科教授)	松江市	松江市乳幼児保育・教育サポート事業支援サポーター	平成18年6月～平成22年3月
28	岸本強(保育学科教授)	島根県社会福祉協議会	島根県介護サービス情報公表センター運営委員会委員長	平成20年4月～平成22年3月
29	岸本強(保育学科教授)	島根県体育協会	島根県体育協会 島根総合型地域スポーツクラブ育成委員会副委員長	平成17年10月～平成22年9月
30	岸本強(保育学科教授)	島根県体育協会	島根県体育協会 しまね広域スポーツセンター企画運営委員会副委員長	平成17年10月～平成22年9月
31	岸本強(保育学科教授)	島根県体育協会	島根県体育協会 医科学委員会委員	平成18年5月～平成23年4月
32	岸本強(保育学科教授)	島根県体育協会	島根県体育協会 評議員	平成13年5月～平成23年4月
33	岸本強(保育学科教授)	島根県バレーボール協会	島根県バレーボール協会 理事長	平成13年5月～平成23年4月
34	岸本強(保育学科教授)	日本バレーボール協会	日本バレーボール協会 評議員	平成13年5月～平成23年4月
35	岸本強(保育学科教授)	中国バレーボール連盟	中国バレーボール連盟 副理事長	平成13年5月～平成23年4月
36	岸本強(保育学科教授)	中国大学バレーボール連盟	中国大学バレーボール連盟 参与・理事	平成13年4月～平成23年3月

平成21年度 地域連携（貢献）活動の取組状況 松江キャンパス

37	山下由紀恵(保育学科教授)	益田市	益田市次世代育成支援協議会委員	平成18年4月～平成22年3月
38	山下由紀恵(保育学科教授)	松江市	松江市保育所施設整備審査委員会委員	平成19年7月～平成24年7月
39	山下由紀恵(保育学科教授)	松江市	松江市障害者自立支援協議会委員	平成19年5月～平成23年3月
40	山下由紀恵(保育学科教授)	松江市	松江市子育て支援ネットワーク会議委員	平成19年5月～平成23年3月
41	山下由紀恵(保育学科教授)	松江市	松江市乳幼児保育・教育サポート事業支援サポーター	平成19年6月～平成22年3月
42	山下由紀恵(保育学科教授)	松江市	乳幼児保育・教育サポート事業運営委員会委員長	平成19年5月～平成22年3月
43	山下由紀恵(保育学科教授)	松江市	松江市心身障害児小規模療育事業検討委員	平成19年5月～平成23年3月
44	山下由紀恵(保育学科教授)	独立行政法人大学評価・学位授与機構	大学評価・学位授与機構短期大学機関別認証評価委員会専門委員	平成20年6月～平成21年5月
45	藤居由香(総合文化学科講師)	松江市教育委員会	興雲閣修復復原・活用委員会委員	平成21年4月～平成22年3月
46	藤居由香(総合文化学科講師)	松江市	松江市都市計画審議会委員委員	平成21年9月～平成22年3月
47	藤居由香(総合文化学科講師)	島根県	生活排水処理ビジョン策定委員会委員	平成21年12月～平成22年3月
48	伊藤善啓(総合文化学科教授)	松江市立女子高等学校	文部科学省指定 英語教育改善のための調査研究事業運営指導委員	平成21年4月～平成22年3月
49	堀川照代(総合文化学科教授)	島根県	島根県学校図書館教育支援会議委員	平成21年4月～平成22年3月
50	堀川照代(総合文化学科教授)	島根県	島根県子どもの読書活動推進会議委員	平成15年6月～平成24年6月
51	堀川照代(総合文化学科教授)	島根県	島根県社会教育委員の会委員	平成20年6月～平成24年6月
52	堀川照代(総合文化学科教授)	島根県	島根県総合教育審議会委員	平成19年9月～平成21年8月
53	堀川照代(総合文化学科教授)	島根県	島根県立図書館協議会委員	平成21年6月～平成23年6月
54	堀川照代(総合文化学科教授)	島根県	島根古代出雲歴史博物館協議会委員	平成15年～平成22年8月
55	堀川照代(総合文化学科教授)	江津市	江津市図書館・歴史民俗資料館建設基本構想検討委員会委員	平成21年10月～平成22年7月
56	堀川照代(総合文化学科教授)	邑南町	邑南町子ども読書計画策定委員会アドバイザー	平成21年4月～平成22年3月
57	堀川照代(総合文化学科教授)	松江市	松江市学校図書館支援センター調査研究会委員	平成21年10月～平成22年3月
58	堀川照代(総合文化学科教授)	東出雲町	東出雲町学校図書館支援センタープロジェクト会議委員	平成21年4月～平成22年3月
59	堀川照代(総合文化学科教授)	松江市	松江市生涯学習推進計画検討委員会委員	平成22年1月～平成23年3月
60	堀川照代(総合文化学科教授)	全国学校図書館協議会	学校図書館司書教諭講習講義要綱作成委員	平成21年5月～平成21年10月
61	小泉凡(総合文化学科教授)	日本放送協会	NHK中国地方放送番組審議会副委員長	平成21年2月～平成23年1月
62	小泉凡(総合文化学科教授)	財団法人松江市国際交流協会	財団法人松江市国際交流協会評議員	平成21年4月～平成23年3月
63	小泉凡(総合文化学科教授)	松江市教育委員会	松江市立女子高等学校学校評議員	平成21年4月～平成22年3月
64	小泉凡(総合文化学科教授)	松江開府400年祭推進協議会	松江開府400年祭事業推進委員会推進委員	平成21年4月～平成23年3月
65	小泉凡(総合文化学科教授)	市指定文化財・茶室「観月庵」修復事業協議会	観月庵利用活用検討懇話会座長	平成20年7月～平成23年3月

### 3 キャンパスの個性を生かしつつ、協力体制を築く

以下には、3 キャンパスごとの地域連携の取り組みを掲載しているが、今後、本学の地域連携センターの活動を進めるにあたって、1点のみ指摘しておきたい。それは、松江キャンパス（県立女子短大としての発足は1953年）、出雲キャンパス（看護短大としての発足は1992年）、浜田キャンパス（2000年）は、それぞれに独自の大学として発展してきた経緯があり、地域との関係の結びつき方、地域連携、地域社会貢献のあり方についてもそれを反映した独自の性格を今後も尊重していく必要があるという点である。

松江キャンパスは、幼稚園教諭、保育士、栄養士、司書をはじめ多くの卒業生を輩出し、そのような専門職業人のグループとして地域内の存在感や卒業生相互間のつながりがある。また、それを生かした社会人としての学び直しの機会がこれまでもあった。仕事の性格からしても、自ずから地域との連携・社会貢献につながっていると見えよう。

出雲キャンパスについても、看護師としての養成機関であり専攻科をもっていることで、高度の看護、保健関係の専門家を島根県内を中心に送りだしている。

平成19年度に事業採択された文部科学省G P（Good Practiceの略）「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」でも、松江キャンパス・出雲キャンパスは連携して子育て、食育、健康づくりに関わる専門職の再教育プログラム開発を行い、地域社会に貢献している。

このほか松江キャンパスでは、地域文化・歴史に関わる学外団体との共同企画事業について特性を生かした新たな共同事業が始められている。出雲キャンパスでは、看護職の現職者教育の継続的な実施、保健・医療・看護の専門職の支援、「命のメッセージ展」などで地域との協力強化を進めている。

また浜田キャンパスは、社会・人文科学分野を中心として博士課程を含む大学院を擁している関係から、これまでの地域連携推進センターの活動として、高度な内容を含む公開講座の系統的な開催、地域市民活動の支援、語学教育やキャリア教育等での高大連携、学生による地域活動支援等のほかに、N E A Rセンターを軸とする北東アジア地域の研究調査活動や「N E A Rカレッジ」の開催、国際シンポジウムの地域への開放に意を用いている。

このように、今後もそれぞれの特性を生かした独自の活動が有益であるが、一方では、3 キャンパスが統合した点を踏まえ、地域連携活動の協力体制を目的意識的、具体的に進めていくことも課題となっている。

浜田キャンパス

平成21年度 公立大学法人島根県立大学  
地域連携推進センター浜田キャンパス運営会議 名簿

(任期:H21.4.1~H22.3.31)

職名	氏名	備考
教授	林 秀司	・地域連携推進センター副センター長 ・地域連携コーディネーター(文化・景観)
教授	田嶋 義介	・委員(公開講座部会長) ・地域連携コーディネーター(市民活動・運動)
准教授	魁生 由美子	・委員(情報発信・PR担当) ・地域連携コーディネーター(社会福祉)
准教授	松永 桂子	・委員(自治体連携担当) ・地域連携コーディネーター(産公学連携)
講師	松田 善臣	・委員(高大連携担当) ・地域連携コーディネーター(産公学連携)
教授	井上 定彦	・浜田キャンパス運営会議アドバイザー ・地域連携コーディネーター(NPO) ・地域連携推進センター長
教授	今岡 日出紀	・浜田キャンパス運営会議アドバイザー
教授	井上 厚史	・地域連携コーディネーター(ボランティア)
准教授	沖村 理史	・地域連携コーディネーター(環境問題)
研究企画課長	島田 成毅	・委員
主任	藤原 秀樹	
主事	上田 英和	
嘱託	竹根 美雪	

## 地域連携推進センターの3年目を終えて

平成21年度は、地域連携推進センター発足3年目となり、統合・法人化後最初の中期計画の後半に向けて、本格的始動の年と位置づけられた。浜田キャンパスでも体制整備と具体的な活動の展開を試みている。地域連携コーディネーターは、従来から配置してきたが、平成21年度も8名のコーディネーターを配置した。それに加えて、内部的な課題ではあったが、地域の皆さんや行政からの相談を受けた際の対応手順も整えていった。これらが十分に機能しているとはまだまだ言い難いところもあるが、それでも、キャンパスの教員に呼びかけ、平成22年度に向けて、島根県や浜田市からの委託研究・事業などを受けることができた。これからも、地域からの相談は、積極的に教員や学生たちに（場合によっては他キャンパスや学外へも）つないでいきたい。また、「島根地域政策支援のための大学の役割と可能性に関する研究会」（会長：吉塚徹特任教授）が数回にわたって開催され、行政関係の方はもとより、NPO等で活躍されている市民の方の参加も得た。いずれは、地域連携推進センターが中心となって、地域の皆さんと教員が集う場を提供していかねばならないのではないかと思う。

公開講座は、「地域文化とまちづくり」「北東アジア地域における経済関係」の2講座について、年間を通して開催した。「地域文化とまちづくり」は、浜田キャンパスの教員4名に松江キャンパスの教員2名、外部講師2名を交えて、重要な地域的課題であるまちづくりについて地域文化を活かすという観点からアプローチした。「北東アジア地域における経済関係」は、浜田キャンパスの教員7名が担当し、北東アジア地域研究を研究・教育のひとつの柱とするキャンパスの特徴がよく出た講座になったと思う。また、春学期には「本のチカラ」と題した本の魅力を語る講座を、秋学期には松江キャンパスが主体となったキャンパス連携講座「早期発達支援ブラッシュアップ講座」を開催した。また、いくつかの出張講座や江津市教育委員会と連携した地域連携講座（桜江大学）なども開催した。これからは、公開講座の開催についても地域との連携が重要になってくると思われる。

第7回を迎えた「地域振興に関する提言を含む優秀卒業研究・論文の発表会」は、例年どおり、卒業式を前日にひかえた3月18日（木）に、本学交流センターコンベンションホールにおいて開催した。残念ながら、大学院の修士論文の発表はなかったが、学部の卒業研究論文5編が発表された。地元浜田市にはこの発表会を後援いただき、平成19年度からは浜田市長賞も授与いただいている。このように地域の支援を得た卒業研究発表会もまた珍しいのではないだろうか。ふだんよりご支援いただいている地元地域に対して、少しでもお返しできたならば幸いである。

大学の直接的な社会貢献が求められる昨今であるが、じつは、浜田キャンパスにおいても、すでに少なからぬ教員が研究や教育の一環として地域に出かけ活動しているのではないだろうか。学生たちが地域で活動している姿もしばしば目にする。それらの情報を、内部的には共有し、地域の皆さんに発信していく必要も感じられる。ささやかなことではあるが、ホームページの見直しにも着手している。

なにはともあれ、できることから着実な歩みを進めていきたい。

地域連携推進センター副センター長 林 秀司

## 棚田ワークショップ

島根県浜田県土整備事務所より中山間ふるさと水と土保全推進事業の棚田ワークショップを受託、実施した。これは、浜田市旭町都川地区、同来尾地区、三隅町室谷地区の3か所について、地域の将来像を明確にし、棚田の適切な保全管理に必要な地域活動の展開方向を見出すことを目的としたものである。2年間をかけて実施される予定であり、平成21年度は、それぞれの地区で2～3回のワークショップを実施した。その他に、都川地区では都川秋祭り（10月21日（水））への参加、来尾地区では棚田散策ウォーキング in 来尾（11月15日（日））への参加、室谷地区では資源調査の実施（11月28日・29日）を行った。実施にあたっては、本学教員2名がコーディネーター（都川地区は井上厚史教授、来尾・室谷地区は林秀司教授）となり、学生数名がスタッフとして参加した。ワークショップでは、地域住民の参加、協力を得て、地域の課題を整理し、地域の良いところ探し出した上で、将来の目指したい地域の姿を描いていった。

### 実施状況

#### 都川地区

開催日：7月25日（土）、10月7日（土）

場所：高齢者センター（旧都川小学校）

#### 来尾地区

開催日：年9月25日（金）、9月18日（水）、3月9日（火）

場所：市木生活改善センター

#### 室谷地区

開催日：8月8日（土）、11月30日（月）、2月15日（月）

場所：上室谷集会所



ワークショップのようす

（左 来尾地区，右 室谷地区）

## 公開講座等の取り組み

島根県立大学では「地域と共に歩む大学」の一環として公開講座を開催している。

平成21年度の公開講座「21世紀・地球講座」は4テーマ、22講座を設定し、そのうち2テーマ（「地域文化とまちづくり」及び「北東アジア地域における経済関係」）は、春学期から秋学期にわたり開催した。

### ①「地域文化とまちづくり」

まちづくりを進めていく際に、地域の文化もひとつの資源となることを踏まえ、伝統芸能、芸術文化、食文化など、多様な地域文化に着目して、6名の本学教員と2名の外部講師を招いて開講した。土曜日開催を行った2講座については、平日開催に比べて受講者が減る結果となったが、全体で180人の受講者を得ることができた。

### ②「北東アジア地域における経済関係」

1990年代以降、経済の高度成長を持続させている中国と急激な経済成長を遂げているロシア極東地域に、2008年のサブプライムローンに端を発した金融恐慌（経済危機）は、どのような影響を与え、またその地域はどのように対処したのかを本学教員7名が日頃の研究成果をもとに報告した。



「北東アジア地域における経済関係」の様子

### ③「本のチカラ」

読書の魅力を伝えることを目的に「無限に広がる本の世界」や本の利用方法など、多様な切り口で読書の楽しさを伝える講座を目指した。図書館司書の講座や市民参加型の講座を開催したこともあり、幅広い年齢層の方々に参加をいただいた。



「本のチカラ」の様子

### ④「早期発達支援ブラッシュアップ講座」

松江キャンパスとの連携講座として開催した。これまで短大部教員が講師をつとめる講座は続けてきたものの、今回のように短大部のシリーズ講座を開催することは初めてであり、浜田キャンパスにはない専門分野ということもあり、近隣市町の方にも多数の参加をいただいた。

## 【地域連携講座】

公開講座は大学を会場とすることが多く、広く地域住民の参加を推進することが難しい状況がある。このことから、周辺自治体と協同して公開講座を開催することで、広報の充実、地域ニーズの把握、受講機会の創出など、より地域の要望に応える講座開催を目指した取り組みである。

平成 21 年度は、江津市教育委員会と同市桜江町公民館と協力して 2 講座を開催した。

### 第 1 回

日 時：平成 21 年 6 月 25 日（木） 10：00～12：00

講座名：「韓流大衆文化の情熱と哀切—韓国ドラマ・映画・歌謡—」

講 師：魁生由美子（島根県立大学総合政策学部 准教授）

会 場：江津市立谷住郷生涯学習センター

参加者：40 名

### 第 2 回

日 時：平成 21 年 8 月 28 日（金） 10：00～11：45

講座名：「韓国の TV ドラマと映画作品に韓国社会と人々の変化を観る」

講 師：瓜生忠久（島根県立大学総合政策学部 教授）

会 場：江津市立川越生涯学習センター

参加者：53 名

## 【出張講座】

本学指定の講座担当教員が、学外からの依頼に応じて、島根県内の地域に出向いて開催する講座のことで、生涯教育の推進はもとより、島根県立大学の研究・教育成果の還元を行うことで広く地域の方に島根県立大学に興味を持ってもらうため、県内各地域に本学指定講座の担当講師が赴いて講義を行った。

今年度は 8 団体からの依頼を受けて 6 講座を開催した。そのうち奥出雲町で開催した出張講座では、初の試みとして、3 キャンパスの教員によるオムニバス形式の「3 キャンパス合同出張講座」を開催した。



「3 キャンパス合同出張講座」の様子

## 地域振興に関する提言を含む優秀卒業研究・論文の発表会の取り組み

本発表会は平成 15 年度から数えて第 7 回を迎えた。今年は学部卒業研究 10 点、修士論文 1 点の推薦があり、この中から担当指導教員の推薦に基づき地域連携推進センターで査読評価を行った。

今回の表彰対象となった研究は、電力対策や農業、外国人研修など現代社会のホットなテーマに対して正面から取り組んでおり、地域や国際社会の問題発見と解決能力の養成を掲げる本学総合政策学部の教育趣旨に沿ったものであり、今回の卒業研究・論文の成果を高く評価したい。今回表彰対象の研究も、浜田市をはじめとする市民の皆さんにご協力をいただければここまでの成果は得られなかった。感謝申し上げる。

また、今年度も、浜田市から特に優秀な研究をした学生に浜田市長賞をいただいた。全国的に見ても大学の教育活動に市が密接にご協力いただけるのは極めて珍しい。学生生活期間中にお世話になった市からこのような形で評価をいただくことは、学生の今後の人生にとって大変な励みになると思っている。

今後も市との連携を深めながら、大学における教育活動の活性化を図って行きたい。

### 発表会の概要は以下のとおり

- ・日 時：平成 22 年 3 月 18 日（木）13：00～15：30
- ・場 所：島根県立大学交流センター2 階コンベンションホール
- ・後 援：浜田市
- ・発表者：

発表 1	『『銀山街道』の地域ブランドとしての可能性』	出雲正樹	13:25 ～13:45
発表 2	「低炭素社会の実現に向けた電力対策～島根県を中心として～」	島谷明邦	13:50 ～14:10
発表 3	「21 世紀型農業～環境保全型農業をモデルとして～」	藤原あかね	14:15 ～14:35
発表 4	「屋久島におけるエコツーリズムの必要性とその在り方」	町田 雄	14:40 ～15:00
発表 5	「外国人研修・技能実習制度—島根県での運用から見えてきたもの—」	松岡福子	15:05 ～15:25



奨励賞を受賞されたみなさん

## 高大連携の取り組み

島根県立大学と島根県立浜田高校及び島根県立江津高校とはそれぞれ平成 16 年、平成 19 年に高大連携包括協力協定を締結し、相互の特色を活かした連携活動を行っている。

### 【島根県立浜田高校】

H16. 11. 18 高大連携包括協力協定を締結、連携事業（出張講座、ゼミ開放、教育実習生の受け入れ、学生交流など）を継続的に実施

平成 21 年度の活動状況

H21. 6. 12 大学見学会（今市分校 1 年生 10 名参加）

H21. 6. 15 高大連携推進会議

H21. 10. 28 大学見学会（模擬授業体験含む）（1 年生 224 名参加）

H21. 12. 9 ゼミ（総合演習Ⅱ）体験（2 年生 9 名参加）

### 【島根県立江津高校】

H19. 6. 1 高大連携包括協力協定を締結、連携事業（出張講座、ゼミ開放、英語授業開放、学生交流など）を継続的に実施

平成 21 年度の活動状況

H21. 6. 10 高大連携推進会議

H21. 6. 18 大学見学（3 年生 47 名参加）

H21. 7. 9 大学授業体験（2 年生 99 名参加）

H21. 12. 9 ゼミ（総合演習Ⅱ）体験（普通科 2 年生 10 名参加）

H21. 12. 10 イングリッシュワークショップⅡ体験（英語科 22 名参加）



模擬授業の様子



ゼミ体験の様子

## 大学生による中学校学習支援事業の取り組み

島根県立大学と浜田市との連携協力協定（H19.5.18 締結）に基づき、平成 19 年度から中学生の学力向上を目的として浜田市内の中学校に学生（学習支援員）を派遣し、生徒の勉強を支援している。

週 1 回 2 時間程度、放課後の時間を利用して、プリント学習等で生徒が解けなかった問題を中心に教えている。

年々参加する学生が増え、平成 21 年度は延べ 201 人がこの事業に従事した。

生徒と年齢が近いこともあり、勉強だけでなく、いろいろな悩みの相談なども受けているようである。

### 【派遣先】

- ・ 浜田第一中学校（平成 19 年度～）
- ・ 浜田第二中学校（平成 19 年度～）
- ・ 浜田第三中学校（平成 19 年度～）
- ・ 浜田東中学校（平成 20 年度～）
- ・ 金城中学校（平成 20 年度～）

### 【派遣実績】

- ・ 平成 19 年度：6 名、延べ 93 名
- ・ 平成 20 年度：11 名、延べ 128 名
- ・ 平成 21 年度：14 名、延べ 201 名



学習支援の様子

## 第2回オープンキャンパスに初出展

地域連携の活動を広く知ってもらおうと、平成21年9月20日(日)第2回オープンキャンパスに「地域連携推進センターの活動紹介」ブースを設置した。

本学教員や学生が地域で行っている活動をはじめ、全国各地から来る高校生や保護者の方々に、大学のある島根県石見地域について広く紹介した。

### 活動紹介パネルの一部



(西条柿加工品の試食調査)



(三隅町室谷での交流体験)



(里山レンジャーズの活動紹介)

「あさひ盲導犬訓練センター」の紹介コーナーでは、本物の盲導犬と触れ合いながら、盲導犬への理解が深まるようにPRを行った。



島根県西部県民センターの協力を得て、石見地方の観光地や伝統芸能も紹介した。



## 松江キャンパス

平成21年度 公立大学法人島根県立大学  
地域連携推進センター松江キャンパス運営会議 名簿

(任期:H21. 4.1~H22. 3.31)

職名	氏名	備考
教授	山下 由紀恵	・地域連携推進センター副センター長
助教	籠橋 有紀子	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(高大連携)
教授	森山 秀俊	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(教育機関連携)
教授	磯部 美津子	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(公開講座連携)
講師	塩谷 もも	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(公開講座連携)
管理課長	塩毛 利生	・事務局委員

松江キャンパス島根県立大学地域連携推進センター平成 21 年度事業概要  
ー地域をキャンパスに・キャンパスを地域にー

この度、平成 21 年度の松江キャンパス地域貢献活動を、以下のとおり公立大学法人島根県立大学の中期計画に従ってまとめました。

- 地域連携推進センターの設置（大学の自主的な地域貢献活動の総合窓口として、地域連携推進センターを設置し、地域貢献に関するコーディネート業務を実施する）  
【地域連携推進委員会の活動】報告
- 県民への学習機会等の提供（県民のニーズに対応した体系的かつ継続的な学習機会を提供する）  
【公開講座等の開催】報告、および別表「公開講座の状況」リスト  
【リカレント講座の開催】報告、および別表「講演会等」リスト
- 地域活性化に対する支援（企業や県及び市町村等と連携し、情報の提供、受託研究や共同研究の実施、政策課題の解決に対する支援及びNPO法人や民間団体等との協働による地域課題解決への支援を行う）  
【地域活性化支援ー企業・団体・NPO法人等との連携】報告  
【地域活性化支援ー自治体等との連携】報告、および別表「委員等」リスト
- 県内教育研究関係機関等との連携（地域の初等、中等教育や県内及び隣県の高等教育機関等と連携し、地域教育ネットワークの構築を図る）  
【教育機関等との連携ー保・幼・小・中・高・大の教育連携】報告  
【教育課程のための地域の施設・機関との連携強化】報告

平成 21 年度の活動では、「第 4 回食育推進全国大会」のような全国的な事業に対して、リーダーシップを取られた健康栄養学科教員をはじめとして、多くの教員、学生が参加する姿が見られました。松江キャンパスの社会貢献がさらに進んだ一年であったと思われま

す。  
また、あらゆる事業において、学生の熱心な参加姿勢がうかがわれました。圧縮されたカリキュラムの中、学校行事としての正課外ボランティアに、特に卒業を控えた 2 年生が熱心に参加するなど、地域貢献活動を通して専門性をさらに高めようと心がける姿には、学外の教育関係機関からも高い評価をいただきました。

地域貢献活動は、学生にとっても、社会へ踏み出す前の重要な第一歩となっているようです。今後は、地域貢献活動の教育的意義を検討しつつ、センターの活動を進めていきたいと考えています。

地域連携推進センター副センター長 山下由紀恵

### 【地域連携推進委員会の活動】

松江キャンパスにおいては、地域連携推進委員会が、教育機関との連携、その他高大連携、公開講座での地域貢献の3部門で委員により窓口を分担した。

- ・委員長（地域連携推進センター副センター長） 山下由紀恵（保育学科教授）
- ・幼保園のぎ・乃木小学校・湖南中学校・松江商業高等学校との三者連携を含む教育機関との連携担当委員 森山秀俊（保育学科教授）
- ・その他高大連携担当委員 籠橋有紀子（健康栄養学科助教）
- ・公開講座での地域貢献担当委員(1) 磯部美津子（総合文化学科教授）
- ・公開講座での地域貢献担当委員(2) 塩谷もも（総合文化学科講師）

### 【公開講座等の開催】

別表一覧「公開講座等の実施状況」に示すとおり、今年度は、公開講座「椿の道アカデミー」を11講座（95回：延べ参加者数2,925名）実施した。

このうち7講座は「まつえ市民大学」との連携講座であり、松江市との協定の成果が示された。

また、短期大学部出雲キャンパスとの連携講座「健康な家族のために」（5回：参加者数延べ97名）では、松江キャンパスを会場に両キャンパスの教員が連携して開催した。さらに、上記の連携講座のほかに「総合文化講座～広がる文化、広がる楽しみ～」において浜田キャンパスの教員1名（1回）を講師に招き、連携して実施するとともに、講座内容の充実を図った。

平成19年度の統合法人化以前から、公開講座「椿の道アカデミー」には毎年延べ3,000人近い受講者が参加しており、社会人の生涯学習の場として地域に定着している。今年度は過去2年に比較して講座回数が少なかったが、延べ3,000人近い参加者があった。統合法人化以前は、地域の自治体・教育委員会と連携して学外講座も実施していたが、生涯学習の社会基盤が整備されたため、近年は各団体への講師派遣に切り替え、本学主催の学外講座は実施していない。

平成21年度	95回講座	延べ参加人数	2,925人
平成20年度	122回講座		3,423人
平成19年度	110回講座		2,996人
平成18年度	学内96回講座		3,305人
	学外1回講座		62人（美郷町）
平成17年度	学内65回講座		2,434人
	学外10回講座		350人（浜田市・隠岐の島町）

今年度開催された講座のうち、三保サト子教授による「源氏物語入門」は、上記期間を含めて、長年継続して地域から受講者が集い、松江キャンパスで開催されてきたものである。三保サト子教授は、ほかに平成19年度までは「枕草子の世界」を、平成20年度から

は「ひかるの恋人たち～源氏物語の女性～」を、平成 21 年度からは「宇治十帖の世界～ひかり隠れ給ひてのち～」を開講し、多くの社会人受講者に向けて古典文学を講読し続けている。例年「源氏物語入門」に学ぶ受講者は、本学公開講座の受講者の中でも特に多く、平成 21 年度受講登録者は 183 人、9 回講座の延べ参加者数は 1,027 人であった。



「源氏物語入門」受講風景

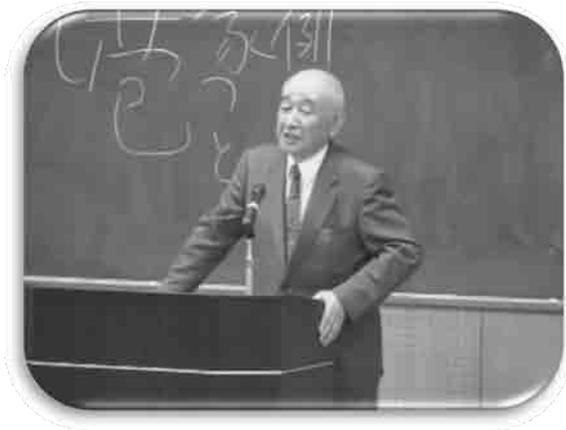


また、公開講座では、昨年度に引き続き、講座「食と文化」で大学教員以外の学外講師を招き、地域文化に関する語りを講演記録として残す作業を行っている。

本年度は、本学元学長で NPO 法人出雲学研究所所長の藤岡大拙氏、元ホテル一畑総料理長で島根県調理師会副会長の中本喜代数氏を学外講師として招き、さらに学内講師として奥野元子教授を加え、第 1 回「出雲の祭事と食文化」、第 2 回「もてなしの心・今昔」、第 3 回「ふるさと食文化よもやま話ー島根・三重編」の 3 回講座を開催した。この講座は「まつえ市民大学」連携講座の一つとして開催し、地域の食文化についての貴重な資料を作成した。受講者の方からは、「それぞれ趣が異なり、奥行きも深く、興味深かった」、「感激の 3 日間だった」など内容や今後の企画に期待する声を多く頂いた。受講者数は第 1 回 98 人、第 2 回 96 人、第 3 回 69 人であった。



第 1 回「出雲の祭事と食文化」受講風景



第1回講師 藤岡大拙元学長



第2回「もてなしの心・今昔」講師 中本喜代数氏

第2回講演より 糖尿病食(実演)  
焼いたブリに大根おろしソースをかけたもの



### 【リカレント講座の開催】

#### (1) 公開講座におけるリカレント講座

別表「公開講座等の実施状況」の通り、栄養士向けのリカレント講座として「栄養士のためのステップアップ講座（全33回）」を開催した。また、幼稚園・保育所の保育者向けリカレント講座として「早期発達支援ブラッシュアップ講座（全4回）」を開催した。

#### (2) 大学教育改革事業によるリカレント講座

短期大学部松江キャンパスおよび出雲キャンパスは、平成19年度から平成21年度まで、文部科学省委託「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」事業として、『周産期からの子育て支援拡充にむけた専門職再教育プログラムの開発』事業を実施した。両キャンパス看護学科・専攻科・健康栄養学科・保育学科教員の連携によって事業を推進するとともに、地域連携推進センターを拠点として、3キャンパス施設（大講義室・共同研究室・大学食堂等）を会場として使用し、島根県内各地の専門職の参加しやすい専門講習を目指した。



早期発達支援コース松江会場の講義風景

文部科学省委託「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」事業 【基礎課程】

平成21年第Ⅱ期 申込者延べ474名 受講者延べ431名 修了者延べ371名

プログラム番号		プログラム内容	講師	研修時間(日数)	開講日・会場
<b>【産後うつケア・虐待予防(基礎)コース】15時間 申込者108名 受講者101名 修了者87名</b>					
①1	講義	周産期の母親への援助 ー虐待を予防するためにー	埼玉県立がんセンター産婦人科医師 荷見よう子	2時間	1日 2/7(土) 出雲キャンパス
①2	講義	地域における虐待予防のとりくみー虐待予防につながる子育て中の親への接し方ー	元高知県立児童相談所小児科医師 澤田 敬	3時間	
①3	講義	産後うつ病とEPDS利用法・二次スクリーニング ー助産師の立場からー	九州大学病院総合周産期母子医療センター母性胎児部門看護師長 山下春江	5時間	1日 2/8(日) 出雲キャンパス
①4	講義 演習	MCGとは何かー被虐待児の親へのアプローチー	社会福祉法人子どもの虐待防止センター理事(CCAP)相談員 広岡智子	2時間	1日 4/26(日) 出雲キャンパス
①5	講義	保健・保育・学校等関係機関における虐待防止 ー乳幼児・学童における虐待防止ー	関西学院大学教授 才村 純	2時間	
①6	講義	地域における虐待予防体制ー島根県における虐待相談と虐待防止のネットワークー	元浜田児童相談所長 小村臨床心理士事務所長 小村俊美	1時間	
<b>【食育実践指導(基礎)コース】15時間 申込者93名 受講者81名 修了者69名</b>					
②1	シンポジウム	食育への取り組み(事例報告)	作陽保育園園長 有木信子 実践女子短期大学 准教授 白尾美佳 東京大学奨学厚生グループ 管理栄養士 栗本孝子 中国四国農政局島根農政事務所 消費生活課課長 藤井信幸	3時間	1日 2/14(土) 松江キャンパス
②2	講義	食育とはー生活及び食生活実態調査の結果から	厚生労働省健康局生活習慣対策室 栄養・食育指導官 田中弘之	2時間	
②3	講義	食育への取り組み(国および地方自治体の施策)	奥出雲町立亀嵩小学校校長 古川康徳	2時間	1日 4/19(日) 浜田キャンパス
②4	パネルD	食育への取り組み(事例報告)	西日本新聞「食くらし取材班」フリーライター 渡邊美徳 慶應義塾大学保健管理センター教授 南里清一郎 同志社女子大学生生活科学部准教授 神田知子	3時間	
②5	講義	食育の必要性ーからだ(身体機能・脳)ー	国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授 山王病院小児科部長 鈴木五男	2時間	
②6	講義	食育の必要性ー五感・こころーなぜ食育か	前日本子ども家庭総合研究所・愛育相談所所長 愛育病院心理福祉室長 川井 尚 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部 栄養学科教授 山本 妙子	3時間	1日 7/5(日) 出雲キャンパス
<b>【早期発達支援(基礎)コース】15時間 申込者273名 受講者249名 修了者215名</b>					
③1	講義	DENVER II デンバー式発達スクリーニングの手法	兵庫県立こども病院総合診療科医師 宅見晃子	2時間	1日 2/15(日) 浜田キャンパス 3/20(祝) 松江キャンパス 3/21(土) 出雲キャンパス
③2	技術演習	DENVER II デンバー式発達スクリーニングの利用	兵庫県立こども病院総合診療科医師 宅見晃子	3時間	
③3	講義	早期発達支援と親支援の進め方	島根県立大学短期大学部教授 山下由紀恵	2時間	1日 4/29(祝) 浜田キャンパス 5/9(土) 松江キャンパス 5/10(日) 出雲キャンパス
③4	講義	視覚に弱さをもつ子どものアセスメントと療育	大阪医科大学LDセンターオプトメトリスト 奥村智人	3時間	
③5	講義	就学前の発達障害児とその家族の支援について	神戸大学医学部保健学科教授 高田 哲	1.5時間	1日 5/31(日) 出雲市民会館
③6	講義	療育ネットワークをつくるー長野県での取り組みー	長野県立こども病院「障害児療育・保育・教育支援研究会」代表 理学療法士 木原秀樹	1.5時間	
③7	シンポジウム	地域の子育て支援ネットワークのあり方ー人と支援をつなぐ相談支援手帳(ファイル)の工夫ー	話題提供者: 河井克典(松江市の取り組み) 高田 哲 (神戸市・神戸大学の取り組み) 木原秀樹(長野県の取り組み)	2時間	

事業内容の検証と人材育成についての協議にあたって、島根県健康福祉部・松江市健康福祉部子育て課・松江市教育委員会特別支援教育課・出雲市地域振興部少子対策課・浜田

市市民福祉部子育て支援課の自治体「子育て支援」専門部局担当者、ならびに日本助産師会島根県支部・島根県栄養士会・島根県保育協議会・島根県国公立幼稚園長会・島根県看護協会保健師職能委員会のような島根県内職能団体、特別支援学校関係代表者、島根県社会福祉協議会福祉人材センターに委員を委嘱して、年3回の連携会議を開催した。

対象は、保健・栄養領域（助産師・保健師・栄養士・管理栄養士等）、保育・教育領域（保育士・幼稚園教諭・特別支援学校教諭等）の「子育て支援」にかかわりの深い専門資格・免許をもつ現職者および離退職者である。平成21年度中は、第Ⅱ期の3コース（各基礎・専門課程）の講習を実施した。

文部科学省委託「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」事業 【専門課程】

平成21年第Ⅱ期 申込者延べ159名 受講者延べ142名 修了者延べ131名

プログラム番号		プログラム内容	講師	研修時間(日数)	開講日・会場	
<b>【産後うつケア・虐待予防(専門)コース】30時間 申込者50名 受講者33名 修了者28名</b>						
①7	技術演習	島根県における虐待のアセスメント方法	元浜田児童相談所長 小村臨床心理士事務所長 小村俊美	8時間	1日	8/1(土) 出雲キャンパス
①8	講義・演習	産後うつ病研究の最前線	九州大学病院総合周産期母子医療センター母性胎児部門看護師長 山下春江	7時間	1日	8/23(日) 出雲キャンパス
①9	講義・演習	I.MCG(母と子の関係を考える会)とは II.子育てに悩む母親たちの気持ちと求められる援助 III.MCGグループ体験IV.MCGの実際	社会福祉法人子どもの虐待防止センター(CCAP)相談員 広岡智子・野村一枝・天野智子	15時間	2日	8/29(土)8/30(日) 出雲キャンパス
<b>【食育実践指導(専門)コース】15時間 申込者31名 受講者31名 修了者33名</b>						
②7	講義	栄養教育の方法	福岡県立大学人間社会学部教授 小松啓子	2時間	1日	10/10(土) 浜田市 いわみーる
②8	技術演習	栄養カウンセリング		3時間		
②9	講義	小児(乳幼児期・学童期・思春期)の体の特徴と栄養	獨協医科大学小児科教授 有坂 治	2時間	1日	10/25(日) 出雲市 ビッグハート出雲
②10	講義	小児(乳幼児期・学童期・思春期)の栄養ケア	日本子ども家庭総合研究所母子保健部栄養担当部長 堤ちはる	1.5時間		
②11	講義	授乳・離乳の支援ガイドについて		1.5時間		
②12	技術演習	母性(妊娠期・授乳期)の特性と栄養ケア	国立保健医療科学院母子保健室長 瀧本秀美	2時間	1日	11/14(土) 松江キャンパス
②13	技術演習	小児の栄養評価・ケア計画・実施後の評価について	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科准教授 赤松利恵	3時間		
<b>【早期発達支援(専門)コース】30時間 申込者78名 受講者78名 修了者70名</b>						
③8	講義	ソーシャルスキル発達支援のすすめ方	NPO法人フットーロLD発達相談センターかながわ所長 安住ゆう子	5時間	2日	7/19(日)7/20(月・祝) 松江キャンパス
	実習	SSTの実践プログラム	三島節子	3時間		
③9	技術演習	ボータージ初級養成講座	NPO法人日本ボータージ協会会長 山口 薫 清水直治・吉川真知子・中西慶子	18時間	3日	9/20(日)～9/22(火・祝) 出雲キャンパス
③10	技術演習	自立のための指導プログラム	社団法人発達教会第一指導科科長 武藤英夫	2時間	1日	11/8(日) 出雲キャンパス
③11	講義	発達障害の子どもたちと家族への支援	久留米大学医学部准教授 山下裕史朗	2時間		
<b>【特別セミナー】 参加者42名 (一般も含む)</b>						
	講義・実習	「幼児・グループ指導カリキュラム」セミナー	日本ボータージ協会 山口 薫・清水直治・成澤佐和子	9時間	2日	6/20(土)6/21(日) 出雲キャンパス



## 平成21年度松江キャンパス学外団体との共催事業

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
食育イベント「地域の食材を楽しく学ぼう 親子で挑戦！食リンピック」NPO法人食育推進協会・株式会社MIしまね共催	健康栄養学科教授 奥野元子	第4回食育推進全国大会に向けてのイベント 親子で食事や食べ物の大切さを楽しく学ぶ (会場:松江イングリッシュガーデン)	平成21年 5月9日	約30名	健康栄養学科教員と学生参加
第4回食育推進全国大会 内閣府・島根県・島根県食育・食の安全推進協議会主催  展示会場「食育フェア in 島根」 農林水産省主催、実施主体:(株)ジェイコム、実施協力:NPO法人食育推進協会ほか	健康栄養学科教授 名和田清子 健康栄養学科助手 坂根千津恵	・わが家の一流シェフin島根料理コンクール ・スローフードプロジェクト ・ペットボトルピザ ・味覚の授業 ・マロンのかんたん料理教室 ・うち飯スタイル料理教室 【会場:くにびきメッセ】	平成21年6 月13日、14 日	約13,100 名	健康栄養学科・保育学科教員と学生参加
	健康栄養学科准教授 直良博之	たべものミクロの世界をみてみよう(最高倍率1万倍) 【会場:くにびきメッセ】			
	健康栄養学科教授 奥野元子 保育学科准教授 飯塚由美	・乳幼児ふれあい食育ゾーン ・親子で食育！「食リンピック」 ・食育ニッポンおいしいステージ ・食事診断コーナー ・地域の鍋料理コーナー ・スペシャルトークセッション 【会場:くにびきメッセ】			
	総合文化学科准教授 岩田英作	絵本のよみかかせ【会場:くにびきメッセ】			
「親から子ども、孫へ伝える中国の食文化、日本の食文化」NPO法人食育推進協会・株式会社MIしまね共催	健康栄養学科教授 奥野元子 健康栄養学科教授 安藤彰朗	講師:在日中国大使館領事部参事官 呂小慶氏・夫人 李駿氏 立教女学院講師 小林麻衣子氏 日本食育支援機構事務局長 黛泰次氏 (会場:松江キャンパス)	平成21年 6月15日	約100名	本学教員と学生参加
「医療英語勉強会」しまね多文化共生ネットワーク共催	総合文化学科講師 ラング・クリス	医療通訳のための専門用語の学習、診療科ごとの通訳ロールプレイなどの勉強会	平成21年4 月～平成22 年3月	約10名	
「松江・浜田フィールドトリップ」島根県立大学浜田キャンパスとの共催	総合文化学科教授 小玉容子 総合文化学科講師 ラング・クリス	松江キャンパスと浜田キャンパスの学生が互いに松江・浜田を訪ね、それぞれの土地について知識を深めるとともに、交流を行った。	平成21年7 月[2回]		参加学生24 名教員4名
大学生チャレンジショップ事業 松江市まちづくり推進課	総合文化学科教授 磯部美津子 総合文化学科講師 藤居由香	生活リノベーション授業の環境である環境保全対策と資源の有効活用として、エコバックおよび木工品を作成し、展示販売を実施。さらに市民・同窓会員との交流を行なった。	平成21年3 月4日～3月 6日		総合文化学科1年32名 +2年有志 +closet部員

## 平成21年度松江キャンパス学外団体への協力事業

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
うんなん鱈パンプロジェクト	健康栄養学科教授 名和田清子 健康栄養学科助手 坂根千津恵	雲南さくらまつりでの新しい名物の開発及び食育推進活動への参画 ・焼き鱈を用いたパンの開発	平成21年4 月4日～5日 (準備は平成 21年3月より)	約240名	健康栄養学科教員と学生参加

平成21年度松江キャンパス学外団体への協力事業(続き)

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
食育意見交換会(食育推進シンポジウム) 主催:島根県	健康栄養学科教授 名和田清子	第4回食育推進全国大会フォローアップ事業のコーディネーター	平成22年 3月14日	約100名	
うんなんスイーツの杜プロジェクト	健康栄養学科教授 名和田清子 健康栄養学科助手 坂根千津恵	雲南の野菜を使ったスイーツ商品開発(プリンに続く第2弾プロジェクト) ・さくらクレープ(トマト、小松菜) ・マカロン(ごぼう、人参など) ・生クリーム大福(さつまいも、ほうれん草など) ・パウンドケーキ(チンゲン菜+ホワイトチョコなど)	平成22年1月～3月	約20名	健康栄養学科教員と学生参加
農工商連携促進事業「カラコロ大ちゃんの縁結び地産市」(主催:松江商工会議所)	健康栄養学科教授 奥野元子 健康栄養学科属託 助手 兼折真由美	安全・安心な地場産品の流通と消費、地場産品に対する意識向上、食を選択する力の育成を目的とした事業。その参画と食育の実施。会場:カラコロ広場	平成21年7月12日及び11月12日	約200～300名/回	健康栄養学科教員と学生参加
遊航(ゆこう)！まちぐるみ船出の祝い(主催:タテ町商店街協同組合、松江天神町商店街協同組合)	健康栄養学科教授 奥野元子 健康栄養学科属託 助手 兼折真由美	まちぐるみで地元の小学生の卒業を祝い、地域のふれあいと活性化を推進。イベント広場で食育ゲームを実施。会場:天神町ロータリー広場	平成22年3月7日	約1000名	健康栄養学科教員と学生参加
牛乳・乳製品利用料理コンクール島根県大会 島根県牛乳普及協会主催	健康栄養学科教授 奥野元子	牛乳・乳製品の消費拡大を図るため料理コンクール。審査委員長。会場:松江キャンパス	平成21年7月～11月	約50名	
一日食品衛生監視員および食品衛生に関するリスクコミュニケーション 主催:島根県松江保健所	健康栄養学科教授 安藤彰朗 健康栄養学科助手 坂根千津恵 兼折真由美	島根県松江保健所から、学生が一日食品監視員の委嘱をうけ、食品衛生知識の普及啓発事業に参加協力	平成21年8月4日		健康栄養学科教員と学生7名参加
島根県保育所(園)幼稚園造形教育研究会	保育学科講師 福井一尊	島根県内保育所(園)幼稚園の園児の絵画作品審査会、指導講習会を実施(会場:体育館アリーナなど)	平成20年11月21日	保育士・幼稚園教諭約200名	本学教員が作品審査員、講師を務める
松江ゴーストツアー NPO法人松江ツアーリズム研究会主催	総合文化学科教授 小泉 凡	小泉八雲の文学や松江の怪談を語りながら歩く地域提案型ツアー。講師をつとめる。(松江城周辺)	平成21年4月～9月(月1回)	約75名	
やくも教室 小泉八雲記念館(NPO法人松江ツアーリズム研究会)主催	総合文化学科教授 小泉 凡	安来および松江市内の小泉八雲ゆかりの地文学ツアー。講師をつとめる。	平成21年5月30日	約30名	
子ども塾一スーパードールさん講座— 松江市主催	総合文化学科教授 小泉 凡	小泉八雲を通して子どもたちに五感力を育む教育実践。塾長をつとめる。(松江市・出雲市)	平成21年7月24・29・30および8月3日	約30名	
松江開府400年祭 佐陀川野点船(のだてぶね)	茶道部顧問 河原修一	松江市・松江開府400年祭推進協議会主催 佐太神社境内及び佐太神社・宍道湖間の佐陀川の船内での抹茶の点て出し	平成21年10月24日(土)10月25日(日)		茶道部員9人、茶道部顧問、茶道部学外講師
大田市立図書館—としょかんフェア—	総合文化学科准教授 岩田英作	卒業プロジェクトおはなしゼミ(2年)による読み聞かせボランティア	平成21年10月31日		総合文化学科3名
まつえキムチフェスティバル (松江市国際交流協会主催)	総合文化学科講師 塩谷もも	行事の準備及びイベント運営補助ボランティア	平成22年2月7日		総合文化学科3名
アイリッシュ・フェスティバルin松江2010	総合文化学科教授 小泉凡	平成22年3月14日開催のアイリッシュ・フェスティバルの実行委員長として企画・運営・実施を推進する。(主管:財団法人松江市国際交流協会)	平成21年10月～22年3月	約300	「キャンパスゼミナール」所属学生もプロジェクトに参加
松江バリアフリーモニターツアー 主催:松江市	保育学科教授 山下由紀恵(地域連携推進委員会)	松江市とNPO法人プロジェクトゆうあいの協力による事前研修を受けて、希望学生2名が支援ボランティアに参加した。	学内研修会平成21年10月21日 活動平成21年10月28日～30日	車椅子利用者数名	総合文化学科2年1名・保育学科1年1名
乃木公民館「放課後のぎっこ広場」(文科省の放課後子どもプラン事業)	保育学科教授 山下由紀恵(地域連携推進委員会)	乃木小学校で実施される放課後の子ども活動支援ボランティアに、希望学生が地域の社会人とともに参加協力した。	学内説明会平成22年2月2日 活動平成22年2月～3月	乃木小学校児童数十名	健康栄養学科2年1名・保育学科2年1名・総合文化学科1年3名

《健康栄養学科の地域活性化支援》

第4回食育推進全国大会（開催地：松江）に向けて、プレイベント「親子で食事や食べ物の大切さを楽しく学ぶ」を、松江イングリッシュガーデンにおいて NPO 法人食育推進協会及び(株)MIしまねとの共催で開催した。学生による講演及びパネルディスカッションを行った。



松江イングリッシュガーデンでの講演風景

第4回食育推進全国大会（主催：内閣府/島根県/島根県食育・食の安全推進協議会）が6月13日（土）および14日（日）、くにびきメッセ（松江市）にて開催された。島根県やNPO 法人食育推進協会等と連携し、総合文化学科や保育学科の協力のもと、健康栄養学科の教員や学生を中心に各種のプログラムに取り組んだ。「わが家の一流シェフ in 島根」（島根県オリジナルプログラム）、食育ゲームや学生ライブ授業「あなたの食事は大丈夫？」（農林水産省につぼん食育推進事業「食育フェア in 島根」プログラム）の実施、ペットボトルピザ作りのボランティアスタッフ、うち飯スタイル料理教室でのナビゲーター、食リピック、ふれあいゾーンでの食育ボランティアスタッフ、走査型電子顕微鏡を使って「食べ物のミクロの世界をのぞいてみよう」（島根県立大学短期大学部ブース）の出展、「読み聞かせ」（キッズコーナー）の実施等々、多岐にわたるプログラムであった。食育について楽しく学べ、食の大切さがよく理解できたなど、来場者から大きな反響があった。来場者は2日間で約13,100人と大会は大盛況のうちに閉幕した。



「わが家の一流シェフ in 島根」の様子



学生ライブ授業の様子



ペットボトルピザの作り方を説明



うち飯スタイルでの調理風景



食リンピックの様子



ふれあいゾーンでの様子



読み聞かせの様子

また、在日中華人民共和国大使館領事部参事官の呂小慶氏、夫人の李駿氏を招き、「親から子ども、孫に伝える中国の食文化、日本の食文化」と題し、講演会を開催した。本学教職員と学生 100 名の参加があった。設営には、NPO 法人食育推進協会、(株)MIしまね、本学教職員の協力を得た。



特別講演会「親から子ども、孫に伝える中国の食文化、日本の食文化」

このほか、健康栄養学科では西条ガキ、しまね和牛、ヤマトイモ等の地域特産品に関する利用加工や製品化、ブランド化、販路拡大といった地域からの要望に応え、データの提供や技術指導を行った。また、雲南市の食育推進活動への参加・協力の依頼に対して、うんなん鯖パンプロジェクト、うんなんスイーツの杜プロジェクトにおいて、焼き鯖パン、野菜を使ったスイーツなどの食品開発に協力した。さらには牛乳料理（島根県牛乳普及協会）、わが家の一流シェフ料理等のコンクール（島根県食育・食の安全推進協議会）の応募や開催への協力のほか、松江商工会議所や松江市内の商店街協同組合主催のイベントへの依頼に学生を動員し、食育ゲームを実施した。

次年度も、引き続き、地域の活性化の観点から、西条柿では、安定的に熟柿をつくる技術の確立、熟柿の有効ポリエチレン袋包装による保存と輸送性の向上、安価で大量にピューレを生産する技術開発など、しまね牛は脂肪酸組成やアミノ酸組成の分析、ヤマトイモはβ-アミラーゼ活性や粘弾性などの調理特性、調理への利用に関する研究を推進する。また、雲南市の食育推進活動への参加・協力も引き続き行う。

#### 《保育学科の地域活性化支援》

保育学科においては、島根県保育所（園）・幼稚園造形教育研究会顧問として、福井一尊講師が県内保育所・幼稚園に連携協力し、平成21年11月30日に本学で園児の絵画作品審査会を実施した。同審査により選ばれた園児の作品は、島根県立美術館で平成22年1月14日から18日「第5回島根県保育所（園）・幼稚園造形作品展」として展示された。

#### 《総合文化学科の地域活性化支援》

総合文化学科では、しまね多文化共生ネットワークと共催して「医療英語勉強会」を開催した（本学担当はラング・クリス講師）、また、小泉凡准教授が松江ゴーストツアー、やくも教室を実施した。さらに、第4回食育推進全国大会に協力して、卒業プロジェクトおはなしゼミが、読み聞かせボランティアを実施した（本学担当は岩田英作准教授）。

「医療英語勉強会」は、島根に住む外国人を対象とした医療通訳育成・技能向上を目的として実施中の事業である。しまね多文化共生ネットワークと連携し、平成21年4月から3月にかけて、月に一度金曜日の午後1時から3時までと午後7時から9時までの2クラスで勉強会を実施した。勉強会参加者は、10名程度である。

勉強会では、実際の医療場面を想定したテキスト文の日本語から英語への翻訳学習を行ない、診療科ごとの通訳会話役割練習を行なうことで、医療用語を身につけることを目的とした。



【医療英語勉強会風景】

また、総合文化学科小泉凡教授は、保育学科の福井一尊講師とともにNPO法人松江ツーリズム研究会が運営する小泉八雲記念館と連携し、企画展「ラフカディオ・ハーンとギリシャ～もうひとつのルーツと受け継がれる精神性～」(平成21年4月25日～平成22年3月31日)を企画・実施した。その他、同NPO法人との連携事業として「小泉八雲文学バスツアー'09」(安来市内のゆかりの地訪問、平成21年5月30日)および、「松江ゴーストツアー」(平成21年4月から平成22年3月まで、計11回)を実施した。この事業は国土交通省「ニューツーリズム創出・流通促進事業」に採択されている。また、同NPO法人の社員研修会の講師として「松江における小泉八雲記念館の意味」について講演を行った。(平成22年2月25日・3月9日)



【小泉八雲記念館企画展「ラフカディオ・ハーンとギリシャ～もうひとつのルーツと受け継がれる精神性～」の会場風景】

平成21年6月13・14日の2日間、松江市のくにびきメッセで開催された第4回食育推進全国大会に、総合文化学科の卒業プロジェクト「近文おはなしゼミ」の学生11名が、絵本の読み聞かせボランティアとして参加した。セッションは1回につき30分、つなぎの遊びを挟みながら2冊の絵本を読む構成で、1日目の午前・午後、2日目の午前・午後、それぞれ1回、計4回のセッションを行った。大会の趣旨にちなんで、食に関わる絵本や



【食育推進全国大会での活動風景 (1)】



【食育推進全国大会での活動風景 (2)】

遊びで構成し、多くの子どもたちと触れ合うことができた。アンケートの結果も概ね好評で、「がんばってくれていたのよかったです。ウンチの話はわかりやすく楽しめました」「学生の皆さんは、私たち保護者顔負けの子どもに慣れた感じのやさしい語りかけで驚きました。子どもも最初から最後まで正座でよく聞いていました」などの感想をいただいた。

#### 【地域活性化支援－自治体等との連携】

松江キャンパスは、平成 19 年度に松江市との協力協定を締結し、その後は協定を踏まえ、「公開講座」でまつえ市民大学と連携するほか、松江市主催行事に本学教員と学生が協力するなど連携を強化している。正課教育において、松江市職員を非常勤講師とする複数の専門科目講義・実習、松江市立施設・学校における実習も継続して実施している。

今年度は、松江市都市計画部まちづくり推進課の「大学生チャレンジショップ事業」に、商業施設士補資格取得を目指す総合文化学科生活文化デザイン系 1 年生 32 名全員が参加した。この事業は、中心市街地活性化のために、松江市中心部にある山陰中央新報社所有の「殿町ギャラリー」を松江市が借り上げ、まちなかでの展示・販売により自分の力を試みたい大学生を応援するという主旨である。

今回の参加概要は次の通りである。店舗名は「eco」ショップ、テーマは「～地球を暖々からだんだんへ～」を掲げた。松江市では、平成 22 年 4 月からスーパーマーケットでのレジ袋有料化が決まっており、エコバッグは消費者のニーズがあると考えた。

- 実施内容
- 1) 商業施設士補資格取得のために商業空間デザインを学ぼうと、店舗ディスプレイに挑戦した。
  - 2) 販売商品には手作りしたものを主に準備した。
    - ①生活リノベーションの授業で学習した、着古したスカートやブラウスを使って作ったエコバッグ

②マルチメディア演習室にあるパソコンソフトを使い、各自がデザインをした図案をプリントしたエコバッグ

③かご用バッグ、自転車用バッグや就学支援グッズとしての、コップ入れ、弁当入れ&ベルト、上履き入れ、髪飾りのシュシュなど

④フリーマーケットコーナーを設け、古着も準備した。

3) 来客者に喫茶コーナーで茶菓を提供した。



【4月からのレジ袋の代わりに】



【若いお母様から好評でした】



【メンバーです、頑張りました】



【交流が出来ました】

殿町ギャラリーでの展示販売実施日時は、平成 22 年 3 月 4 日（木）10:00～15:00 が展示販売準備、開店時間は 3 月 5 日（金）10:00～18:00、6 日（土）10:00～16:30 であった。来場者数は 1 日目 74 名、2 日目 92 名の合計 166 名であった。

#### 【松江市主催文化教育行事への教員協力】

- ・松江市観光文化ブランド推進課主催「子ども塾—スーパーヘルンさん講座」  
「子ども塾」は小泉八雲を活用して子どもたちの五感力の育成をめざす教育実践活動である。総合文化学科小泉凡教授が平成 16 年からこの「子ども塾」の塾長として協力している。

平成 21 年度は、7 月 24 日・29 日・30 日・8 月 3 日に塾を開き、参加者は小学生 4・5・6 年生の児童計 17 名が参加した。（会場：市民活動センター、

島根県立青少年の家など)。出雲市の島根県立青少年の家で行った合宿では、小泉のレクチャーのほか、兵庫県立人と自然の博物館と連携し、八雲が愛した虫の音を聞き分ける実践活動を行った。講師として同博物館の大谷剛研究員・川東丈純氏に指導をお願いした。なお、「子ども塾」の活動は、環境省が平成21年3月に発行した『感覚環境のまちづくり事例集～こんな“まち”いい感じ』に採録された。



【「子ども塾」2009の参加者とともに】



【「子ども塾」2009の活動風景】

・「アイリッシュ・フェスティバル in 松江 2010」

(財) 松江市国際交流協会・山陰日本アイルランド協会が共催する行事で、アイルランドと松江の文化交流と中心市街地活性化を目的として、パレードおよびアイルランドにちなんだ各種イベントを開催。平成22年3月14日に開催された。小泉凡教授が実行委員長として、本学のキャンパスゼミナール部に所属する約10名の学生とともに企画・実施に携わった。

[松江市主催行事への学生ボランティア参加協力]

・松江開府400年祭事業「佐陀川野点船(のだてぶね)」への協力

松江市・松江開府400年祭推進協議会主催 佐太神社境内及び佐太神社・宍道湖間の佐陀川の船内での抹茶の点て出しに、茶道部員9人が、茶道部顧問・茶道部学外講師とともに協力した(平成21年10月24日・10月25日)。

・松江市観光バリアフリー・モニターツアーへの協力

松江市主催、NPO 法人プロジェクトゆうあいの協力により行われた車椅子利用者のための観光モニターツアーに、総合文化学科学生1名、保育学科学生1名が研修を受けてボランティアとして協力した(平成21年10月28日～30日)。

・まつえキムチフェスティバルへの協力

松江市国際交流協会主催で行なわれた松江テルサでの「まつえキムチフェスティバル」の準備と運営補助にボランティアとして参加した。会場の受付係、韓国茶の販売係、市民が参加するキムチ漬け込み体験係の補助として、総合文化学科3名(2年生1名、1年生2名)の学生が協力した(平成22年2月7日)。

#### 【松江市立女子高等学校との連携】

- ・松江市立女子高等学校によるキャンパス見学と卒業生交流会  
松江市立女子高等学校1年生のキャリア教育推進に協力して、1年生全員(115名)のキャンパス見学会を実施した。平成21年10月21日午後14:00から17:00までの3時間に、施設見学と模擬授業を実施した。  
模擬授業は、総合文化学科地域連携推進委員塩谷もも講師により「異文化を学ぶ」授業として行われた(会場:大講義室)。1年生115名を対象に、ジャワでのフィールド・ワーク調査をもとにした文化人類学入門の授業(45分)が行われ、全員が熱心に受講した。講義後に同じ大講義室で、松江市立女子高等学校卒業の本学学生との交流会があり、質疑応答が行われた。

#### 【正課授業における連携協力】

- ・健康栄養学科専門科目における、松江市管理栄養士による実習  
健康栄養学科専門科目「ライフステージ栄養指導実習」(2年生前期必修科目・1単位)において、「松江市立八雲小学校」栄養教諭の長島美保子講師が、児童を対象とした栄養教育部門の実習を5回担当した。15回中残り10回は奥野元子教授により行われた。健康栄養学科専門科目「給食計画実習」(2年生前期必修科目・1単位)において、同じく長島美保子講師が、学校給食部門および保育所部門の実習10回を担当した。15回中残り5回の病院部門は松江市内松江記念病院管理栄養士永見葉子講師により行われた。
- ・保育学科専門科目における、松江市立幼稚園長・松江市立保育所長・松江市立児童センター長による講義  
保育学科専門科目「障害児保育」(2年後期選択科目・2単位)の非常勤講師として、「松江市立川津幼稚園」園長の山尾淳子講師、「松江市子育て支援センター」所長の石橋富佐美講師が5回ずつ講義を担当した。15回中残り5回は元「ふじのみ園」園長補佐曾田関子講師により行われた。松江市の30年以上にわたる障害児保育の歴史が、3名の立場から学生に講義された。  
保育学科専門科目「児童館(児童クラブ)の機能と運営」(1年後期選択科目・2単位)の非常勤講師として、「松江市立八雲児童センター」所長の石倉恒巳講師により、実際の児童館活動に関する講義が行われた。
- ・松江市立施設・学校における実習協力  
健康栄養学科・保育学科の専門科目実習について、松江市立病院、松江市立学校給食センター、松江市立小学校、松江市立保育所、松江市立幼保園のぞ、松江市立幼稚園が協力し、実習指導を行っている(実習欄に別掲)。
- ・松江キャンパス近辺の幼・小・中学校との密接な連携協力  
学生ボランティアが放課後子どもプラン事業に協力したほか、下記の教育関係欄に記載のとおり、松江市立幼保園のぞ、松江市立乃木小学校、松江市立湖南中学校等と、教育上の密接な連携協力を行っている。

#### 【教育機関等との連携－保・幼・小・中・高・大の教育連携】

初等中等教育機関との教育連携については、平成18年度の協定締結以降、各学科における松江市立幼保園のぞ・松江市立乃木小学校・松江市立湖南中学校との緊密な連携協力のもと、教員による特別授業のほか、学生による読み聞かせ実践・食育実践指導等の連携事業を実施し、初等・中等教育側にも、大学教育側にも、目覚ましい教育的成果をあげている。

平成21年度松江キャンパス教育機関との連携事業

機関名・事業名称	本学担当者	事業内容	期間	本学参加学生
松江立乃木小学校 「近文おはなしゼミ」	総合文化学科准教授 岩田英作	卒業プロジェクト「近文おはなしゼミ」の読み聞かせの実践の場として乃木小学校が連携協力	平成21年5月 ～7月	総合文化学科2年 11名
松江立乃木小学校 松江立幼保園のぎ 「読み聞かせの実践」	総合文化学科准教授 岩田英作 総合文化学科准教授 マユアキ	正課授業「読み聞かせの実践」(1年生前期選択科目・2単位)の実践の場として幼保園のぎが連携協力	平成21年6月 ～7月	総合文化学科1年 46名
松江立乃木小学校 「朝の読み語り」	総合文化学科教授 小玉容子 総合文化学科講師 ラング・クリス	総合文化学科授業「キッズイングリッシュ&ストーリーテリング」(2年生前期選択科目・1単位)の実践の場として、乃木小学校で「英語かみしばい」を実施	平成21年6月 ～7月	総合文化学科16 名
松江立乃木小学校 読み聞かせ活動	総合文化学科准教授 岩田英作 総合文化学科准教授 マユアキ	卒業プロジェクトおはなしゼミ(2年)及び1年有志の読み聞かせ実践の場として乃木小学校と連携協力	平成21年10 月～平成22 年2月	総合文化学科27 名
松江立乃木小学校 総合的学習「小泉八雲と松江」	総合文化学科教授 小泉 凡	郷土文化の理解を目的とした総合的学習の時間に3年制全員に「小泉八雲と松江」に関する授業を行う。	平成22年1月 26日	
松江立内中原小学校 英語活動「へるんさんの異文化体験」	総合文化学科教授 小泉 凡	英語活動の時間に、3年生全員に小泉八雲の異文化体験に関する授業を行う。	平成22年2月 2日	
松江立乃木小学校5年生 食育授業「あぶら・からだ・食事」	健康栄養学科准教授 直良博之	乃木小5年生148名を対象に「あぶら・からだ・食事」をテーマとする食育授業を実施した。	平成21年 12月15日	健康栄養学科学 生および教員
松江立八雲小学校 夏休み農業体験・料理教室 「夏野菜をたっぷり味わおう」 (松江立八雲小学校PTA主催)	健康栄養学科教授 奥野元子	家族と一緒に夏休み農業体験・料理教室に参加し、学生は食育を体験した。	平成21年8月 3日	健康栄養学科2年 生6名
松江立忌部小学校 読み聞かせ活動	総合文化学科准教授 岩田英作	卒業プロジェクトおはなしゼミ(2年)の読み聞かせ実践の場として忌部小学校と連携協力	平成22年1月 ～3月	総合文化学科11 名
出雲立遙岨小学校 読み聞かせ活動	総合文化学科准教授 岩田英作	卒業プロジェクトおはなしゼミ(2年)の読み聞かせ実践の場として遙岨小学校と連携協力	平成22年3月 10日	総合文化学科3名
松江立忌部小学校 英語活動「アイルランドについて」	総合文化学科教授 小泉 凡	英語活動の時間に、3年生～6年生全員にアイルランドの文化に関する授業を行う。	平成22年2月 3日	
斐川町立出東小学校 食育授業「身近にある食材・食品を考えてみよう」	健康栄養学科教授 奥野元子	出東小学校5年生42名に対し、NPO法人食育推進協会及びMILまねとの共催事業として実施した。	平成22年 3月8日	健康栄養学科2年 生2名
松江立本庄中学校	健康栄養学科教授 名和田清子	本庄中学校1・2・3年生84名および教職員・保護者を対象として、食に関する講演会を実施した。	平成21年 9 月30日	なし
松江立第四中学校	健康栄養学科教授 名和田清子	第四中学校1・2年生および教職員・保護者40名を対象として、食に関する講演会を実施した。	平成21年 9 月26日	健康栄養学科学 生5名
松江立湖南中学校 松江立サタデースクール事業	保育学科教授 山下由紀恵 (地域連携推進委員会)	湖南中学校で実施された土曜日の学習支援(サタデースクール事業)に希望学生がボランティアで協力した。	平成21年6月 ～平成22年2 月	健康栄養学科・保 育学科・総合文化 学科2年生各1名
島根県教育委員会 特別支援教育「学生支援員」参加	保育学科教授 山下由紀恵	平成21年度発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業に、主に保育学科学生から希望者が登録、実際に松江市・出雲市等で小・中学校支援を実施した。	平成20年 7月から継続 実施	保育学科学生1年 32名2年8名・総 合文化学科1年3 名2年2名が登録 、10名が活動

高大連携については、平成 18 年に協定を締結した島根県立松江商業高等学校との間で相互交流を実施し、面接指導等を実施している。松江市立女子高等学校との連携事業として総合文化学科塩谷もも講師による模擬授業「異文化を学ぶ」も行われた。また同じく松江市立女子高等学校では、健康栄養学科中塚敏之教授による「郷土理解」校外実習も行われた。島根県立松江東高等学校では、健康栄養学科安藤彰朗教授による出張講義「食べ物と身体の間をみてみようーエネルギー代謝を考えるー」が行われた。島根県立大社高等学校では、健康栄養学科直良博之准教授による出張講義「おいしく食べる体のしくみ 五官（感覚）の解剖生理学」が行われた。島根県立大東高等学校では、健康栄養学科名和田清子教授による出張講義「食育について」が行われた。

連携協力協定を結んでいる松江市立湖南中学校のサタデー・スクールの支援員に健康栄養学科 2 年 1 名、保育学科 2 年生 1 名、総合文化学科 2 年 1 名、計 3 名の学生が協力した。

また、島根県教育委員会「平成 21 年度発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業に係る島根県学生支援員事業」と連携協力して、全学学生の希望者から学生支援員の登録を受け、学生支援員を派遣している。今年度は 2 年生 10 名、1 年生 35 名の計 45 名の事前登録希望があった。保育学科 40 名、総合文化学科 5 名であった。うち 10 名が活発に活動し、実際に支援員として活動した対象校と学年、支援員の学生は、以下のとおりであった。

松江市立乃木小学校 2 年生（保育学科 2 年生）

松江市立中央小学校特別支援教室（保育学科 2 年生）

松江市立大庭小学校特別支援教室（保育学科 2 年生）

松江市立湖東中学校 1 年生（保育学科 2 年生）・同中学校 2 年生（保育学科 2 年生）

出雲市立塩冶小学校 4 年生（保育学科 1 年生）

出雲市立長浜小学校 1 年生（保育学科 1 年生）

出雲市立佐太小学校 3 年生、4 年生（保育学科 2 年生）

#### 《健康栄養学科の教育機関連携》

本庄中学校では、1・2・3 年生 84 名および教職員・保護者を対象として食に関する講演会を実施した。

乃木小学校では 5 年生約 148 名を対象に、肥満を予防する観点から、採血を機会に「あぶら・からだ・食事」について考える食育授業に、健康栄養学科教員と学生が取り組んだ。児童からは、体内での脂肪の行方や食べ物について多くの質問があった。

斐川町立出東小学校での食育授業「身近にある食材・食品を考えてみよう」は、NPO 法人食育推進協会および MI しまねとの共催事業として実施した。授業は、学生が主体となり、自ら卒業研究で作成した食育教材を活用した。対象は、5 年生 42 名であった。



食育授業風景

左: 乃木小学校 右: 出東小学校

その他、松江市立女子高校で、郷土理解校外実習として、健康栄養学科教員がそば打ちを指導した。また、大東高等学校 PTA 研修会において、健康栄養学科教員が食育についての講演を行った。

#### 《保育学科の教育機関連携》

保育学科の正課「児童文化」では、1年生2年生が合同で複数のパートに分かれて「児童文化」のための制作過程を学び、「ほいくまつり」開催によって地域の子どもたちと交流しつつ、大学での学びを還元している。この「ほいくまつり」の案内にあたって、松江市内保育所・幼稚園がポスター掲示・パンフレット配布に協力している。この「児童文化」の教育課程は、平成17年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」の選定を受けて全国的にも評価された。平成21年度「第36回ほいくまつり」は、平成21年6月27日（土）に島根県民会館大ホールで開催され、多くの親子が学生の作りだした歌唱・司会・影絵・劇などの「児童文化」を楽しみ学生と交流した。以下の資料は、ウェブ上の保育学科紹介に掲載された、学生による「ほいくまつり」紹介の一部である。



来場者への手作りペンダントのプレゼント



県民会館客席の様子



「ほいくまつり」歌唱ステージ



来場者のお見送り

## 「ほいくまつり」とは？

私たち島根県立大学短期大学部保育学科は、毎年6月島根県民会館大ホールに1,500人の子どもたちとその保護者を招待して『ほいくまつり』を開催しています。

この『ほいくまつり』というのは、私たち学生が日頃学内で学んでいることを総合表現として舞台上で発表することを通して県の児童文化向上に寄与するとともに、地域の子どもたちや保護者の皆様に楽しく夢のあるひとときを過ごしてもらおうという趣旨で開催しているものです。

取り組みの軸となるのは実行委員会です。実行委員長、総合責任者、会計の三役を中心に各パートのリーダーを合わせた14人がその構成メンバーです。このリーダー会は定期的開催され、各パートの要望や意見が交流されるとともに、話し合いを通じて方針が出されかつ総合的な指示が出されていくのです。

『ほいくまつり』の取り組みは、『児童文化』という授業の一環として行われますが、週に2回の授業の時間だけでは時間は全く足りません。そこで、準備はほぼ毎日、放課後残って行うこととなります。5月に入るとパート別のリハーサル、6月になると全体リハーサルが始まります。その場では先生方や他のパートの仲間たちから多くの課題点が出され、よりよいものを創るために各パートは議論をし、修正していきます。もちろん、なかなか自分たちの思うようにはいかず、みんな悩みながら進めていくこととなります。しかし、その過程の中で協力することの大切さを学び、感性を磨いていくとともに、保育というものが要求する厳しさを知るのです。

当日、子どもたちの笑顔にたくさん出会えることは最高の感動ではありますが、同時に『ほいくまつり』の取り組み過程そのものが私たち自身に大きな自信と勇気と夢を与えてくれるのです。



## 《総合文化学科の教育機関連携》

総合文化学科では、松江市立乃木小学校・幼保園のぎ・松江市立忌部小学校・出雲市立遙堪小学校での「読み聞かせの実践」、松江市立乃木小学校での「朝の読み語り（英語）」等を通して、教育機関との連携活動を行った。

また、総合文化学科の小泉凡教授は、松江市内の下記の高等学校と小学校における総合的学習の時間および英語活動の時間に、専門分野や総合文化学科の担当授業「小泉八雲入門」や「妖怪学」の内容を生かした出前授業を行った。

- 乃木小学校 総合的学習「小泉八雲と松江」（平成 22 年 1 月 26 日）
- 内中原小学校 英語活動「へるんさんの異文化体験」（平成 22 年 2 月 2 日）
- 忌部小学校 英語活動「アイルランドについて」（平成 22 年 2 月 3 日）
- 開星高等学校総合学習（ドリカムプラン）「妖怪学講座」（平成 22 年 3 月 4 日）



小泉凡教授【内中原小学校での授業風景】

### 「松江・浜田フィールドトリップ」

平成 21 年度、松江キャンパスと浜田キャンパスの学生同士が、それぞれの本拠地にある観光スポットを英語で案内するフィールドトリップを実施した。参加学生は、松江キャンパスでは「観光英語 I」（総合文化学科 1 年前期）の受講生を対象に希望者を募り、浜田キャンパスでは「ライティング」の受講生から希望者を募った。

松江キャンパスからは 17 名、浜田キャンパスからは 8 名の参加者で、松江でのフィールドトリップを 6 月第 4 日曜日に実施した。松江キャンパスの学生は、小泉八雲ゆかりの場所を訪ねるというテーマで、宍道湖嫁が島伝説や月照寺の大亀の話など八雲のストーリーを事前に調べ、英語で覚えるなどして、浜田キャンパスの学生に説明した。浜田でのフィールドトリップは 7 月第 1 日曜日に実施した。英語で観光クイズをしたり、畳が浦などの観光地を訪ね、英語での説明を聞いたりした。

日本人同士でも英語を使ってコミュニケーションを行うことで、有意義な活動となっただけでなく、学生同士の貴重な交流の場ともなった。

### 松江市立乃木小学校「朝の読み語り」

平成 21 年度の「キッズイングリッシュ&ストーリーテリング」（総合文化学科 2 年前期）の受講生 16 名は、松江市立乃木小学校の「朝の読み語り」活動にボランティアとして参加した。これは小学校で実施されている英語活動の一環として、受け入れていただいたものだった。6 月下旬から 7 月にかけての水曜日に、授業で作成した日本昔話の「英語かみしばい」を、学生が読んで小学生に聞いてもらった。

学生は小学生に楽しんでもらうために、絵をどのように描けば内容理解・英語理解の助けになるかを考え、工夫しながら紙芝居作成をした。また、プレゼンテーションの仕方に関しても、英語のリズムなどを意識した練習を積んで発表に取り組んだ。聴き手の小学生からは、英語での発表に関して、「英語の発音が上手だった」とか「英語でこんなことができることはすごいので、自分もいつか取り組んでみたい」というような感想を受け取った。

学生は貴重な実践の場を得ることで、コミュニケーションの手段としての英語を体験学習できた。また、小学校での英語活動に多少なりとも寄与できたものとする。



【乃木小学校での英語紙芝居】



【乃木小学校図書館での発表準備】

本年度の「読み聞かせの実践」（1年前期）の受講者は46名で、過去最高の人数となった。5月から7月にかけて、毎週月曜日は松江市立幼保園のぎ、水曜日は松江市立乃木小学校で、絵本の読み聞かせに取り組んだ。乃木小学校での実践には、卒業プロジェクト「近文おはなしゼミ」の学生11名が参加した。後期の11月から2月にかけては、「近文おはなしゼミ」の学生11名と1年有志16名によって、乃木小学校での読み聞かせを継続した。

本年度1月からは、松江市立忌部小学校において、新たに読み聞かせの活動を行うこととなった。「近文おはなしゼミ」の11名が、1月から3月にかけて、金曜日の朝、計6回の実践を行った。忌部小学校では従来読み聞かせのボランティアが入ったことがなく、子どもたちもワクワクしながら金曜の朝を待っているようである。山陰最大のマンモス校乃木小学校とは対照的に、忌部小学校は1学年1クラスの小じんまりした学校である。「近文おはなしゼミ」の学生たちは両方の学校での読み聞かせを経験し、視野が広がったようである。10月31日には、大田市立図書館の「としょかんフェア」の一環として、「近文おはなしゼミ」の学生3名が読み聞かせの活動を行った。これは、本学でかつて読み聞かせを実践し、現在大田市立図書館に司書として勤務している卒業生からの依頼で実現したものである。



【幼保園のぎでの実践風景（1）】



【幼保園のぎでの実践風景（2）】



【平成 21 年度「読み聞かせの実践」受講の総合文化学科 1 年生】

### 「第 14 回児童文学劇場の開催」

12 月 6 日（日）、松江キャンパス視聴覚室において、総合文化学科 2 年生 28 名による「児童文学劇場」が開催された。宮沢賢治劇場の時から通算で 14 回目の公演となる。本来、10 月の大学祭で公演する予定であったが、新型インフルエンザの影響で大学祭そのものが中止となり、当劇場も延期を余儀なくされた。乃木小学校ほか市内小学校 17 校、幼保園のぎほか市内幼稚園・保育所 23 施設にチラシを配布し直し、会場の飾り付けや司会の衣装なども、冬仕様にすべて作り直し、テンションを再度高めて、12 月の本番当日を迎えた。幸い入場者数も過去最高の 200 名を記録し、劇を通して地域の方々との絆をいっそう深めることができた。



【児童文学劇場(1)】



【児童文学劇場(2)】



【児童文学劇場(3)】

### 【教育課程のための地域の施設・機関との連携強化】

健康栄養学科、保育学科において実習先との連携の強化策を検討し、可能な部分から実施している。健康栄養学科では、栄養士養成のため各種給食施設等との緊密な連携を図っている。保育学科は、実習指導計画から実習評価に至るまで実習先と連携して実習成果の充実を図っている。

#### 《健康栄養学科の実習施設・機関との連携》

栄養士免許を取得するためには、校外実習が必修である。平成21年度に実施した県内施設を下表に示した。下記の施設は、長年にわたっての実習受け入れ施設であり、卒業生が管理栄養士として勤務している。本学非常勤講師、学び直し支援講座、島根県栄養士会研修会、食育活動等を通して連携強化を図る一方で、実習終了後は、評価票の提出を求め、また、次年度の内容を検討する資料として、学生が作成した実習レポートを送付した。

平成21年度 校外給食実務実習依頼先一覧

地区	所在	実習依頼先	実習人員	日程
病院	松江市	松江赤十字病院	3	9/7～9/11
		松江市立病院	2	8/24～8/28
		独立行政法人国立病院機構 松江病院	2	8/24～8/28
		松江記念病院	3	9/7～9/11
		医療法人同仁会 こなんホスピタル	1	8/17～8/21
	出雲市	島根県立中央病院	3	8/31～9/4
	安来市	安来市立病院	1	8/17～8/21
	雲南市	公立雲南総合病院	2	8/17～8/21
	浜田市	独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター	2	8/24～8/28
学校	松江市	松江市立北学校給食センター	2	9/7～9/11
		松江市立西学校給食センター	2	9/7～9/11
		松江市立南学校給食センター	4	9/7～9/11
	出雲市	出雲市立出雲学校給食センター	2	9/7～9/11
	隠岐郡	知夫村学校給食共同調理場	1	9/7～9/11
	安来市	安来市立十神小学校	1	9/7～9/11
	介護施設	松江市	介護老人保健施設 もちだの郷	1

《保育学科の実習施設・機関との連携》

保育学科では、「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」「保育実習Ⅱ」については、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について（厚生労働省雇児発第1209001号）」にもとづき、保育学科が実習施設を選定して実習指導委員会を設けている。毎学年度の始めに、この委員会の協議によって保育実習計画を策定している。

平成21年度 保育学科実習実施施設・機関

区分	所在	施設・機関名	備考
保育所	島根県松江市 島根県東出雲町 島根県出雲市 島根県雲南市	松江市立美保関東保育所 法吉保育所、松江市立末次保育所、しらとり保育所、嵩見保育所、松江市立城東保育所、松江市立白湯保育所、松江ナザレン保育園、みどり保育所、袖師保育所、つわぶき保育園、松江保育所、虹の子保育園、松尾保育所、愛恵保育園、しらゆり保育園、古志原保育所 東出雲町立揖屋保育園 出雲乳児保育所、おおつか保育園、おやま保育園、たちばな保育園、ひまわり第1保育園 雲南市立大東保育園	1年前期・保育実習Ⅰ（保育所） 1年後期・保育実習Ⅱ
児童館・児童クラブ	島根県松江市	松江市立東津田児童館、松江市立八雲児童センター、竹矢児童クラブ、乃木児童クラブ、乃木第2児童クラブ、乃木第3児童クラブ、やくも児童クラブ	1年後期・保育実習Ⅲ
児童福祉施設等	島根県松江市 島根県出雲市 島根県浜田市 島根県隠岐郡 鳥取県米子市	松江赤十字乳児院、島根東光学園、双樹学院、松江学園、松江整肢学園、国立病院機構松江病院、島根県立わかたけ学園、しののめ寮 さざなみ学園 聖喙寮、こくぶ学園 仁万の里児童部 米子聖園天使園	2年前期・保育実習Ⅰ（施設）
介護福祉施設等	島根県松江市	長命園、生協ふれあいデイサービスセンター、生協ヘルパーステーション、ふれあいヘルパーステーション	2年前期・訪問介護員実習
幼稚園	島根県松江市 島根県安来市 島根県出雲市 島根県斐川町 島根県雲南市 島根県奥出雲町 島根県隠岐郡 島根県大田市 島根県江津市 島根県浜田市 島根県益田市 鳥取県米子市 鳥取県境港市 鳥取県東伯郡 鳥取県鳥取市 栃木県宇都宮市 兵庫県たつの市 岡山県津山市 岡山県備前市 広島県世羅郡 広島県三次市 広島県東広島市 広島県広島市 山口県防府市 山口県山口市 大分県大分市	松江市立川津幼稚園、松江市立内中原幼稚園、松江市立津田幼稚園、松江市立竹矢幼稚園、松江市立幼保園のぞ、松江市立大庭幼稚園、松江市立八雲幼稚園、松江市立佐太幼稚園、松江暁の星幼稚園 安来市立広瀬幼稚園 出雲市立平田幼稚園、出雲市立中央幼稚園、出雲市立塩冶幼稚園、出雲市立大津幼稚園、出雲市立川跡幼稚園、出雲市立高浜幼稚園、出雲市立禰原幼稚園、光幼幼稚園 斐川町立莊原幼稚園、斐川町立中部幼稚園、斐川町立西野幼稚園 雲南市立西幼稚園、雲南市立木次幼稚園 奥出雲町立三沢幼稚園 文化学院幼稚園 大田市立大田幼稚園 江津市立江津幼稚園 浜田市立石見幼稚園 益田天使幼稚園 米子みどり幼稚園、みずほ幼稚園 聖心幼稚園 琴浦町立八橋幼稚園 鳥取第三幼稚園、鳥取第五幼稚園 すすめ幼稚園 たつの市立小宅北幼稚園 津山市立鶴山幼稚園 備前市立香登幼稚園 世羅幼稚園 三次中央幼稚園 板橋さざなみ幼稚園 ゆうき幼稚園 右田幼稚園 山口中央幼稚園 ごとう幼稚園	2年前期・後期・教育実習

この実習施設・機関により構成された実習指導委員会で策定された実習計画により、実習全体の方針、実習の段階、内容、施設別の期間、時間数、学生の数、実習前後の学習に対する指導方法、実習の記録、評価の方法が明らかにされている。

「保育実習Ⅲ」と「訪問介護員実習」については、実習施設を保育学科が選定して実習指導委員会を設けている。実習生、実習施設の指導者、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら実習の効果を十分発揮するように努めている。

「教育実習」については、原則的に実習指導委員会を設けるが、学生が自主的に地元等の実習幼稚園を選定する場合は個別に対応している。実習生、実習幼稚園の指導教員、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら、実習の効果を十分発揮するように努めている。平成21年度に保育学科が連携して実習を実施した実習施設・機関は表のとおりであった。

#### 《その他の実習を兼ねた学生の自主的ボランティア活動》

松江キャンパスでは、教育課程と関わりが深く、地域連携活動として意義の認められる学生の自主活動に対して、「学校行事」として認め、学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険の適用対象として、地域連携・学習活動を支援している。本報告のこれまでの事項以外で、実習を兼ねた学生の自主的ボランティア活動は以下のとおりであった。

#### 平成21年度松江キャンパス その他の実習を兼ねた学生のボランティア活動

内容	機関・場所等	活動した学生	保険申請者(指導教員)
第36回小児糖尿病サマーキャンプにおけるボランティア	鳥取県西伯郡大山町 名和トレーニングセンターほか 平成21年8月2日～8月9日(8日間)	健康栄養学科2年11名	健康栄養学科教授 名和田清子
平成21年度夏季休業中の保育所におけるボランティア実習	江津市のぞみ保育園 松江すみずみ保育園 出雲市たちばな保育園 米子市福米保育園 松江本庄保育所 松江美保関西保育所 出雲市大社保育所 大田市相愛保育園 松江愛恵保育園 大田市久手保育園	保育学科1年11名	保育学科准教授 飯塚由美
平成21年度冬季休業中の保育所におけるボランティア実習	松江市虹の子保育園 益田市高津保育園 松江市ナザレン保育園	保育学科1年2名	保育学科准教授 飯塚由美
平成21年度春季休業中の保育所・幼稚園におけるボランティア実習	出雲市きんろう保育園 出雲市なかの保育園 米子市キッズタウン24かみごとう 米子市福米保育園 出雲市サンサン保育園 出雲市荒茅保育園 米子市あけぼの幼稚園 米子市えんげる保育園 斐川町出西保育園 松江みどり保育所 出雲市ハマナス保育園 出雲市神門第Ⅱ保育園 出雲市あすなろ第2保育園 益田市高津保育園 益田市川登保育園 出雲市ほくよう保育園 大田市あゆみ保育園	保育学科1年10名	保育学科准教授 飯塚由美

出雲キャンパス

平成21年度 公立大学法人島根県立大学  
地域連携推進センター出雲キャンパス運営会議 名簿

職 名	氏 名	備 考
教 授	石 橋 照 子	・地域連携推進センター副センター長 ・地域連携コーディネーター(地域文化貢献活動)
教 授	平 野 文 子	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(地域振興・地域交流)
准 教 授	落 合 のり子	・地域連携推進委員会委員
講 師	狩 野 鈴 子	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(受託/共同研究)
講 師	別 所 史 恵	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(リカレント講座)
助 手	渡 部 真 紀	・地域連携推進委員会委員
助 手	坂 根 可 奈 子	・地域連携推進委員会委員
管理課長	恩 田 晴 夫	・オブザーバー
主 幹	上 代 勇 夫	・オブザーバー(特別研究費)
主 任	阪 本 功	・地域連携コーディネーター(施設見学)
主 事	植 田 晃 次	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(学生の地域貢献活動)

## 出雲キャンパス活動報告

地域連携推進センター副センター長 石橋照子

### 1. 地域との連携

昨年までの地域開放事業に関するワーキンググループの検討をふまえ、連携活動をより円滑にすすめるため、今年度より地域連携推進委員が地域連携コーディネーターとして地域からの相談窓口を担当するようにした。

#### (1) 地域文化貢献活動に関すること

目的：地域の学習ニーズに対応し、地域文化の発展に貢献する。

概要：セミナー・フォーラム・研修会等の講師派遣の相談に応じる。

担当：石橋照子

#### (2) リカレント講座に関すること

目的：看護者の継続教育および生涯学習の企画・実施により看護実践の向上に貢献する。

概要：セミナー・フォーラム・研修会等の講師派遣や看護研究指導の相談に応じる。

担当：別所史恵

#### (3) 受託／共同研究に関すること

目的：研究開発プロジェクトへの積極的参画と研究成果等の社会に還元し情報発信を行う。

概要：受託研究・共同研究の相談に応じる。

担当：狩野鈴子

#### (4) 地域振興・地域交流に関すること

目的：民間企業・行政機関との連携による地域振興・地域交流を図る。

概要：地域活性化に向けた受託事業，共同事業の相談に応じる。

担当：平野文子

#### (5) 学生による地域貢献活動に関すること

目的：①学生の地域活動への関心を高め、人間的成長を図る，②地域と大学の連携を強化する

概要：ボランティア活動や研修への学生参加について相談に応じる。

担当：植田晃次

#### (6) 大学の設備・施設の活用および視察／見学等に関すること

目的：①地域活動に施設や設備の貸出し，地域貢献を図る，②本学の魅力や特徴を紹介する

概要：施設・備品等貸出施設見学，体験学習等の相談に応じる。

担当：阪本功

これらの窓口業務を実施し地域との連携を推進するために、各担当では様々な工夫を行った。

- ・ 地域文化貢献活動では、出雲キャンパスモニター制度を企画し、次年度より地域との交流を推進していく計画にしている。
- ・ リカレント講座では、各教員から「出前講座一覧表」にテーマを求め、ホームページに掲載した。専門職からのニーズをふまえ次年度公開講座と共にリカレント講座を企画した。
- ・ 受託／共同研究に関することでは、受託研究等の依頼があった際に対応できるように「受託研究等取り扱い要領」を整備した。
- ・ 学生による地域貢献活動に関することでは、学生によるボランティアマイレージ制度を考案し、次年度より実施し、学生による地域貢献活動を促進していく予定である。

## 2. 公開講座・高大連携講座・キャンパス連携講座

### 1) 公開講座の基本的な考え方

本学が持っている専門的、総合的な教育・研究機能を広く社会に開放することにより、看護に関する知識・技術および一般的教養を身につけるための学習の機会を社会人等に広く提供する。

### 2) 高大連携講座についての基本的な考え方

高校教育と大学教育の円滑な連携を目指し、本学が持っている専門的、総合的な教育・研究機能に関心を持ってもらうために高校に出向いて講義を行う。このことにより、看護や本学の魅力を高校生に伝えると共に、高校生や高校側のニーズを把握する。

### 3) 公開講座実施要領

- (1) テーマ：「にんげん大好き 一まめに暮らしていくために」
- (2) 講座内容：看護に関するもの、語学、一般教養など
- (3) 受講対象：一般、看護職者、高校生
- (4) 講座形式：単独テーマ、シリーズテーマ
- (5) 開催回数：1回または複数回
- (6) 開催時期：6月～10月、高校は4月以降
- (7) 開催場所：本学、その他県内、高校
- (8) 開催時間：本学の場合は9:00～21:00とする。但し、学外の場合は当該施設と相談すること。
- (9) 開催方法：
  - ① 原則として担当教員が運営するが、求めに応じて地域連携推進委員会（事務局）が支援する。
  - ② 助手も協力者として企画に参加できる。

- ③ 公開講座の参加申し込みの受付は事務局が行う。応募を受け付けられない事態については担当教員が申込者に通知する。高大連携講座については担当教員が高校担当者と連絡をとり行う。
- ④ 高大連携講座は地域連携推進委員会とアドミッション運営会議が連携して行う。広報は地域連携推進委員会が担当し、高校との交渉はアドミッション運営会議が担当する。
- ⑤ 客員教授にも公開講座に参加していただくこともある。
- ⑥ 修了証書は講座の担当教員が発行の有無を決定し、準備する。
- ⑦ 手話通訳・託児の希望者の受け入れは担当教員の判断により決定し、手配は担当教員が行う。

#### 4) 公開講座実施概要

##### 第1講座

開催日時：6月2日 13:10～14:40

場 所：本学・208 講義室

演 題：英語で読む『ナースが贈るこころのチキンスープ』

講 師：田中芳文

受講者：15名

概 要：進学のために英語を勉強する必要がある学生ばかりなので、全員熱心に予習をしてきた。

##### 第2講座

開講日時：Ⅰ：6月26日 17:30～19:00, Ⅱ：7月24日 17:30～19:00

Ⅲ：8月21日 16:00～17:30, Ⅳ：9月17日 14:00～15:30

Ⅴ：10月30日 15:00～16:30

場 所：本学・215 実習室

演 題：模擬患者（SP）養成講座

講 師：松本玄智江, 吉川洋子, 山下一也

受講者：Ⅰ：7名, Ⅱ：9名, Ⅲ：8名, Ⅳ：7名, Ⅴ：5名

概 要：5回にわたって講座を開催し、「患者対応、患者の視点での医療サービスを提供する上で、模擬患者の役割は大切なことだと感じた。」「学習の機会を設けて欲しい」「初めて患者を演じ、多くのものを得ることができた」等の感想が寄せられた。

##### 第3講座

開講日時：Ⅰ：8月25日 14:00～16:00, Ⅱ：9月1日 14:00～16:00

場 所：本学・215 実習室

演 題：アロマで心と身体のリフレッシュ Part. 4

講 師：松本亥智江，松岡文子

受 講 者：Ⅰ：18名，Ⅱ：17名

概 要：2回開催し、「バスフィズが手軽にできることがわかり，プレゼント用にも作ってみたいと思った」「思ったより簡単にできリフレッシュできた」「このような身体も心もいきいきできる講座をお願いします」などの感想が寄せられた。

#### 第4講座

開講日時：9月3日，9月4日 10:00～16:00

場 所：本学・202 209 講義室

演 題：やる気の出る臨床看護研究

講 師：吾郷美奈恵，石橋照子，梶谷みゆき

受 講 者：26名

概 要：松江から益田まで島根県内から26名の看護師の方が参加した。講義，演習を通して「役立った」「研究をしてみたいとやる気が出た」「後輩の支援ができそう」といった感想が寄せられた。

#### 第5講座

開講日時：9月4日 13:30～15:30

場 所：本学・201 講義室

演 題：楽しく学ぶ自己表現

講 師：落合のり子

参 加 者：4名

概 要：熱心に受講され，「人間関係を良くするのに身近で役立つ内容だった。」

「自分の自己表現に関する疑問を解消できた。」等の感想が寄せられた。

#### 第6講座

開講日時：9月11日 10:00～12:00

場 所：本学・215 実習室

演 題：腎不全患者の看護・透析療法の基本的理解

講 師：別所史恵

参 加 者：8名

概 要：講義内容自体は分かりやすかったとの反応であった。実際に JMS の業者も交えて CAPD のデモンストレーションを行ない，バック交換を行なえたのでより分かりやすかった。

#### 第7講座

開講日時：9月11日 13:30～15:30

場 所：本学・215 実習室

演 題：人工呼吸器装着患者の基本的看護

講 師：三島三代子

参加者：9名

概 要：新人看護師を対象に、人工呼吸器の仕組みから呼吸パターンの理解、生体への影響、主な合併症、患者の安全を守るための管理などについて基本的なところから丁寧に説明した。呼吸は人間の生命をつかさどるもので、専門分野の看護師のみならず、すべての看護職者に必要な知識であり、今後も広めていきたい。

#### 第8講座

開講日時：Ⅰ：8月8日 13:30～15:00、Ⅱ：8月21日 19:00～21:00

Ⅲ：8月29日 13:30～15:00

場 所：Ⅰ：いずも子育て支援センター、Ⅱ：本学・103 実習室

Ⅲ：出雲中央図書館

演 題：すこやか子育て

Ⅰ：赤ちゃんとお母さんのコミュニケーションタイム

Ⅱ：らくらく分娩期の過ごし方・沐浴を体験してみましよう

Ⅲ：子どもが病気になったとき～子どもによく見られる症状の看護～

講 師：Ⅰ：長島玲子，井上千晶

Ⅱ：狩野鈴子，濱村美和子，駒沢彩

Ⅲ：高橋恵美子，渡部真紀

参加者：Ⅰ：10名，Ⅱ：3名，Ⅲ：0名

概 要：子育て中もしくは予定者の参加があり、「分かりやすい内容であった」「ベビー・マッサージも骨盤底ケアも家で続けていけそう」「あっとホームな感じで過ごしやすかった」等の感想が寄せられた。

#### 第9講座

開講日時：8月29日 13:30～15:30

場 所：社会福祉法人ふあっと 地域交流ホーム「つどい」

演 題：壮年期の健康づくり～楽しく運動を続けるために～

講 師：伊藤智子，加藤真紀

参加者：8名

概 要：受講者からは「運動は続けることが大事」「職場や地域でみんなと一緒にやるとできると思う」「楽しく運動ができた」などの感想が寄せられた。

#### 第10講座

開講日時：Ⅰ：9月8日 13:30～15:30、Ⅱ：9月16日 13:30～15:30

場 所：Ⅰ：北浜コミュニティセンター Ⅱ：塩津漁民センター

演 題：老後の健康作り

講 師：山下一也，松本亥智江，松岡文子，田原和美，祝原あゆみ

参加者：Ⅰ：28名，Ⅱ：11名

概要：受講者からは「病気がたくさんあるので時々参加したい」「意義ある講座でとても楽しく学ばせて頂いた」「地区全体で受けるとよい」「また来て欲しい」等の感想が寄せられた。

#### 第11講座

開講日時：9月11日 13:30～15:30

場所：川本町すこやかセンター

演題：高齢者のための認知症ケア最前線と転倒予防法

講師：山下一也，松本玄智江，橋本道男（島根大学医学部）

参加者：25名

概要：受講者からは「楽しかった」「ズンドコ体操を習いたかった」「2か月に1回あるとよい」「個別案内が望ましい」「大変参考になった」「家庭でも毎日続けていこうと思う」等の感想が寄せられた。

#### 第12講座

開講日時：9月26日 13:00～15:00

場所：隠岐島文化会館2階集会室

演題：自分流 気楽な介護の提案

講師：吾郷ゆかり，祝原あゆみ

参加者：30名

概要：隠岐島町役場 ふれあいセンター2階会議室にて開催した。介護保険制度についての学習のあと，居宅サービスや便利グッズを紹介したり，福祉用具を利用して気楽に介護を続けられる方法について実演した。参加者からは「これからの介護の参考になりました」感想が寄せられた。

### 5) 高大連携講座概要

高大連携事業の一環として，高校教育と大学教育の円滑な接続を目指し，本学が持っている専門的，総合的な教育・研究機能を高校に出向いて講義を行った。

#### 第1回

開催日時：7月23日 13:40～15:10

場所：平田高校

演題：看護師をめざす高校生のための言語と文化講座

講師：田中芳文

参加者：29名（生徒），1名（教員）

概要：看護系だけでなく，言語・英語系学部を志望する1年生から3年生までの生徒約30名が，医療分野に特有な言語表現やその背景文化について，海外小説やノンフィクションからの実例を題材に学んだ。

## 第2回

開催日時：8月19日

場 所：平田高校

演 題：がん患者の看護ーがんとともに生きるー

講 師：平野文子

参加者：26名

概 要：看護系志望の生徒たちが、がんとともに生きる患者さんの声には、「がん対策基本法」の制定や島根県の「がんサロン」の誕生など、国・行政をも動かす大きな力があり、その力を活かした看護が可能であることを学んだ。

## 第3回

開催日時：8月22日 13:30～15:00

場 所：浜田高校

演 題：看護の道具箱 ～コミュニケーション～

講 師：吉川洋子

参加者：14名

概 要：看護系志望の生徒たちが、看護を实践するうえで重要となるコミュニケーションの技術について、講義だけでなく参加者同士での体験や実例を通して学んだ。

## 第4回

開催日時：9月17日

場 所：出雲高校

演 題：Ⅰ：認知症の予防

Ⅱ：認知症患者の理解とケア

講 師：Ⅰ：山下一也 Ⅱ：梶谷みゆき

参加者：26名（生徒）、1名（教員）

概 要：アルツハイマー病の原因を知るとともに、その予防の可能性について、特に食生活について詳しく学んだ。また、アルツハイマー病患者であるクリスティン・ボーデンさんの闘病記や臨床で出会う患者さんたち達の姿から、認知症患者さんの体験世界を学ぶとともに、認知症患者さんの尊厳を守りながらどのように生活をサポートすべきかを一緒に考えた。

## 第5回

開催日時：9月26日

場 所：大社高校

演 題：医療の最前線 特に脳科学

講 師：山下一也

参加者：20名

概要：看護系志望の生徒たちが、「脳科学の医療の最前線」をテーマに、MRI（核磁気共鳴画像法）などについて学んだ。

#### 第6回

開催日時：9月29日

場所：大社高校

演題：出生直後の新生児の診断とケア

講師：濱村美和子

参加者：33名

概要：看護系志望の生徒（2年生）が、出生直後の新生児の身体変化について理解するとともに、観察方法やケアのポイントについて演習を通して学んだ。

#### 第7回

開催日時：10月8日

場所：島根中央高校

演題：地域に育てられ地域で活かす看護

講師：齋藤茂子

参加者：76名（生徒）、5名（教員）

概要：1年生約90名が、総合学習の時間を活用して、地域の特性や出来事について関心をもち、地元の良さを見つけ出すことの重要性を学んだ。

### 6) キャンパス連携講座

#### 第1回

開催日時：5月30日 13:30～16:00

場所：松江キャンパス 体育館1F研修室

演題：妊娠中の家族のために

講師：三島みどり・籠橋有紀子（松江キャンパス）

#### 第2回

開催日時：6月6日 13:30～16:00

場所：松江キャンパス 体育館1F研修室

演題：お年寄りの家族のために

講師：福澤陽一郎・名和田清子（松江キャンパス）

#### 第3回

開催日時：6月20日 13:30～16:00

場所：松江キャンパス 体育館1F研修室

演題：働き盛りの家族のために

講師：山下一也・岸本 強（松江キャンパス）

## 第4回

開催日時：7月4日 13:30～16:00

場 所：松江キャンパス 2号館1F臨床栄養実習室

演 題：育ち盛りの家族のために

講 師：高橋恵美子・福井一尊（松江キャンパス）

### 7) 今後の課題

昨年度に比べ受講者数が80名減少しており、年々減少傾向である。新規受講者の開拓と継続受講者の確保のため、送付先の見直しやPR活動の工夫など広報戦略の建て直し、受講者のニーズに沿った講座メニューの再考、より多くの人に受講機会をもってもらうため本学以外の会場を増やす、ホームページに開催様子を積極的に掲載していくなど対策が必要である。

また本学の単独開催だけでなく、大学(キャンパス)間の連携、市行政事業との連携、県看護協会との連携で公開講座を企画するなど、他機関との連携やタイアップも積極的に行っていく必要がある。

次年度も、高校教育と大学教育の円滑な接続を目指し、本学が持っている専門的、総合的な教育・研究機能を高校に出向いて講義を行う予定にしている。また、看護や本学の魅力を高校生に伝えると共に、高校生や高校側のニーズの把握をめざす。

## 3. 出前講座

今年度途中より、出前講座一覧表を提示し、今年度は下記の出前講座が実現した。

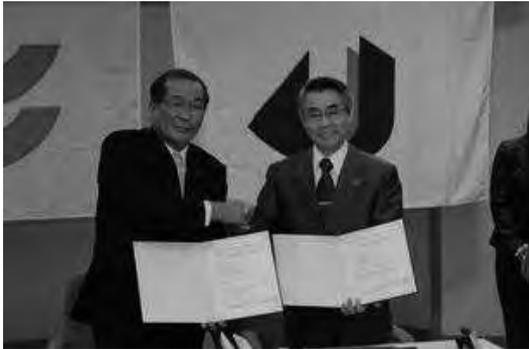
8月25日 出雲市平田町『平田楽園クラブ連合会』の在宅介護講習会

出雲市平田町にある自主グループ『平田楽園クラブ連合会』より、在宅介護講習会の要望があり、伊藤智子准教授および加藤助手により出前講座を実施した。当日は約20名の参加者があり、実技を交えた講習を楽しく受講された。

## 4. 自治体等との連携

### 1) 出雲市との連携

出雲市とは従来から深いつながりのもと、介護予防教室共同事業の実施や各種審議会委員への参画を行ってきたが、平成21年10月に包括的な連携協力協定を締結した。この協定により大学と市がさらに連携協力し各種事業を展開することとなった。



握手を交わす市長と理事長



調印式の様子

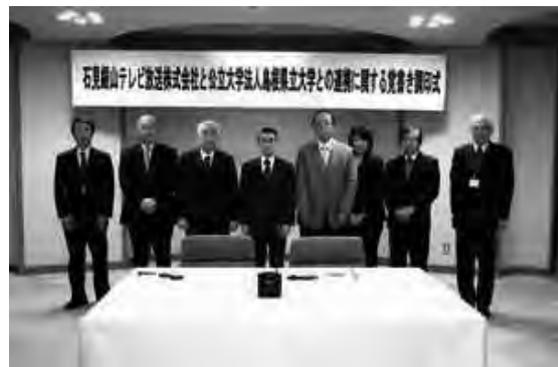
## 2) 石見銀山テレビ放送株式会社との連携

平成 22 年 2 月 4 日に公立大学法人島根県立大学と石見銀山テレビ放送株式会社との間に連携に関する覚書が締結された。

今回の覚書き締結により今後、島根県立大学短期大学部出雲キャンパスの出前講座の収録・放送が行われ、平成 22 年 4 月以降に『健やかに老いるためにー食べること、出すこと、動くこと、楽しむことー』のテーマで 10 講座の番組が放送される予定である。



本田理事長(本学)と杉谷代表取締役(銀山テレビ)



調印式の様子

## 3) その他の連携

### 【出雲産業見本市 2009 への出展】

出雲市及び「21世紀出雲産業見本市」実行委員会が主催、島根県立大学短期大学部(出雲キャンパス)等の後援で「出雲産業見本市2009」が平成21年11月7日～8日に開催された。この企画は、企業相互あるいは市民と企業とのコミュニケーションを深めるとともに、ビジネスチャレンジの拡大を図ることが目的である。

本学からは、文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)」で開発した『eポートフォリオによる自己教育力の育成』が出展し、研究成果の紹介を行った。

## ■ 本学の出展内容

文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」で開発した『eポートフォリオによる自己教育力の育成』の紹介（パネル展示、配付資料）



### 【青年海外協力隊員帰国報告会の開催】

JICA および島根県環境生活部文化国際課との連携により、1月20日に「青年海外協力隊員帰国報告会」を開催した。本キャンパス学生・教職員をはじめ、浜田キャンパスの学生など40名が参加した。

今回帰国報告をされたのは、出雲市出身で理学療法士の太田千香さんで、平成19年9月から平成21年9月までの2年間、中央アジアのキルギス共和国での活動を報告された。現地では、障害をもつ児童の施設で、現地人にリハビリ技術の指導を行い、現地では行われていない『運動療法』の普及のための技術指導に力を注がれた。

日本との文化の違いや現地の伝統楽器の演奏、また、リハビリテーションをはじめ医療・看護の現状などを実際の体験をもとにわかりやすくお話しいただいた。参加者からも「日本の中の医療の中からのみだけの目線では見えなかったものを見ることができた。私たちは限られた場所で物事を見ていると思えた。リハビリテーションや障害や人権など世界は一樣ではないことを改めて感じる事ができた。」「青年海外協力隊への一步を踏み出すための後押しになった。」などの感想が寄せられた。

## 5. 学生の地域貢献

### 1) 航空機事故救難訓練への参加

9月10日、早朝出雲空港において実施された航空機事故救難訓練に、出雲キャンパスから学生及び職員が要救護者役としてボランティアで参加した。「右大腿部を骨折し、変形・腫張の症状がみられる患者」の役を演じた看護学科1年の袖本 栞さんの感想：「今回はこのような貴重な体験をさせていただき感謝しています。トリアージの仕方などを間近で見ることができてとても勉強になりました。航空機事故のような大災害の現場では、冷静な

判断・行動が患者の生死を左右することを痛感しました。大混乱のなかでも可能な限り患者の痛みや不安を和らげるのが救護者の役割だと感じました」

「両下肢骨折(開放性)で呼吸数 26, ゆさぶりでかろうじて開眼, 足が痛いと言弱々しく痛みを訴える患者」の役を演じた看護学科2年生佐々木奈美さんの感想:「私はトリアージで最も急いで搬送される赤色の札をつけられましたが, 搬送を待つ間は不安でしたので, さらに後で搬送される黄色や緑色の患者は不安でたまらないだろうと感じました。このような災害に遭遇すると非常にとまどうと思いますが, 今回このような経験をさせていただきとても勉強になりました。今後は, 緊急時における人のパニック状態や, コミュニケーションの重要性, そのような場面でも生かせる看護の知識と技術をもっと身につけていこうと思います」

「自分で歩ける程度の腰部に痛みがある患者」の役を演じた看護学科1年の三谷紗也佳さんの感想:「トリアージのやり方や, 救急隊員・消防士・医師・看護師が人命を救うためにあわただしく動いている現場を実際に見ることができ, 貴重な体験ができました。重症の患者を優先的に治療することと同時に, たとえ軽症の患者でも不安にさせたり, 寒い中で症状が悪化することが無いよう気を配ったりすることが重要であると感じました」



写真提供: 出雲空港管理事務所

## 2) 「がん対策募金活動」にボランティアとして参加

11月1日に松江市営陸上競技場で行われた「がん対策募金」の活動に出雲キャンパス学生が参加した。

看護学科2年吉田真弓さんの感想

「今回初めてがん対策街頭ボランティア活動に参加させていただき, とてもいい経験になりました。当日は大雨でしたが, 声かけをすると, 皆さん快く募金に協力して下さりとても嬉しく思いました。また, 難病研究所や松江市立病院のがんサロンの方々とともに, とても充実した時間を過ごすことができました。次の機会もぜひ参加させていただきたいと思います。」

#### 看護学科2年太田亜住さんの感想

「当日は雨風が強く、足場が悪いにもかかわらず、たくさんの方が立ち止まって、がん対策募金に協力をしてくださいました。地元の方々だけでなく、県外から来ておられる方も数多くおられ、そういった方々の募金に対する積極的な行動に感動しました。なかには、二度も足を運んで募金に協力して下さった高校生もおられました。街頭での募金活動は私にとってとても良き学びの経験です。今後もまたこういった募金活動にも積極的に参加していきたいと思いました。」

#### 看護学科2年月森彩世さんの感想

「今回がん対策募金のボランティアに参加して、小さな子どもから大人まで多くの方々の優しさに感動しました。みなさんひとりひとりの気持ちがこれからのがん対策に大きな力となることを心から願っています。また、今回の体験でがんのことをもっと多くの人に知ってもらいたいと思うようになりました。とても貴重な体験をさせていただき、難病研究所の方々に心から感謝しています。また機会があれば参加したいと思います」



写真提供：(財)島根難病研究所

## ■出雲市受託事業

出雲キャンパスでは、包括連携協定を締結した出雲市と共同事業を平成 19 年度から継続して行っている。平成 21 年度は出雲市上岡田町上岡田地区において介護予防教室事業を行った。

この事業の特徴は、「1. 地域のネットワークを活用する」、「2. 上岡田地区に合わせた介護予防プログラムを開発する教室を展開することにより、参加高齢者のニーズ把握、スタッフの育成に重点をおいた事業」である。

今年度の介護予防教室事業（上岡田なごみ会）には、高齢者 13 名とボランティアグループ 8 名、他に地区スタッフ 19 名、市の職員 6 名、出雲キャンパス 8 名が参加し、協働で行った。

回想法とミニ講話を交互に行う 18 回の介護予防教室（事前調査・事後調査を含む）と、回想法とレクレーションを内容とした研修会を 2 回実施した。そのうち 1 回は、見学を兼ねて出雲キャンパスでも実施した。教室では毎回、教員が開発した体操とメディカルチェックを行った。また、開始時には地元説明会、終了時に地元報告会を行った。

（詳細については平成 21 年度「上岡田なごみ会」報告書に掲載している。）



ミニ講話； 脳のトレーニングに挑戦中



回想法



メディカルチェック

## ■特色 GP：健康まつり

出雲キャンパスでは、平成 19 年度に文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に「地域に広がる新しい看護ニーズに応える教育」が採択され取り組みを実施してきた。

この取り組みの一環として平成 22 年 3 月 14 日に NPO 法人出雲スポーツ振興 21 とともに、出雲健康公園クラブハウス利用者 100 万人達成記念イベントと併せて「健康まつり」を開催した。

この事業の目的は、「学生・大学と地域とのつながりを強化し、地域の人々と共に健康について考える」ことであり、特に「地域の方々と共に企画・運営することにより連携の強化を図る」、「企画を通し、地域住民の方々の健康についての意識を高める」ことを目標とした。

当日は「血圧測定」、体組成測定、骨密度測定、「血管年齢測定」などの健康チェック及び健康相談と特別講師の三浦弘氏による講演「楽脳フィットネス～脳を活性化させて認知症予防を～」が行われ、のべ 100 名以上の住民が参加した。

(詳細については平成 21 年度特色 GP 報告書に掲載している。)



学生による血圧測定の様子



三浦弘氏による特別講演

## 【参 考】

島根県立大学は、21世紀をになうべき創造性豊かで実践力ある人材を育成し、教育研究を通して地域の発展に資するため、2007年4月、既存の島根県立大学（浜田）、島根県立島根女子短期大学（松江）、島根県立看護短期大学（出雲）の3つの大学を統合して開学した。

ここに島根県立大学は、従来3キャンパスがそれぞれ歴史的に蓄積してきた成果を継承し、21世紀における新たな飛翔をめざす大学の姿勢を内外に示すため、島根県立大学憲章を定めることとした。

## 島根県立大学憲章

島根県立大学は、地域の先人である西周が標榜した“「純理の学」から「実践の学」にわたる諸科学の統合”をめざし、各専門領域における研究活動を深め、それにもとづく創造的な教育活動によって、現代社会の諸課題に国際的な視野からアプローチし、また、地域社会の活性化と発展に寄与する人材を養成することを使命とする。あわせて、これまで培った学問的蓄積と学際的ネットワークを活かしながら、「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現するとともに、北東アジアをはじめとする国際社会の発展に寄与する大学づくりを目標とする。

### 1. 市民的教養を高め、主体的に学び、実践する人材を養成する

島根県立大学は、幅広い市民的教養と高度の専門知識、豊かな人間性と高い倫理観を有し、主体的に問題を発見・整理・解決し、現代社会の諸分野において着実に貢献できる人材を養成する教育の府となることをめざす。

### 2. 現代社会の諸課題に対応した“諸科学の統合”を実践する

島根県立大学は、複雑化する現代社会の諸課題に対処するため、人間と社会に関する専門諸科学を総合的に研究する学問の府となることをめざす。

### 3. 地域の課題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を積極的に支援して、地域に貢献する

島根県立大学は、地域に開かれた大学として、その保有する豊かな知的資源を活かし、個性的で実践的な地域研究を市民や学生と連携しながら推進し、また、地域活動に積極的に参加することによって、地域に貢献する大学となることをめざす。

### 4. 北東アジア地域をはじめとする国際的な研究教育の拠点を構築する

島根県立大学は、今後ますます重要度を増す北東アジア地域、および世界の諸地域との教育的・学術的ネットワークの展開を通じ、国際的視野と豊かな研究蓄積を集約した北東アジアの知の拠点となることをめざす。

### 5. 自律と協同、透明性が高く機能性に優れた大学運営を行う

島根県立大学は、3キャンパスがそれぞれ学生と教職員一体となって独自性を発揮し、かつ、有機的結合を図り、たえず自己検証と改善に努めながら、情報を積極的に公開し、社会や時代の変化に即応できる大学運営を行う。

それではこの会議の冒頭にあたりまして、一言学長としてご挨拶を申し上げたいと思います。只今センター長からご紹介ございましたように、本学として大学憲章制定して地域連携活動についても鋭意進めているところですが、今日は少しお時間を頂きまして、今更というような気がしないわけでもないのですが、そもそも何故こういった地域連携推進センターのようなものを設置して社会貢献とか地域貢献、こういっことを大学がしなければならないのか、そのあたりについて少しお話をさせて頂ければというふうに考えています。

まず第1番目の理由は、大学の法人化ということでございます。本学は平成19年の4月に公立大学法人島根県立大学になりまして、同時に3つの大学の経営統合を実現しまして、島根県立大学と島根県立大学短期大学部の2つの大学を設置し、管理運営することになったというのはご承知のとおりでございます。

この法人化と言いますのは、大学独自の目標と計画に基づきまして自立的に大学運営を行うという、別の言い方をすれば大学を経営するという感覚で公立大学も運営される、そのような制度と体制になったということでございます。もちろん公立大学ということでございますので、財務のかなりの部分ですね、本学の場合は総事業費年間いろんなものを入れますと約30億になるわけですけれども、そのうちの約60%に相当する16億円というものが毎年県からの運営費交付金として、公費として措置される、つまり補助金が措置されるということでございますが、これにいわゆる自主財源といわれる授業料収入とか外部資金獲得による外部資金ですね、こういったものを加えて約30億という総額の事業費で事実的な財務それから人事の運用、こういったことが出来るようになったということでございます。

しかし、一方でそれに伴ってこの法人が大学運営に対して全ての責任を負わなければいけないということにもなったということでございまして、自立的な経営運営ができる半面、非常に大きな責任を負って大学の経営運営を行わなければならなくなったということです。

現在日本には、国公立合わせて756の大学があると言われております。国立大学は85、公立も同じぐらいですので合わせますと160ないし170くらい、したがって約600ぐらいが私立大学という構成になっているわけです。非常に多くの国公立大学が法人化をした、つまり独立した法人格を持ったということです。自律した運営をしている私立大学を含めて横一線にならんで大学の運営、経営を進めていかなければなりません。特に平成になって18歳人口がどんどん減少しているという状況があります。幸いにも高卒者の進学率が僅かずつではありますけれども上昇しているということもあって、まだ大学全体の総入学定員よりも少ない進学希望者ということにはなっていませんが、しかしその入学希望者が偏在しており、既に多くの大学で定員割れが生じています。大なり小なりということでございますけれども、特に地方大学にはそういった傾向が顕著に表れているということがあって、統計によっては約4割の大学がそういう状況にあります。

幸いにも島根県立大学はそういった状況にはなっておりませんが、これがやがてそういう状況に陥らないとも限らない非常に厳しい状況にあります。国内の756の大学との間で競争的な厳しい環境に置かれているということに限らず、本学の場合には多くの留学生を北東アジア地域を中心として受け入れているわけですが、国際的な規模での大学間競争ということもあって、本学もそういった国際的な広がりをもった大学間競争の渦中にあると言っても過言ではない状況にあると思います。

このような大学間競争が非常に激しさを増している状況のなかで、文部科学省も「個々の大学がその個性を明確にして存在意義を明らかにすることが今の時代は非常に大切だ」と指摘しているわけです。したがって本学のように地方にある規模が小さい公立大学が、一体どこに大学の存在意義を見出していくかということが問題になってくるわけです。

本学の場合には、設立当初から北東アジア地域研究に力を入れて、国内はもちろん国際的にも評価されるような高い成果をあげてきたということでございまして、今後もこれをさらに強め伸ばしていくという取り組みを続けなければならないと考えているわけですが、これは本学の大きな特色の1つであって、尖っているところであるというふうに考えております。

しかし、同時に大学の機能は教育・研究だけではなくて、社会貢献にあるということが言われております。大学ですから教育・研究を行うのは当然のことですが、**地方にある公立大学の存在意義の1つは社会貢献、特に地域社会との連携を通じた地域活性化への貢献にあると考えられているわけ**でして、それが**社会から強く求められ、また期待されている**のではないかとこのように考えているところです。そういった観点からこの地域連携、社会貢献の機能を中心になって担っていただく地域連携推進センターの役割というのは大学にとって非常に大きいということが言えるわけです。

大学がどういう役割を果たしていくべきかと関連して、教育基本法が平成18年12月に改正されたわけです。制定されて60年以上経て初めて改正されたのですが、新たに第7条として大学の条項が設けられました。みなさんご承知かと思いますが、第7条には「大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」と規定されています。これは極めて大きな意味を持っていると思います。つまり、大学の社会貢献が、教育基本法で全ての大学の義務として定められたとみることが出来るわけでは、全ての大学には社会貢献をすることが法的義務として課せられたということを我々は理解しておくことが大切だと思っているわけです。

教育基本法が改正されたのが平成18年12月22日でございますけれども、これに先立つこと約2年、平成17年1月28日に中央教育審議会が高等教育に関して方針を出しています。「我が国の高等教育の将来像」という表題ですが、この答申で「21世紀は新しい知識・情報・技術が飛躍的に重要性を増す、いわゆる知識基盤社会の時代である。」と述べています。そして「人々の知的活

動、創造力が最大の資源である我が国にとって、優れた人材の養成と、科学技術の振興は不可欠であって、高等教育の危機は社会の危機である。我が国の社会が活力ある発展を続けるためには、高等教育を時代の牽引車として社会の負託に十分応えるものへと変革し、社会の側がこれを積極的に支援するという双方向の関係の構築が不可欠である。」というふうに述べているわけございまして、大学を社会の負託に応えるものに変革していかなければならないという事を明確にしているわけです。

つまり知識基盤社会である 21 世紀にあっては、大学は社会の牽引車としてその社会の期待に応え、逆に貢献しなければ社会からの支援が得られない、また社会的支援を背景としたその国、自治体からの支援も得られなくなるということございまして、これが今日、大学にとって社会連携、社会貢献が非常に重要な機能であると考えられる所以でもあると思われるわけです。

このような社会的な状況の中で、島根県立大学は平成 19 年に法人化をしたわけですが、この島根県立大学を設置する公立大学法人島根県立大学という法人は、島根県によって設立されたのです。この公立大学法人島根県立大学の定款には、第 1 条にその目的として「この公立大学法人は、豊かな自然と歴史を持つ島根県における教育研究の拠点として幅広い教養と高い専門性を備え云々」と書いてあり、「地域に知の還元を行うことで、地域社会の活性化及び発展に寄与し、さらに国際社会に貢献することを目指して大学を設置し、及び管理することを目的とする」ということが規定されています。さらに、この島根県によって設置された公立大学法人島根県立大学は、島根県立大学、島根県立大学短期大学部を設置すると規定されておりまして、公立大学法人島根県立大学のもとに設置をされた 2 つの大学、島根県立大学と島根県立大学短期大学部が、法人の設置目的の一つである「地域に知の還元を行うことで地域社会の活性化及び発展に寄与する」ということを求められているのも当然だと考えられるわけです。

そもそも公立大学法人島根県立大学は、法人化つまり、平成 19 年度に新たな体制で発足すると同時に第 1 期中期目標計画の中で新たな大学構想の確立を掲げまして、その実現に取り組むということを明らかにしているわけです。この目標の実現に向けて検討を重ねて新たな大学構想の集大成として、このたび島根県立大学憲章を策定しました。この島根県立大学憲章については、構成が前文と 5 つの理念・目的を示す項目から成り立っておりまして、この前文のところで「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現することを目標とすると、カギ括弧をつけて強調して謳っております。もちろんそれだけではなく、人材養成とか北東アジアをはじめとする国際社会の発展に寄与するということも入っておりますが、その中でも大きな部分として特に強調して「地域に知の還元を行うことで地域社会の活性化および発展に寄与する」という法人の設置目的を具体化した「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現するということを明らかにしています。

その目標の 1 つとして 3 番目の項目に謳っておりますが、「地域の課題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を積極的に支援して地域に貢献する」ということを掲げています。そして、「地

域に開かれた大学として、保有する豊かな知的資源を活かし、個性的で実践的な地域研究を市民や学生と連携しながら推進し、また、地域活動に積極的に参加することによって地域に貢献する大学となることを目指す。」ということを、この大学憲章の重要な1項目として明らかにしております。

このように島根県立大学憲章というのは、本学の理念目的をきちんと整理し、定式化したものでありまして、大学の全ての構成員の共通認識にしていかなければならないものでありますし、また大学の全ての業務は、大学憲章で定式化された理念・目的の実現に向けて実施され、そして実施された業務の評価基軸というものが、この大学憲章の理念・目的の実現に果たしてどうであったかという観点からなされるということになるわけでございます。

その憲章で掲げた本学の理念・目的というものに照らせば、地域連携、社会貢献は本学の全ての教職員が本来業務として遂行しなければならないものであると考えなければなりません。またこの理念目的というものは、地域連携推進センターの設置目的でもあるわけですから、このセンターが果たす役割は極めて大きいということが言えるわけです。時間的な前後の問題はあるわけですが、このような考え方、認識に基づいて本学の公立大学法人島根県立大学の中期目標の中で「研究成果の地域における活用等による地域への還元を通じて地域社会の活性化に寄与することによって地域とともに歩む大学を目指す」という事が大学全体の目標の1つとして明文化し、掲げられておりまして、この実現に向けた具体的な目標としては4番という項目でございませけれども、地域貢献国際化、この項目が設けられ具体的な措置として地域連携推進センターの設置ということが掲げられたわけです。そして本年度、その体制を充実するために事務組織である地域連携推進室が整備されて今日に至っているということです。

改めて申し上げるまでもありませんが、このようにして設置された**地域連携推進センターの役割**というのは、**地域と大学をつなぐ総合窓口としてこの地域連携に係るコーディネート業務を実施する**ということです。この役割を果たしていく上で、それぞれのキャンパスの地域連携推進センターが、それぞれの地域の個別の状況に応じて地域連携事業を企画・実施するという事は当然のことですが、これとともに**公立大学法人島根県立大学全体として3キャンパスが協力し合っ**て、一段と質の高い地域連携を進める事業を企画し、実施をするということも非常に大切ではないかというふうに考えています。地域連携推進センターに対する期待としましては、**地域連携推進センターがキャンパスごとに、また互いに協力しあって地域との連携事業をコーディネートし、1つでも2つでも連携事業を是非、具体化をして進めていただきたい**と思います。

そういった中で**地域連携推進センターの本部は、センター全体のコンダクターとしてキャンパス間の連絡調整とか総合企画機能を発揮して**いただいて、大学全体として**地域連携事業が効率的に実施をされ、島根県立大学が非常に有意義な地域貢献をしている**ということが社会的にも評価されるような、そのような状況をぜひ作っていただきたいと期待しているところです。

地域連携推進センターの事業を様々やっ

るということになれば財政的な裏づけが必要になるということが出てくるわけですし、大学として現在措置している学長裁量経費を通じた研究経費の予算措置だけではなく、旧NEAR財団の寄付金事業として、地域貢献プロジェクト助成事業、これを毎年総額300万円の予算、本学にとってはかなりの予算額になるわけですが、事業費を計上して実施しているわけです。

平成22年度の募集要項で掲げています助成対象事業、これは今年度から少し内容を改めて少し幅広いものにしましたが、4項目から成り立っております。ひとつは、連携協力協定を締結している自治体、現在は浜田市、松江市、出雲市と締結していますが、こういったところと共同で実施する事業です。それから2つ目は、県内各地域の振興・発展・まちづくりに関する調査研究。3つ目が、島根県内各地域の歴史、文化、教育、福祉、医療こういったものに関する調査研究等です。そして4つ目に「その他理事長が特に必要と認めるもの」というものでして、3キャンパスともそれぞれの専門分野を活かして地域貢献をしていこうという調査研究であれば、どんな事業でも助成の対象になります。しかも、4番目に挙げている理事長が特に必要と認めればなんでもありということが言えるわけですが、ただ、外せない条件が地域貢献につながる調査研究だと言うことです。そういった点で考えれば浜田キャンパス、出雲キャンパス、松江キャンパス、キャンパスを問わず多くの先生方にこれにトライしていただけるものと考えているところです。このような地域貢献に係る助成事業の予算がすでに学内で措置をされているということには是非ご留意をいただき、地域連携事業の推進のためにもセンターとして助成事業の申請を積極的に先生方に働きかけていただきたいと思っております。地域連携センターの役割というのは、総合的な窓口としまして地域との連携ということを中心に考えていただくのは当然ですが、しかし、地域貢献を目指した学内の共同事業、調査研究等の事業、これについてもぜひ推進をしていただきたいと思っております。

また、出雲キャンパスや松江キャンパスは大学の本部から少し距離があるということで、或いは疎外感をお持ちであるかもしれませんが、これまでの経過や、歴史伝統、こういったものもございまして、今ただちに全てのキャンパスを同じように扱う、同じような状況にする、ということにならないのはご理解いただけるのではないかと思いますけれども、私としては大学運営を3キャンパスについて公平公正に進めたいと考えております。地域貢献プロジェクト助成事業のようにキャンパスを問わず誰でも応募でき、しかも、助成対象事業はかなり幅広く設定されている、というようなものを活用していただいて、大いに研究活動や、当該研究活動を通じた地域貢献に取り組んで頂きたいと思っております。是非、地域貢献プロジェクト助成事業に多数応募していただいて、地域連携推進センターが中心となって地域貢献事業がさらに進められるというようにしていただければと願っているところです。

長々と申し上げ、最後はお願いになってしまいましたけれども、冒頭にあたって、挨拶を兼ねて学長の考え方を説明させていただきました。ありがとうございました。

## 「島根地域政策支援のための大学の役割と可能性に関する研究会」報告書

(本文のみ) (平成 21 年度島根県立大学学術教育研究特別助成金・研究事業 共同研究)

(平成 21 年度研究プロジェクト)

島根地域政策支援のための大学の役割と可能性に関する研究会

(平成 22 年 3 月 31 日)

### 研究報告—研究の経過と主な論点及び結論

- 〔一〕「島根地域政策支援のための大学の役割と可能性に関する研究会」  
(共同研究) の発足…………… 2
- 〔二〕研究活動の経過について…………… 3
- 〔三〕研究会での報告及び討議に関する主要な内容…………… 3
  - (1) 近隣地域の国立大学における大学の地域連携活動について  
島根大学のケース 広島大学のケース
  - (2) 地域振興・産業振興、農・商・工連携とその促進支援について
  - (3) 地域情報化の促進支援について
  - (4) 学生活動と地域との交流・支援のあり方をめぐって
  - (5) 石見アイデンティティの確立をめぐって
- 〔四〕研究会活動からえた若干の認識と結論…………… 9
  - 地域が直面する諸課題
  - 大学と地域政策支援の役割—新たな地域公共空間の創出への貢献

### 〔一〕「島根地域政策支援のための大学の役割と可能性」研究会(共同研究)の発足

本学での「島根地域政策支援のための大学の役割と可能性」に関する研究事業の採択(学術教育研究助成金の交付決定(5月12日))をうけて、平成21年6月4日に第一回の「研究会」が開かれた(同研究会 会長 吉塚 徹、代表 井上定彦)。

本「研究会」の発足については、多少の経緯があった。

前年度平成20年度の地域連携推進センターの事業のひとつとして法人計画には「地域連携推進センターのあり方の検討」が指示されていた。それをうけて平成21年3月には、「島根県立大学地域連携推進センターのあり方にかんする調査検討委員会報告」が公表された。ここではこれからの大学と地域の連携のあり方に関して、1)ほぼそれまでのあり方を踏襲する「第一案」、島根地域政策に関する産・公・学共同による調査研究と地域連携推進活動を一体のものとして全学的な展開をはかろうとする「第三案」のほかに、その中間に位置する「第二案」が並列的に提示された。

こうした経緯をふまえて、平成21年度には地域連携推進室を設置し、嘱託事務員1名の配置が行なわれることとなったが、「第二案」に不可欠なものとして認識されていた

された専任体制の確立にまでにはいたらなかった。並行して同年度の大学法人計画には「島根地域政策支援のために島根県立大学として何が可能か、地域や行政の方々を含めて本学教員有志を中心とした「島根地域政策共同研究プロジェクト(仮称)」を発足させると共に可能なところからその具体化に努める」(No. 116 項目の3)ことが指示された(本報告書・関連資料①参照)。

本「研究」は、このことを具体化するために、これまでの経緯をふまえて、島根地域の「産・公・学・民」にわたる有識者有志の協力をえて、「研究会」として発足したものである(財政制約上、浜田キャンパス周辺の、石見部の市町村、西部県民センター、商工会議所、NPO等の市民団体の方々を中心とした熱心な御協力に頼ることとなった)。

この研究会は、地域連携推進センターに直接関わる教員だけでなく、本学関連の研究者・職員また地域や行政の方々を含め、広く有志を募りながら、開かれた運営として進めてゆくこととなった(研究会会員は年度末には「産・公・学・民」の有識者60名余(学生会員を含めると70名規模)となった。大学、島根県西部県民センター、浜田市、益田市、江津市、大田市、吉賀町等の職員、県内教育界、浜田市教育委員会、地域経済団体からの有志、NPO 団体・市民団体などにまたがった構成となった(本報告書・関連資料③参照)。

(注) 本研究会 会長 吉塚 徹(特任教授)、進行等 林 秀司(教授)  
代表 井上定彦(教授)

## 【二】研究活動の経過について

4回にわたる全体会合では、まず島根地域・石見地域の課題と活性化に関わる政策課題と大学の役割についての討議にはじまり、周辺国立大学の地域連携活動の展開状況(島根大学、広島大学の二ケース)また、地域人材育成の現状と課題について議論をおこないながら、さらに具体的な政策課題と大学の可能性について分科会方式で議論をすすめてゆくこととなった。研究会参加者の皆さんからは、それまでに蓄積してこられた情報や見解の提案をいただくことを主眼としつつ、いくつかの大学の地域政策支援のあり方のモデル化、全国のこうした大学の地域政策支援活動の状況報告、地域や行政からの大学への要請、また大学から自治体をはじめとする行政への要請のすりあわせ・マッチング等、について意見を交換してきた(学長・副学長のご参加とご挨拶・コメントもいただいた)。

分科会については、「地域における人材育成支援・公開講座等について」、「産業振興・観光振興」「中山間地域振興」「まちづくり・市民活動支援」「学生活動と地域の交流・支援のあり方」「地域情報化支援」「地域のアイデンティティ・殊にいわみ地域」「基礎自治体が抱える地域課題と首長のリーダーシップ」の八つを、会員の

アンケートにもとづいて置いたが、5回開かれた分科会会合のいくつかは関連する課題から合同開催となるものが多かった。

参加者は、全体会合はおおむね30名強(大学教員側は5～7名程、産・公・民からの研究会員20名程度、そのほか大学職員・学生)、分科会は12～23名ということであった(開催状況の概略については本報告書・関連資料②参照)

### 〔三〕 研究会での報告及び討議に関する主要な内容

#### (1) 近隣地域の国立大学における大学の地域連携活動について

イ) 島根大学のケースについて

平成15年には、それまで設置されていた「地域共同研究センター」について、まず「共同研究センター」に改組し、生涯学習教育センター、総合科学研究センターなどと並行して設置。ついでこの「共同研究センター」は平成16年秋には担当副学長のもとで研究戦略会議という諮問機関をおき、センター長以下の執行機構による「島根大学産学連携センター」として改組。これは、大学の全体にわたる各学部・大学院・諸研究施設の知的資産、知的創造力を活用した産官学連携をすすめ、地域社会の発展に貢献することとしている。この「産学連携センター」は大学の地域連携の総合的窓口機能をはたしつつ、1)地域産業共同研究部門、2)地域医学共同部門、3)連携企画推進部門、4)知的財産創活部門の四部門をおき、各部門毎に部門長と専任教員を配置すると共に、産官学コーディネーターや客員教授など外部の専門家の協力をえて、産学連携活動を推進している。島根大学松江地区、出雲地区それぞれに独自の施設と専任スタッフを常駐させている。

また大学法人としての独自の全学的な研究を推進するため、「プロジェクト研究推進機構」を平成17年度から立ち上げている。ここではさまざまな研究テーマ(時限つき)のプロジェクトを組織し、それまでに蓄積してきたシーズの熟成、新たな知的・技術シーズの開発を行うため、重点研究部門、萌芽的研究部門、政策的研究部門、寄付部門などにより進められている。講師として招いた野中資博教授は、全国ベースでも地域活性学会の理事をつとめられると同時に、自然・環境再生研究拠点形成プロジェクトを担われ、宍道湖をはじめとする地域の環境保全・流域管理・人材育成・地域協働などの複眼的視野と先端技術の開発にあたられている。現代のキーワードともいえる環境保全・人材育成を地域ニーズとマッチングさせながら、地域の産官学の連携を組織することで成果を上げられている。大学院改組にあたって、地域再生島根モデルの人材育成を主眼とする「産業人育成コース」を置き、教員30名、研究員3名、教務補佐員3名のサポート体制で、県の行政の前線で活躍しているメンバーを含めた教育指導体制を敷いている。いずれもこれからの本学の研究のあり方としても示唆するところが大きいと受けとめることができる。

#### ロ) 広島大学地域連携センターについて

広島大学は、教育（知の継承）、研究（知の創造）とならび、社会連携（知の活用）を三大柱として位置づけ、2004年からは社会連携推進機構のもとに、産学連携センター、地域連携センター、医療社会連携センター等を設置。地域経済システム研究所を担当されていた戸田常一教授が地域連携センター長に着任。並行して産学連携センターでは、国際・産学連携部門、新産業創出・教育部門、知的財産企画部門をかかえている。

広島大学地域連携センターは、1)広島大学の知的資源や社会連携への取組の姿勢を広く周知させる「広報」活動、2)地域社会のニーズを的確に把握し、大学の研究・教育活動に反映させること、3)現場からの視点で広島大学の社会連携のあり方を研究し提案する機能、の三つを担う。すなわち大学の社会連携を総合的に推進するための専門組織である。

現在4つの理念、すなわち、

- 1)「開く」（大学の人材や知的資源を地域社会に開く）、
- 2)「繋ぐ」（地域社会のさまざまなニーズと大学の人材と研究シーズを繋ぐ）、地域貢献研究を資金面の支援を含めて支援・推進する。
- 3)「協働する」学外との連携プロジェクトのコーディネートを行う。地域プロジェクト、自治体との包括協定、サテライトオフィスの活動推進。
- 4)「創造する」（実践と交流を通じて新しい時代での広島大学と地域社会との関係の構築をはかる）

にもとづいて地域連携活動を推進している。

地域社会を構成し形成してゆく一員としての大学として、「P・P・P」、つまり民間と公共をつなぎパートナーシップで地域課題に取り組む、具体的にはコミュニティビジネスをはじめとする事業支援を、商工会議所の資金・人的援助も得てすすめている。

地域連携センターは大学の専任職員と事業支援コーディネーターを含めて7名の体制。資金的には大学自前では1500～2000万円と大きくないが、運営費・人件費共に行政と実業界からの財政・人的両側面での支援がこれに加えて相乗効果的役割を果たしている「コンソーシアム」の形成）。こうした活動の背景として地域経済研究センターの地域政策研究等の調査研究活動があり、これは中国地方経済団体連合会や中国産業局などの産業をはじめとする大きな支援をえている。

## **（2）地域振興・産業振興、農・商・工連携とその促進支援について**

主として石見地域の産業の現状と問題点から、地域における農・商・工連携をすすめてゆく必要があるのではないか、というところから議論が開始された。

### 1) 農・商・工連携のすすめとこれからの展望について

例えば浜田地域だけをとってみれば、ここでは多様な農林水産業及び関連加工産業があるが、全国的市場を視野に入れば、産業としての集積が脆弱である。そのため石見地域全域をエリアとした農・商・工連携が必要である。しかし、現状は、その農林水産品の生産者やその加工に携わる企業が、基本的に相互の存在と特徴に関する情報を十分に共有していないこともあって、農・商・工連携といっても、その機運が大きく盛り上がるかどうかについて懸念がある。

そこでこれに取り組むには1)行政関連の諸機関、商工会議所や経済団体・支援団体の間で、まずはいかなる対応がなされているのか、全体像を把握すること、ついで2)農・商・工連携にチャレンジしようとする生産者・加工業者等とその特性を把握すること、3)プレーヤー同士の相互理解の促進と連携機運の醸成をはかること、4)希望するパートナーをあっせん、紹介・仲介すること、その際、支援機関とむすびつけることが重要。5)マーケット化するにあたっての評価、マッチング、商品コンセプト形成、ブラッシュ・アップの方向性などについてのアドバイス機能をかためること、技術支援、経営支援、産業活性化基金エントリーへの支援などをすすめてゆく、この春には調査をふまえた講演会の開催も構想してゆきたい、とのことであった。

### 2) 「新しい公」としての社会企業・ソーシャル・ビジネスの可能性について

経済状況の悪化、高齢化、多様な零細事業と兼業農家の存在、中山間地という石見のいっけん不利に見える地域の振興のために、むしろそれを逆手にとって、それらの中山間地域の問題解決型のソーシャル・ビジネスを創業モデルを構想したらどうか、との問題提起がおこなわれた。これらの問題解決には、財政制約のなか、行政によるサービスの縮小が余儀なくされている現状をみると、ここに直面する課題に取り組み、ここにしかないビジネスを推進・支援するという「ソーシャル・ビジネス」を振興してゆく必要がある。ひとつには地域資源を生かした産業の創出として、この農・商・工連携や桑茶の生産・加工・販売の事例のような独自の第6次産業化、自然エネルギーやバイオマスなどの環境産業の創出支援ということがある。また二つには、地域の課題である高齢者の暮らしを守り、安全安心のまちづくりを行うということ、こうしたNPO活動を含めた地域おこしを支援する、三つには仕事を兼業というよりも目的意識的に複業化すること、たとえば炭焼きや農業支援員の収入を合計して地域で暮らす、ということも考えられる。このようなソーシャル・ビジネスをそだてる仕組みづくり（資金、人材育成等）が課題である。地域の直面する課題こそビジネスとなるという観点から持続性のある収益をあげうるビジネスが育つことが定住促進策ともなる。

### 3) 地域健康づくり運動とコミュニティの活性化

浜田市のA地区では地域健康づくり運動を公民館を拠点にして、ひろげ、それをテコに放置すれば衰える地域コミュニティの活性化に取り組んでいる。「住民主体の健康づくり」ということである。地域の振興計画の一環として健康なまちづくりを盛り

込み、「主体性が芽生え、発展できる地域づくり」、「してもらおう地域づくり」から「してゆく地域」への意識の変化を促進することが大切である。また、まちづくり推進委員会がそのなかで立ち上がっている。このような動きは行政のなかでは、それまで連携がかならずしも容易でなかった各課においての連携がすすみはじめている。

### (3) 地域情報化の促進支援について

地域構造の変化、家族構造の変化、そして市町村合併や広域移動の日常化などで、もともとあった地域のつながりが弱化している。そのなかで、新たな地域での「つながり」を回復しつくりだすために、現代的な技術手段ともいえる情報化技術を利用することは地域でのひとつの課題である。ケーブル・テレビや地域でのマスコミ・ミニコミを生かして地域社会の人々の連携を新たにむすびつけ、地域公共空間を再形成してゆくという課題がある。

「いわみケーブルテレビ」は最初は難視聴地域対策として発足したが、その後地域のコミュニティ単位での情報共有が行えるという役割を重視し、地域と地域をつなぐ「コミュニティ・チャンネル」としてマスコミとのすみ分けをはかり独自の役割を果たすようめざしている。独自の番組制作をおこない、毎日定時放送をおこなっており、その番組のいくつかは大きなヒットをえて、全国レベルの番組評価制度からも表彰を受けている。青年会議所の支援をえて地域の産業活動や観光の紹介もおこなっている。小・中学校、幼稚園・保育園活動の紹介も行っているが、二つの高等学校については、番組の制作についても協力をえて、連携して放映をしており、大学のいくつかの講演会についてもそうした協力をえている。そのほか、「地域の良さ」「地域の宝」をお互いに知り合い、つなぐ役割をもっと重視すべきだ。大学を生涯学習支援としてもっと活用してゆくことも可能ではないだろうか。島根県の情報政策課のサイト・ツールを使った地域製品のネット販売も効果がある。新聞の情報教育支援（NIE）にも役割がある、などの有益な意見がだされた。

また、現状ではいまだこの地域に関する情報化は情報収集・紹介という点でも不十分だし、その情報提供も個別バラバラで、地域情報として利用し・共有しにくい面がある。もっと有効活用してゆけるようなプラットフォームづくりということも課題となるのではないか、との指摘もあった。

学生や住民のグループによる独自の映像制作（学生ディレクターづくり、住民ディレクターづくり）という地域運動をおこなっている地域があるとの紹介もあった。

### (4) 学生活動と地域との交流・支援のあり方をめぐって

今後の対応すべき課題として、学生及び研究会会員から以下のような意見がだされた。

- 1) 学生の参加や活動を希望する市民団体・自治体・企業等の情報を提供について、

もっと拡充し(ホームページ等)、参加しやすいようにする。また学生の側からも参加したい活動領域について、情報を系統的にだせるようにすること(ニーズとシーズのマッチング)の仕組みを改善する必要がある、との意見がだされた。

今回配付された学生の部活動、サークル活動一覧の資料によって、はじめて活発な学生活動があることがわかった。このような情報も地域では是非ほしいところだ。

全体として相互の広報活動がさらに拡充されるよう期待したい。

2)学生ボランティアを求める地域からの要請について、たとえば学生の一方的負担になりかねない現状に対して、交通手段の提供について(基本的には要望者による用意)ルール化するなどのガイドラインが必要である。むずかしければデマンド・バスや市のバスサービス提供も望ましいことだ。

3)地域活動地域社会活動・ボランティア活動する学生等に事故が起きた場合、傷害保険による医療保障を行う必要がある。現行では登録された部活・サークル以外の活動についてはあるものの、さまざまな任意のボランティア活動についてはまったく保障がないので、早急に制度として整備することが望まれる。

4)学生ボランティアについて送迎手段がない場合、現地に往復するための交通実費については、相手側負担を原則としつつ、学生が適宜うけとれることができるようにするのがのぞましい。

5)市民からの意見としては、手伝いや作業などの実務や労働がともなうことが大半なので、報酬とはいえないまでも有償ボランティア(法定最低賃金)程度のものはうけとれるようルール化したらどうか、との意見もいただいた(学生は生活費等のためにアルバイトをしているものも多いので)。

さらに、地域に不可欠な社会サービス活動を学生が担っている現状に即して、一律安価なコストというのではなく、正当な「対価」づけがあってもよいのではないかと(すでにそのことを実施している団体もある)。

6)逆に、学生活動についての市民団体や企業からの支援をいただいた場合には、「いただきっ放し」というのではなく、報告書の送付や礼状を送るなど市民的ルールを学生が身につけるようしてもらいたいとの注文もあった。事務所、企業での職場体験活動・インターンシップについても同様である(大学からの礼状はいただいているが)。

7)公民館を拠点にして学生の地域活動をもっとひろげることはできないか、あるいは学生民泊をもっとすすめてゆければよい、との意見もあった。

## (5) 石見アイデンティティの確立をめぐる

「出雲」については、イメージがあり、文化・歴史・産業・観光を貫く、地域の「強み」となっている。つまり地域の魅力・観光・産品を含めた「ブランド」ともなっており、文化発信力、産業競争力、地域の競争力の源泉でもある。それに対比すると、石見については残念ながらそのようなイメージが乏しい。他方、石見というアイデン

ティティを問われても、必ずしもはっきりしない、地域の「誇り」というものがやや希薄ではないか、という意見がある。もともと石見というのは、大田、石見銀山、江津、浜田、益田というように、川や山で仕切られ、横の繋がりが乏しい、という見方もある（結果として、「地域の特性を活かし切る知恵とそれに裏づけられた粘り強い自己主張の不足、それと幅広い連帯の欠如」という田中義昭氏の指摘もある）。

そして東部地域に対してみても人口急減は殊に西部地域で懸念されている。交通手段が発達し短時間で地域内を移動できるようになっているにもかかわらず、地域としてのまとまりが乏しく、そのため文化や産業の集積度がひくい。このことは地域の衰退をふせぎ、地域の持続可能性を高めていく必要がある、という点からみても問題である。

あらためて石見のアイデンティティとは何か、これを考え確立していくことは、地域の唯一の大学、しかも文科系大学として大切なテーマであるかもしれない。つまり、行政上の必要からだけでなく、なによりも「地域の誇り、地域の文化、そして地域の価値」として考えてゆくべき主題ではないだろうか。

このような問題意識をもつとき、あらためて問い直してみれば、むしろ石見の個性・文化・歴史には大きな文化資本としての価値があることが再発見される。地域をつらぬく特性・共通性あるいは共通する文化・歴史資源がある。それも古代から現代にいたる長期的スパンにおいても全国的にみて誇れるものがある。

「いわみ人」としてみれば、古代の柿本人麻呂、中世の雪舟、近代では西 周、森 鷗外、島村抱月、能見 寛のほかにも多くの芸術家・文化人を輩出している。殊に柿本人麻呂は国内外で著名であり、出生地・終焉地については諸説があるが、石見の地で活動し、7世紀末という時代において、世界でみても稀な高い文化性ある多数の詩(短歌・長歌)をつくっている。海外の研究者も多数いる。日本人の歌聖の二人、つまり松尾芭蕉とならぶ詩人を地域のアイデンティティとむすびつけることは、ラフカディオ・ハーン以上の可能性があるともいえるのかもしれない。画僧・雪舟は広く中国地域にまたがり活躍した中世の文化人、知識人である。

グラントア、雪舟記念館、石正美術館、世界子ども美術館、アクアス、今井美術館、石見銀山周辺の文化遺産を連結することもできる。佐々田懋<sup>つとむ</sup>氏のような戦前期をつらぬく全国でも著名な指導的財界人もでている。

いわみの歴史文化研究については、情報蓄積として『郷土 石見』という三十年近く発行を続けてきた同人誌があり、高い水準を維持し、論証力（出典明示）の高い文献が多い。これらを活用してゆくことができる。

島村抱月という劇作家・演出家の伝統を生かし、石央文化ホールを軸に、歴史上の人物を脚色し、現代化し、市民参加の力で活動していることも特記されることである。

小学校から大学までもっと地域の文化や伝統を教育に取り入れる努力が求められる。文化資源を観光資源などに「つなげる」ことができる。石見地域はもっと横に連

携すべきではないか。以上のような討議が行われた。

#### 〔四〕 研究会活動からえた若干の認識と結論

島根地域の現状を地域分析に関する認識と地域活性化という政策視点からみると、以下のような課題がある。殊に本学の浜田キャンパスが所在している石見地域についてみると、かなり困難な課題を直視せざるをえないこととなる。

##### 地域が直面する諸課題

まずは、全国一の高齢化率からくる人口の自然減に加えて、雇用・就業機会が乏しいために社会減が進行してしまうという懸念がある。人口推計によれば、これからの20年の間に自然減だけで人口は現在の8割に減ってしまう、ということなのである。「縮小地域」を直視して、これからの地域のあり方を考える必要があるということである。いいかえればこのような現実をふまえた産業・地域振興が急務であるといえよう。

そのとき、石見地域を念頭におけば、問題はこのような困難が存在しているということについても(「危機感をもつ」)情報を共有し、系統のかつ長期的視点でそれに粘り強く取り組むべきだという共通認識をより早く確立すべきだということである。中央依存あるいは県依存の志向を脱却して、自立して地域を再形成してゆくという思考が大切である。西部にある島根県の諸機構(西部県民センター、農林振興センター、水産事務所、市町村の行政機構、商工会議所・商工会、農業技術センター、水産技術センター、産業技術センターや高等技術校、農業大学校と市町村レベルの各機構がより密接に連携してゆくことがまず望まれる。民間の企業・事業所は自前の力を高めるべくそれらの機関を活用し、協働して、地域課題に系統のかつ長期的に取り組む必要がある。官と民の間で、そして行政領域の各機関は個々別々に活動するのではなく、地域活性化のために相乗効果をいかにして発揮できるのか、という問題意識を共有することが望まれる。

産業振興という視点からみれば、この地域の事業所や自営業を含む産品は、市場から求められる定量規模・定時の供給というニーズからみれば個別には小規模で不規則の供給という不利さがある。これに対して、基礎自治体の枠を越えて、まずは業者相互・地域相互の産業情報を共有し、それを踏まえた広域連携・協力が有効な対策となりうる。まずは情報を蓄積し共有すること、そしてその産業活動・社会活動を担う産業人材を長期的視点にたって育ててゆくという忍耐強い産業振興策がもとめられている。

## 大学と地域政策支援の役割—新たな地域公共空間の創出への貢献

島根県西部の浜田キャンパス(文系大学・総合政策学部)に焦点をあて、以上のような現状認識をふまえると、以下のような大学としての役割、島根地域政策支援のあり方が求められているといえよう。

まず第一は、このような各分野にわたる地域情報を集積し、総合して議論を行う「場」として大学の役割があるのではないかという点である(地域の到達点・課題の客観的観察視点の提供と可能性への支援)。地域のあり方を、本研究会でおこなわれたように自由な立場から、公と民の区別、工業と農業、社会活動と経済活動、文化活動と教育活動という通常の区分をこえて、「地域の活性化」を軸に知恵をあつめ、新たな人的交流のネットワークを形成してゆくということがある。これは、あるいは本来的には行政機構の役割ともいえるであろうが、そうした機運が高まるまでは、大学はその支援・応援舞台としての役割をはたしうるかもしれない。その前提となるのは、大学が地域に対して「開かれ」ているということである(大学として「開く」そして「繋ぐ」役割その1、「協働する」)。

第二には、現代社会での「産・公・学」を新たにむすびつける「触媒剤(CATALYZER)」の役割がある。現代の21世紀の産業活動・社会活動は、知識基盤型社会とか知価社会ともいわれることが背景となって、「産・公・学」の連携に以前にはない意義をもつ局面が増しているとされる。そのなかで、大学はその「触媒剤(CATALYZER)」としての役割(溝口知事、経済同友会・産官学連携フォーラムでの発言)をつとめうる可能性があるということである。すなわち、近年、産業振興のために行政機構が「場」を提供し、異業種の事業所を集めた「インキュベーション・ルーム」をおくことで成果をもたらすという手法をとっているが、それにつながる意味があると考えられる(「創造する機能」、「協働する」役割)。

第三に、このことはいわみ地域のように、民間企業間においても地域内の連携・協力が円滑でなく、交流に加速度がついてこなかった各地域産業をむすびつけ、新たな地域的まとまりをつくる、産業人・行政マンのコンタクト・ポイント(出会いの「場」)を構築する。そうした新たな地域形成・統合に有益な役割をはたすということもできる(「繋ぐ」役割 その2)。

第四にこのことは、行政機構についてなお求められていることであるが、県と市町村、そして各行政機構のなかでの分野間の連携をすすめる、地域力を発揮する際に、頼りにもなりまた行政区域を越える社会や市場の要請からみれば「壁」ともなっていた、基礎自治体の力を連結して「つないでゆく」ことを促進する。つまり地域間協力を促進し、その意味で「新たな地域共同空間」をつくりだしてゆくことを支援する機能もあるということである(「繋ぐ」そして「創造する」機能)。

第五に、これを大学の機能のあり方と関連させると、「教育の場」としての大学の

機能については、地域において学生が問題発見し問題解決にアプローチすることを学び考えること、これを初年次から卒業研究まで一貫して学んでゆく。体験学習を含めて地域という立体的で動いている舞台を素材にして社会科学・人文科学を駆使した総合政策学部にあふさわしい「学びの場」とする。

「研究の場」としての大学の機能については、同様に社会科学・人文科学のみならず環境科学を含めた総合的・学際的・先端的研究の場として地域研究の諸課題に取り組むことができる。

この二つをむすびつけ、地域産業人材育成・地域人材育成などの「社会人学び直し」、「高度職業人教育」を大学院レベルにおいても進めよう。

またさらにこれを大学の地域連携活動に関連させていけば、地域連携活動と地域政策研究活動は一体の不可分の関係にあるということである。

以上を簡略にまとめれば、本学は、21世紀の知識基盤型社会の要請、社会変動・技術変化に対応して、能動的に現代的な地域課題に向き合い、解決にむけて挑戦するための「知」の拠点、「場」となりうる。「触媒剤(CATALYZER)」としての役割を果たすことが可能であり、またそのことが地域社会からも求められているのではなかろうか。「地域に開かれ」、「地域と協働する」ことで、島根地域の活性化をめざし「新たな公共空間」を構築することに貢献しうる。そのような意味において、島根地域政策への大学としての支援の可能性・役割がある、ということである。

それは島根地域の「新たな地域公共空間」を創出すること(そのための知的公共財としての役割)に貢献してゆくことにほかならない。

## 公立大学法人島根県立大学と浜田市との連携協力に関する協定書

### (目的)

第1条 この協定は、公立大学法人島根県立大学と浜田市とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

### (協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

### (協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

### (有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成20年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成19年5月18日

公立大学法人島根県立大学  
理事長

宇野重昭



浜田市  
浜田市長

宇津徹男



## 松江市と公立大学法人島根県立大学との連携協力に関する協定書

### (目的)

第1条 この協定は、松江市と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

### (協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

### (協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。また、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

### (有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成21年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

平成19年10月30日

松江市

松江市長

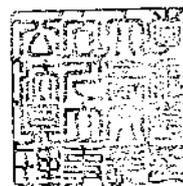
松浦正敬



公立大学法人島根県立大学

理事長

宇野重昭



# 出雲市と公立大学法人島根県立大学との連携協力に関する協定書

## (目的)

第1条 この協定は、出雲市と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

## (協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

## (協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。

## (有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成22年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

平成21年10月8日

出雲市

公立大学法人島根県立大学

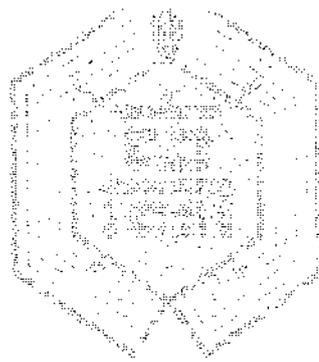
出雲市長

長岡秀人

理事長

本田 雄





## 島根県立大学と島根県立浜田高等学校との高大連携に関する協定

島根県立大学と島根県立浜田高等学校とは、次のとおり合意する。

- 1 島根県立大学と島根県立浜田高等学校とは、相互の教員・職員・学生・生徒が連携して「魅力ある大学・高等学校づくり」を推進することを目的とする高大連携事業を実施する。
- 2 この協定に基づく具体的な連携事業は、島根県立大学と島根県立浜田高等学校の協議を経て決定する。
- 3 本協定は、島根県立大学学長及び島根県立浜田高等学校校長による調印の後その効力を生じ、3年間の有効期間を持つものとする。本協定は、有効期間が終了する6ヶ月前までに、島根県立大学、島根県立浜田高等学校のいずれか一方が、相手方に終了または改正を希望する旨を書面により意思表示しない限り、更に3年間有効期間が更新されるものとする。

平成16年11月18日

島根県立大学

学 長

宇野重昭

宇 野 重 昭

島根県立浜田高等学校

校 長

三浦正樹

三 浦 正 樹

## 島根県立大学と島根県立江津高等学校との高大連携に関する協定

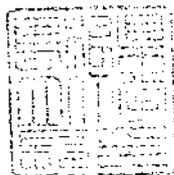
島根県立大学と島根県立江津高等学校とは、次のとおり合意する。

- 1 島根県立大学と島根県立江津高等学校とは、相互教員・職員・学生・生徒が連携して「魅力ある大学・高等学校づくり」を推進することを目的とする高大連携事業を実施する。
- 2 この協定に基づく具体的な連携事業は、島根県立大学と島根県立江津高等学校の協議を経て決定する。
- 3 本協定は、島根県立大学学長及び島根県立江津高等学校校長による調印の後その効力を生じ、3年間の有効期限を持つものとする。本協定は有効期間が終了する6ヶ月前までに、島根県立大学、島根県立江津高等学校のいずれか一方が、相手方に終了または改正を希望する旨を書面により意思表示しない限り、更に3年間有効期間が更新されるものとする。

平成19年6月1日

島根県立大学

学長 宇野重昭



島根県立江津高等学校

校長 尾村幸行



## 島根女子短期大学・松江商業高等学校・湖南中学校の 三者連携に関する協定書

島根県立島根女子短期大学、島根県立松江商業高等学校及び松江市立湖南中学校の三者は、次のとおり合意する。

- 第1 島根県立島根女子短期大学、島根県立松江商業高等学校及び松江市立湖南中学校は、相互の教員・職員・学生・生徒が連携し、「より魅力あるキャンパスづくり」を推進することを目的とする三者連携事業を実施する。
- 第2 この協定に基づく具体的な連携事業は、三者で協議して決定する。
- 第3 この協定は、島根県立島根女子短期大学長、島根県立松江商業高等学校長及び松江市立湖南中学校長の調印の後その効力を生じ、その有効期間は3年間とする。
- 2 この協定は、有効期間が満了する日の6か月前までに、三者のいずれもが更新しない旨を他の二者に書面により通知しない場合は、さらに3年間有効期間が更新されるものとし、以後も同様とする。

平成18年11月 1日

島根県立島根女子短期大学

学 長 有 馬 毅 一 郎



島根県立松江商業高等学校

校 長 月 森 泰



松江市立湖南中学校

校 長 曾 田 秀 雄



## 島根女子短期大学・乃木小学校・幼保園のぎの 三者連携に関する協定書

島根県立島根女子短期大学、松江市立乃木小学校及び松江市立幼保園のぎの三者は、次のとおり合意する。

第1 島根県立島根女子短期大学、松江市立乃木小学校及び松江市立幼保園のぎは、相互の教員・職員・学生・児童・園児が連携し、地域の教育力を高め、より良い教育環境づくりを推進することを目的として、三者連携事業を実施する。

第2 この協定に基づく具体的な連携事業は、三者で協議して決定する。

第3 この協定は、島根県立島根女子短期大学長、松江市立乃木小学校長及び松江市立幼保園のぎ園長の調印の後その効力を生じ、その有効期間は3年間とする。

2 この協定は、有効期間が満了する日の6か月前までに、三者のいずれもが更新しない旨を他の二者に書面により通知しない場合は、さらに3年間有効期間が更新されるものとし、以後も同様とする。

平成19年 3月 7日

島根県立島根女子短期大学

学 長 有 馬 毅 一 郎



松江市立乃木小学校

校 長 山 崎



松江市立幼保園のぎ

園 長 狩 野 由 美 子



## 島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）出前講座の

### 収録・放送に関する覚書

公立大学法人島根県立大学（以下「甲」という。）と石見銀山テレビ放送株式会社（以下「乙」という。）とは、乙が島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）の出前講座の収録、放送を実施するにあたり、次のとおり覚書を締結するものとする。

#### （事業内容の分担）

第1条 事業内容の分担は以下のとおりとする。

- （1）甲に所属する職員は、出前講座の台本及び資料を作成する。
- （2）乙は甲に所属する職員が作成した台本をもとに番組を収録し放送する。
- （3）乙は番組収録に係る著作権使用許可等の必要な諸手続をすべて行う。
- （4）乙は作成した番組をDVDに出力し、甲へ受け渡す。

#### （本覚書における出前講座の定義）

第2条 本覚書における出前講座とは、甲乙協議の上で定めた主題について、甲に所属する職員が企画構成する講座とする。

#### （事業に関する経費）

第3条 事業に関する経費については以下のとおりとする。

- （1）出前講座経費 出前講座に関する経費はすべて甲が負担する。
- （2）収録放送経費 収録・放送に関する経費はすべて乙が負担する。

#### （著作権の取扱い）

第4条 作成した番組に関する著作権は甲乙が共有する。

- 2 作成した番組を甲乙が非営利目的で使用する場合は相互の許可は不要とする。

#### （協議）

第5条 この覚書に定めのない事項については、甲乙協議の上これを定めるものとする。

(有効期間)

第6条 この覚書の有効期間は、覚書締結の日から平成22年3月31日までとする。ただし、この覚書の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この覚書の締結を証するため、本覚書を2通作成し、それぞれ記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成22年2月4日

甲 島根県浜田市野原町2433番地2  
公立大学法人島根県立大学

理 事 長

本田 雄



乙 島根県大田市大田町大田口 1089-4  
石見銀山テレビ放送株式会社

代表取締役

杉谷 雅祥



## 大学の地域連携

### 島根県立大学憲章(抜粋)

島根県立大学は、地域に開かれた大学として、その保有する豊かな知的資源を活かし、個性的で実践的な地域研究を市民や学生と連携しながら推進し、また、地域活動に積極的に参加することによって、地域に貢献する大学となることをめざす。

## 地域連携推進センターの役割

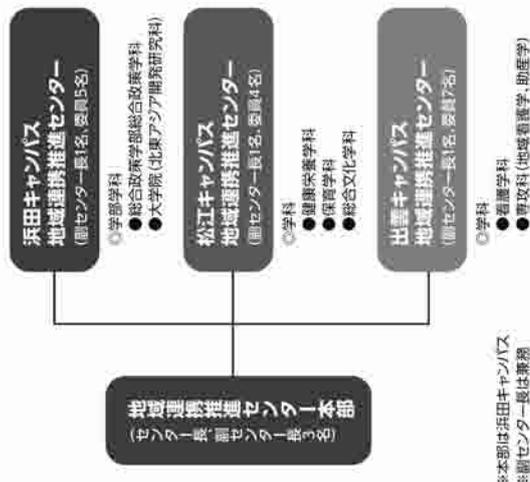
大学が地域社会との連携を深め、地域活性化に貢献していくために設けられた、地域と大学をつなぐ総合窓口です。

[主な業務]

- ① 地域からの要望・相談対応窓口
- ② 公開講座などの生涯学習の企画
- ③ 受託研究など産学連携の調整

## 地域連携推進センターの組織図

(H22.3.1現在)



## お問い合わせ先



### 浜田キャンパス地域連携推進センター

〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2  
TEL:0855-24-2201  
FAX:0855-24-2208  
E-mail:tkiki@admin.u-shimane.ac.jp



### 松江キャンパス地域連携推進センター

〒690-0044 島根県松江市民会館24-2  
TEL:0852-26-5525  
FAX:0852-21-8150  
E-mail:hiru@u-shimane.ac.jp



### 出雲キャンパス地域連携推進センター

〒693-8550 島根県出雲市西木町1151  
TEL:0853-20-0200  
FAX:0853-20-0201  
E-mail:www@izm.u-shimane.ac.jp

## ホームページアドレス

<http://www.u-shimane.ac.jp>

※ホームページの「地域連携推進センター」タブをクリック!

公立大学法人 島根県立大学

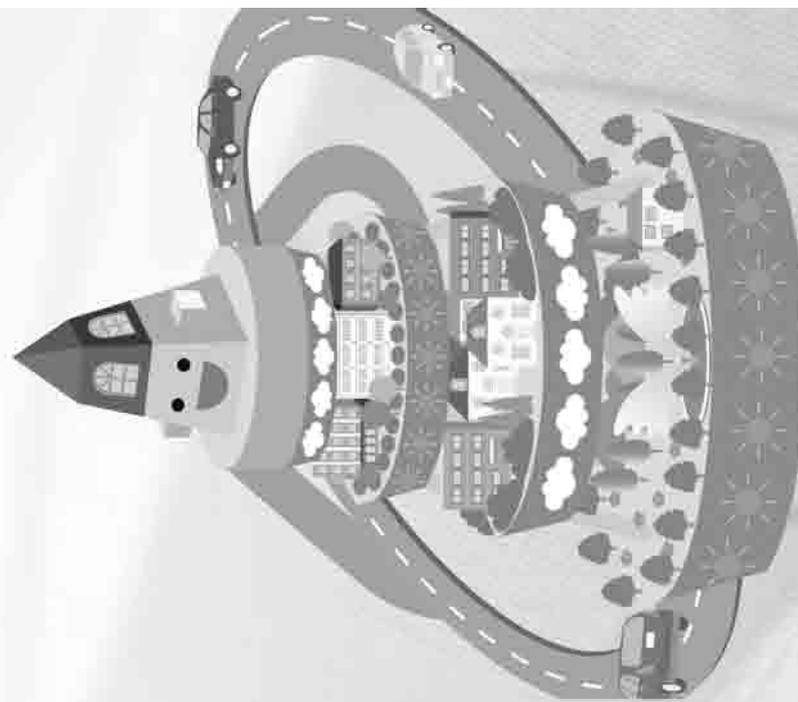
# 地域連携 推進センター

県立大学と一緒に(協働して)取り組んで

みたいことはありませんか?

まずはお気軽にご相談ください。

※お問い合わせ先:裏面参照



地域と共に あなたのそばに...

THE UNIVERSITY OF SHIMANE  
公立大学法人 島根県立大学

## 浜田キャンパスの地域連携

### 生涯学習活動への取り組み

- ①公開講座、出張講座の実施
- ②北東アジア地域研究しまね県民大学院 (NEARカレッジ) の開催
- ③現代しまね学・入門(公開授業)の開催

### 教育研究活動への取り組み

- ①各地域での実践活動  
※棚田の活用、銀山街道の調査、石見の産業振興等
- ②自治体等からの受託研究、共同研究
- ③NEARセンターの市民研究員制度
- ④地域貢献プロジェクトの実施  
※西周研究、石見地域文化研究等

### その他の取り組み

- ①各種ボランティア活動への参加  
※個人、団体、サークル単位で実施
- ②留学生の各種国際交流イベントへの参加
- ③学生による中学校での学習支援
- ④教員による公的機関の委員等への就任



中山間地域での実践活動の様子



中学校での学習支援の様子

## 出雲キャンパスの地域連携

### 生涯学習活動への取り組み

- ①公開講座、リカレント講座の企画・実施
- ②社会教育・生涯学習を目的とした各種セミナー等の企画・運営

### 教育研究活動への取り組み

- ①受託/共同研究等の受入れ  
出雲市との介護予防教室事業等
- ②学生の地域貢献活動支援
- ③施設見学、福祉体験学習等の受入れ

### 地域連携コーディネーター

出雲キャンパスでは地域の皆さんからの相談窓口として6つのコーディネーターを設置しています。

- ①地域文化貢献活動に関すること
- ②リカレント講座に関すること
- ③受託/共同研究に関すること
- ④地域振興・地域交流に関すること
- ⑤学生による地域貢献活動に関すること
- ⑥大学の設備・施設の活用、視察、見学等に関すること



出雲の自主グループの福祉体験学習の様子



学生が中心とした自主活動によるボランティアの様子

## 松江キャンパスの地域連携

### 生涯学習活動への取り組み

- ①公開講座「権の道アカデミー」の開催  
※本学教員によるシリーズ公開講座  
※他の公的機関との連携企画講座
- ②リカレント講座の開催  
※専門職(栄養士・保育士・幼稚園教諭等)向け

### 教育研究活動への取り組み

- ①各地域への活性化支援  
※大学教育改革事業における地域との連携
- ②自治体等からの受託研究、共同研究  
※健康栄養学科における食品関係受託研究等
- ③教育機関との連携事業  
※幼保園のぎ・乃木小学校・湖南中学校・松江商業高校との協力協定に基づく事業  
※県内高校の見学受け入れと交流

### その他の取り組み

- ①学生による各種ボランティア活動への参加  
※個人、団体、サークル単位で実施  
※放課後子どもプランの協力ボランティア  
※島根県学生支援員事業の協力ボランティア等
- ②教員による公的機関の委員等への就任



公開講座「瀬戸物入門」の様子



島根県立美術館での「読み聞かせ」ボランティア

お問い合わせ先

浜田キャンパス

〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2  
TEL : 0855-24-2396 FAX : 0855-24-2208  
E-mail : tiiki@admin.u-shimane.ac.jp

松江キャンパス

〒690-0044 島根県松江市浜乃木7-24-2  
TEL : 0852-26-5525 FAX : 0852-21-8150  
E-mail : tiiki@matsue.u-shimane.ac.jp

出雲キャンパス

〒693-8550 島根県出雲市西林木町151  
TEL : 0853-20-0200 FAX : 0853-20-0201  
E-mail : www@izm.u-shimane.ac.jp

---

公立大学法人島根県立大学  
地域連携活動報告書

平成21年度 年報 第2号

---

編集・発行

島根県立大学地域連携推進センター  
〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2  
TEL : 0855-24-2396 FAX : 0855-24-2208  
E-mail : tiiki@admin.u-shimane.ac.jp



THE UNIVERSITY OF SHIMANE  
公立大学法人 島根県立大学